

九 青島税関ニ日本人職員ノ任用問題ニ関スル件	五五二
一〇 中日実業株式会社ニ関スル件	五九一
附 朝日商会	
一一 漢冶萍公司借款ニ関スル件	六四五
一二 蒙古借款ニ関スル件	六六五
一三 新邱炭坑ニ関スル件	六七八
一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件	六九七
附 在本邦中国留学生問題	
一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂	八六五
附録 日本外交文書大正三年第二冊日附索引	

事項一 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件

一 一月十三日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

満蒙鉄道取極ノ議会議表ニ付差支ノ有無問合
ノ件

第二〇号

議会議ノ關係上満蒙鉄道取極ノ成行及其内容要領議會議ニ於テ
發表スルコトニ致度支那側ニテ差支ノ有無ニ付貴官ノ御見
込電報アリタシ

二 一月十四日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

満蒙鉄道取極ノ議會議表差支ナキモ成行發表

ニハ注意アリタキ件

第三九号

貴電第二〇号ニ関シ是迄通發表ノ義ハ支那側ノ好マサル所
ナルヘキニ付予メ打合スルトキハ不同意ヲ表スヘシト思ハ
ルルモ既ニ大要ハ世上ニ知レ亘リ居レルコトナレハ議會議ニ
於テ發表サルルハ差支ナカルヘシ但シ成行發表ニ付テハ對

一 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 一二三

議會議ノ御都合モアルコトナランガ今後細目取極ノ關係モ
アルニ付キ可成支那側ヲ embarras セサル様ニセラレタシ
尚支那側ニ對スル都合アルニ付發表ノ日取定リ次第電報ア
リタシ

三 一月二十六日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

満蒙鉄道ニ関シ葉交通次長ト会谈ノ件

機密第三六号 (二月五日接受)

大正三年一月廿六日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

客年十月満蒙鉄道ニ関スル協約成立ノ際兼テノ御訓令ニ從
ヒ四平街洮南線ヲ第一ニ着手スヘキ件ニ関シ葉交通次長ト
一応協談ニ及ヒタル次第ハ同月七日付機密第三五七号末段
中ニモ一言致置候処其後周交通總長ノ名ヲ以テ四平街洮南
線ヲ第一ニ起工スル事ハ異存ナキニ付茲ニ之ヲ通知スルト

一

同時ニ葉次長ノ報告ニ拠レハ奉天吉林一帶ニ於テ若シ支那官民カ自國ノ資本ヲ以テ地方的交通ノ便ヲ計ルタメ鐵道ヲ敷設セントスルモノアル時ハ本使ニ於テ出来得ル丈条約上ノ規定ヲ広義ニ解釈スルコトニ同意シタル趣ナリトテ謝意ヲ表シ且其旨夫レ々々へ通牒シ置キタリトノ意味ヲ申来リタルニ付(右公文写ハ当館ニ保存シ在ル筈ナルモ只今見当ラス見当リ次第追送可致候)本使ハ此ニ對シ前段ノ趣ハ承知セシモ後段ノ趣ハ本使ノ談話ト大ニ趣旨ヲ異ニセリ抑滿蒙鐵道ニ関シ交渉ノ當時葉交通次長ヨリ地方ノ人民(官民ニアラス)ニ於テ自己ノ資本ヲ用テ短距離ノ鐵道敷設ヲ希望スル向モアルヘク右ハ交通ノ便ヲ増ス次第ニ付本使ニ於テ異存ヲ唱ヘタル、事ナキ様希望ストノ談話アリタルニ因リ本使ハ日本政府ニ於テモ徒ラニ地方開發ヲ妨碍スルノ念慮ナキモ去リトテ条約上ノ規定ニ反スルコト即チ滿鐵線ト平行スルカ或ハ滿鐵ノ利益ヲ害スルカ如キ線路ハ之ニ同意シ兼ヌル次第ナリト答ヘ更ニ實際何地ニ敷設セントスルノ計畫ナリヤト質問セルニ葉ハ何等具體的ニ決定シ居ルモノナキモ要スルニ単ニ一局部ノモノニ過キサルカ故ニ余リ条約上ノ規定ヲ固守セラレサル事ヲ希望スト答ヘタルニ付本

本件其他滿蒙鐵道問題ニ関シ左ノ談話ヲ交ヘ候

(第一) 奉天海竜ト撫順線トノ并行問題ハ別トシテモ既定ノ開原海竜線トハ余リ接近シ居ル故到底兩立スルノ望ナキノミナラス奉天總領事ヨリ送附シ来リタル開原西豊間輕便鐵道敷設ニ関シ奉天都督ヘ呈出セル願書(大正二年十月二十三日附奉天總領事本件報告参照)ニ拠レハ奉天海竜線ハ工事頗ル困難ニシテ巨額ノ敷設費ヲ要スル事開原海竜線ノ比ニアラサルノミナラス經過スル地方モ物資少ク經濟上甚タ不利益ナリトアリ夫レ等ノ点ニ就テ如何ノ意考ナリヤト云ヒタルニ彼云ク奉天海竜線ハ追テ吉林ニ延長スルノ考ヘニテ左スレハ奉天ヨリ直接吉林ニ連絡スルコト、ナルノ便利アリト地方人民ニ於テ認メタル次第ナルカ政府ニ於テモ最初ヨリ一定ノ成見アルニ非ス地方人民ニ對シテ其企画ニ反對スヘキニモアラスト思考シタルニ過キス当今ハ此等ノ問題ニ就キ地方人民モ強テ要請スル所ナキヲ以テ目前ニ之ヲ解決スルノ要ナシ追テ其必要ノ時機到達シタル上何分ノ御協議ニ及フ事ニ致度シト云ヘリ

右ハ客年十月三日附貴電第五二六号ヲ以テ陸軍側ニ於テ奉天起点ヲ希望スルニ付「奉天又ハ開原ヨリ海竜城ニ至ル」

使ハ如此事ハ空漠ニ論議スヘキモノニ非ス具體的ノ計畫ヲ見テ始メテ差支ナキヤ否ヲ明言シ得ヘシ若シ支那政府ニ於テ縱ヘ個人ノ計畫ナリトモ勝手ニ之ヲ許可スル事トナレハ又シテモ法庫門鐵道ト同様ノ面倒ヲ生スヘシ就テハ右様ノ鐵道ヲ許可セラル、前ニハ予メ必ス本使ニ相談セラレン事ヲ希望ス然ラハ本使ニ於テモ濫リニ拒駁スルカ如キコトナカルヘシト述ヘタルニ葉モ必ス然カスヘシト答ヘタリ就テハ此趣意ヲ明記シテ回答スヘシト云ヒタルニ葉ハ之ヲ明記サル、事ハ迷惑ナリト云ヒタルモ右ハ實際ノ談話ニシテ他ニ回答ノ致シ方モ無之ニ付結局右談話ノ要領ヲ認メタル別紙回答案ヲ高尾書記官ニ托シテ葉ニ送り右ヲ其儘受領スルカ又ハ周總長ヨリノ公文ヲ撤回スルカ孰レカ其一ヲ択マシメタル処遂ニ同總長ノ送付セル公文ハ之ヲ撤回スルコトトナリタルカ其後葉次長高尾書記官ニ面会シ奉天地方ノ人民ニテ奉天ヨリ海竜城ニ至ル線ヲ敷設スルノ希望アリ然ルニ該線ハ撫順線ト并行スルニ付予メ本使ノ同意ヲ求メタシト云ヒタル由ニテ葉次長ノ意中ニ在リタルハ此線ナリシコト始メテ相分リタル次第ナルカ其後右ニ對スル回答ハ其儘ニ成リ居リタリ依テ本月(一月)十六日葉交通次長ニ面会シ

ト變更スル様致度云々御訓令ノ趣モ有之候ニ付本使ニ於テモ葉ノ意見通り他日協議ノ余地ヲ残シ置候就テハ追テ本問題再ヒ協議ニ上ル事モ有之ヘクト存候ニ付單ニ陸軍側ノ希望ノミニ限ラス帝國政府ノ確定意見ヲ承知致置度候ニ付篤ト御詮議ノ上御垂示相成候様致度候

(第二) 次ニ滿蒙鐵道線ニ就テハ支那側ニ於テ既ニ技師ヲ派シ各線路ノ調査ニ從事セシメラレタル趣ノトコロ右ノ調査ニ就テハ日本ノ技師ヲ加ヘテ之ヲ行ハサルトキハ後日意見ヲ異ニシ二重ノ手数ヲ煩ハスノ虞アルヘシト云ヒタルニ對シ葉次長云ク今回行ヒタル調査ハ單ニ踏査ノミニシテ極メテ大体ノ事ヲ取調ヘタルニ過キス何レ詳細ナル本測量ニ取懸ル場合ニハ無論日本ノ技師ニ仰カサルヲ得ス右調査ノ結果大体ノ事ハ略ホ判明セル積リナルカ其報告ハ目下調製中ニテ未タ完結ニ至ラス云々依テ其調査ノ結果如何ナル見込ナリヤト相尋候処開原海竜線ハ物資最モ豊富ニシテ利益多カルヘク其他ノ線路モ有望ナル見込ナリト答ヘタリ

(第三) 本使ハ更ニ転シテ日支合併ノ鐵道ニ関シテハ追々細目協定ノ時機ニ達スヘキニ付テハ尚未タ本國政府ノ訓令ニハ接シ居ラサルモ其当事者ハ多分正金銀行ナルヘシト云

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三

ヒタルニ葉ハ正金銀行ノ当事者タルハ余リ希望スル所ニアラスト云ヘルニ付此ハ不思議ノ事ヲ承ルモノカナ我方ニ於テ最初南滿鐵道会社ヲシテ出資セシメントノ意向ナリシモ貴國側ニ於テ表面同会社ノ出資ヲ希望セラレサル由ニ付特ニ正金銀行ヲシテ出資セシメントスルニ在リ其理由如何ト質問セルニ彼云ク正金銀行カ五國銀行団トノ契約アルカ為メ連帶ノ鉗制ヲ受クルコトナキヤヲ懸念スル次第ニシテ若シ正金銀行獨立ニテ出資シ自由完全ニ自己ノ意思通り事ニ当ルコトナランニハ何等差支ナシト答ヘタルニ付実業借款ト政治借款ニ関シテハ已ニ二ヶ月余前五國銀行団間ニ於テ全然此ヲ區別スルコトニ協定セラレタルヲ以テ其辺ニハ更ニ懸念セラル、必要ナシト弁明ヲ了ヘタルニ然ラハ正金銀行ニテモ差支ナキ次第ナリト答ヘタリ

(第四) 本使ハ洮南熱河線ノ件ニ談及シ本件ニ付「フレンチ」ヨリ質問ヲ受ケタルコトアリシカ本来昨年米國ハ支那ニ於ケル企業ヨリ手ヲ引キタル時ニ錦愛鐵道契約上ノ權利ヲモ拋棄シタルモノト考ヘ又支那政府モ洮熱線ヲ日本ト約束スル以上他ニ何等障害アルヲ認メ居ラレサルコトト考ヘ居リタルニ其契約今尙有効ノモノナリトセハ支那政府ハ

四

如何ニ之ヲ処セラル、積リナリヤト尋タルニ葉次長云ク元來錦愛線ハ支那政府ニ於テ其契約ヲ実行スルノ考ヘナシ但シ其契約丈ハ依然存在シ居ルノミ云々因テ本使モ深ク立入ラス話題ヲ他ニ轉シタルモ本件ニ関シテハ何レ其内改メテ御報道ニ及フ所可有之ト存候

(第五) 露國ハ昨年四五月頃松花江鐵道(哈爾濱附近ヨリ呼蘭城綏遠城等ニ至リ更ニ分岐シテ松花江等ニ至ル線路)ノ敷設權ヲ得タリトノ報道アリ其當時支那ノ各方面ニ尋合セタルモ何レモ之ヲ承知セストノ事ナリシカ近来ニ至リ更ニ確カナル報道ヲ他ノ方面ヨリ得タリ而モ該鐵道ノ契約タル借款契約ニアラスシテ鐵道敷設權其モノヲ与ヘタルモノナリト云ヘルガ事實如何ト尋ネタルニ葉次長ハ自分ノ知ル限りニ於テ全然去ル事ナシ東清鐵道ノ支線ヲ敷設セシムル如キ事ハ支那政府ノ斷シテ承諾スヘキ所ニ非スト答ヘタルニ付本使ノ聞ク所ニ拠レハ表面ハ東清鐵道ノ支線ニアラス露國ノ一会社ニシテ資金ノ一部ハ仏國会社ヨリ支出ストノ事ナリ若シ中央政府ニテ本件ヲ与知セサルコトナランニハ或ハ地方官ニ於テ締約セシニアラスヤト詰問セシニ葉次長ハ出資者カ露清銀行ニアラスシテ仏國会社ナリトハ不思議

滿蒙鐵道借款契約案近ク脱稿見込ノ件

第八八号

貴電第一四五号ニ関シ滿蒙鐵道借款契約案ハ先般來關係ノ向ト協議ノ上起草中ノ処今週中ニハ脱稿ノ見込ニ付本月末又ハ来月初旬ニハ貴官ヘ郵送ノ運トナルベシ

註 後掲三三三文書

六 三月六日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛

滿蒙鐵道借款細目契約案送付ノ件

附屬書一 右契約案

二 右契約案説明書

附記一 浦信鐵道借款契約英文案写

二 右和訳文

三 海蘭鐵道借款問題(政務局調)

機密送第六五号

滿蒙鐵道借款細目契約ノ協定ニ関シテハ客年貴電第一〇七一号ヲ以テ御稟申ノ次第モ有之旁横浜正金銀行ヲシテ本件當事者タラシムルコトニ決定シ往電第八八号ノ通り先般來大藏省側及正金銀行側トモ協議ノ上右細目契約案起草中ノ処

ナリ又地方官限りニテモ此等ノ契約ヲ締結スルコトハ中央カ之ヲ許可スルノ限りニアラス何等カノ誤聞ナルヘシト答ヘタルガ其談話振リハ少シモ隱蔽スル所アルカ如キ模様ヲ認メサリキ本使ハ談話ノ内ニ夫ハ事實無根トスルモ將來露國ハ北滿ニ於テ鐵道借款契約ヲ提議スルヤモ測ラレサル処其場合ニ於テ露國ハ多分東清鐵道ト同一軌幅ヲ要求スルナラント思考スル旨ヲ述ヘタルニ葉ハ夫ハ到底支那政府ノ承諾シ得ル所ニアラスト答ヘタリ

右御參考マテ取雜セ及御報道候也

四 一月二十九日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

滿蒙鐵道契約ノ大体ヲ議會ニ於テ公表スルヤ

モ測リ難キ旨予報ノ件

第五八号

滿蒙鐵道契約大綱ニ関シテハ議會ニ於テ何等質問提出セラ
ル、ヤ測リ難ク其場合ニハ該契約ノ大体ヲ公ニスル事止ヲ
得サルヘキニ付右御承知置アリタシ

五 二月十六日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 四 五 六

今般愈々脱稿致候ニ付公債發行額、利率、起工期、完成期等ハ尚未決定セサルモ不取敢右契約案別冊甲号ノ通茲ニ及御送付候間別冊乙号説明書参照ノ上篤ト御査閱相成度尚別冊契約案ハ今後我方ト支那側トノ間ニ於ケル鐵道借款契約ノ範例トモ可相成ト存候ニ付必要ト認メラル、ニ於テハ小田切正金取締役ノ意見ヲモ徵セラレ貴館ニ於テモ逐条十分研究ヲ遂ケラレ且特ニ御意見モアラハ至急当方ヘ御稟申相成候様致度將又右契約案中公債發行額其他未定ノ箇所ニ関シテハ決定次第早速何分ノ義可申進ニ付其上ニテ小田切取締役ヲシテ適當ノ機会ニ於テ支那政府当局トノ間ニ交渉ヲ開始セシメラル、様致度又別冊契約案ニ付テハ左記ノ諸点特ニ御承知置相成度候

一、長春洮南線ニ関シテハ客年往電第五二六号ヲ以テ申進タル通りノ次第ニ付同線建設ハ後廻シトスルコト、致度別冊細目契約案第二条ハ右ノ趣旨ニ出デタルモノニ有之候

二、線路起点ノ義ニ付テモ前記往電第五二六号陸軍側希望ノ次第アリタル処其後陸軍側ニ於テモ篤ト研究ノ結果右希望ヲ固執セサルコト、相成タルニ付線路ハ凡テ借款大

ニハ右連絡ニ関スル規定ハ之ヲ置カサルコト、致候本件連絡問題ニ付テハ適當ノ時期ニ於テ其弁法ヲ協定スルノ要可有之ニ付御含置相成度候
此段申進候也

追而貴館便宜上別冊契約案四部別ニ及添送候也

註1 日本外交文書大正二年第二冊六四二文書

2 同右六一八文書

3 同右六一九文書別電

4 浦信鐵道借款契約英文写及同和訳文ハ本文書ノ附記トシテ左ニ掲載ス

(附屬書一)

別冊甲号

滿蒙鐵道借款細目契約案

大正二年十月五日即チ中華民國二年十月五日ノ借款大綱ニ基キ大正 年 月 日即チ中華民國 年 月 日北京ニ於テ支那政府(以下政府ト称ス)ト日本国横浜正金銀行(以下銀行ト称ス)トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第一条 政府ハ銀行ニ 分利付政府金貨公債 円ヲ發行スルノ権限ヲ付与ス

本公債ハ大正 年支那政府 分利付鐵道公債ト称シ發行

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 六

網通リト為シ置クコトニ決定致候

三、別冊細目契約案ハ先般正金銀行側ヨリ提出ノ草案ニ必要ナル修正ヲ加ヘタルモノニシテ大蔵大臣及正金銀行頭取ノ正式同意ヲ經タル次第第二有之右契約案ハ客年十月五日本借款大綱取極第二項ノ趣旨ニ遵拠シ出来得ル限り浦信鐵道借款契約ヲ標準トシタルモ必要上多少変更ヲ加ヘタル箇所モアリ詳細ハ別冊乙号説明書ヲ参照相成度尤モ浦信鐵道借款契約原文ニ變更ヲ加ヘタル箇所ニ付支那側ニ於テ強テ同借款契約通りノ字句行文ト為サンコトヲ主張スルニ於テハ大体ノ趣旨ニ變更ヲ来サマル限り之ニ同意セラレ差支無之但シ其稍重要ナルモノニ付テハ一応当方ヘ請訓相成様致度尚契約案ニ関スル交渉結了ノ上ハ調印ニ先チ確定案当方ニ送付ノ上当方訓令ヲ俟テ調印ヲ了スルコト致度候

四、前記客年十月五日本借款大綱取極中ニハ南滿洲鐵道及京奉鐵道トノ連絡ニ関スルコトモ規定シアル処本細目契約協定当事者カ正金銀行タルニ顧ミ右ノ如キ事項ヲ細目契約案中ニ挿入スルハ甚奇異ノ感有之他面別冊契約案前文ニハ「借款大綱ニ基キ云々」トアルニ付別冊契約案中

ノ日ヲ以テ其日附ト為ス

第二条 本公債募集金ハ左記兩鐵道ノ建設ニ充ツルモノトス

甲、四平街ヨリ起リ鄭家屯ヲ經テ洮南府ニ至ル

乙、開原ヨリ起リ海竜城ニ至ル

政府ハ長春吉長鐵道停車場ヨリ起リ南滿洲鐵道ヲ貫越シ洮南府ニ至ル鐵道ヲモ亦銀行ニ由リテ發行スル公債ヲ以テ建設スルモノトス其金額其他ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第三条 本公債募集金ハ第二条所載甲乙兩鐵道建設費營業費及建設中ニ於テ仕払フヘキ本公債利子ニ充ツ

右建設ハ必ス本契約調印後 個月以内ニ起工シ凡ソ 年間ニ完成スヘシ

(第三条)

浦信第三条末項ニ規定セル如キ前貸ニ関スル事項ハ一切之ヲ削除シタルモ支那側ニ於テ強テ希望スルニ於テハ海關第十五条第一項及第三項ニ倣ヒ左ノ簡条ヲ挿入シ差支ナカルヘシ

「当事者双方ニ於テ本公債發行以前ニ前貸ヲナス必要ヲ認メタル場合ニ於テハ銀行ハ金 円ヲ超過セサル金額ヲ前貸スヘシ

右前貸金額及其利子ハ公債募集金中ヨリ最先ニ之ヲ控除スヘシ其利率ハ年 分ヲ超過セサルモノトス」

第四条 本公債ノ利率ハ額面金額ニ対シ一箇年百分ノトス

本公債ノ利子ハ半年毎ニ之ヲ仕払フモノトシ公債発行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ鐵道建設中ハ公債募集金又ハ其他ノ財源ヨリ完成後ハ先ツ本鐵道收入ヨリ次ニ政府ノ適當ト認ムル其他ノ收入ヨリ仕払フモノトス

第五条 本公債ノ期間ハ 個年トシ元金ハ公債発行ノ日ヨリ之ヲ起算シ 年目ヨリ其償還ヲ始ム

右償還ハ第六条ノ場合ヲ除キ本契約附表ノ通り年賦ニヨリ本鐵道ノ收入又ハ政府ノ適當ト認ムル其他ノ收入ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第六条 本公債発行ノ日ヨリ 個年ヲ經タル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場合ニ於テハ貳拾年目迄ハ額面百分ノ二半ノ割増即チ金壹百円ニ付金壹百零貳円五拾錢ヲ仕払フモノトス

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六個月以前ニ書面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

於テモ亦期日十四日前ニ之ヲ銀行ニ交付スヘシ

第九条 本公債ハ現在及将来ニ於テ本鐵道ニ属スル一切ノ動産及不動産竝本鐵道一切ノ收入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

第十五条 第一項ノ規定ニ基キ發行サルヘキ公債モ亦前項ノ動産不動産及收入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル
本公債ノ担保ハ前項以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

(第九條)

(第九條) 吉長、南滿等ニ倣ヒ元利金仕払遲滞ノ場合ニ於テハ銀行ニ於テ代テ經營ヲ行フ旨ノ明文ヲ置ク方可ナラサル乎

第十条 銀行ハ本公債金額ニ対シ銀行ニ於テ適宜定ムル額面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得其様式ハ銀行ニ於テ本鐵道局長又ハ日本駐割支那公使ト之ヲ協定ス公債証書ハ日支兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シ局長ノ署名及官印ヲ印写ス又日本駐割支那公使ハ公債証書發行迄ニ各証書ニ捺印シ並其署名ヲ之ニ印写シ以テ公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコト及政府ヲ拘束スルコトヲ証明シ銀行モ亦本公債發行取扱者トシテ其代表者ヲシテ証書ニ署名セシムヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七条 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前ニ第四条及第五条所載ノ元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日十四日前ニ必要ナル元金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ政府ハ日本ニ於テ金貨ヲ以テスル交付額相当ノ上海規銀又ハ銀行カ受入ルル貨幣ヲ在上海銀行ニ仕払フモノトス政府ハ其当日又ハ期日前六個月内何時ニテモ銀行ト右為替相場ヲ取極ムルコトヲ得

若シ政府カ特ニ右ノ目的ノ為支那ヨリ送金シタルモノニアラサル金資金ヲ日本ニ所有スルトキハ之ヲ前記仕払ニ充ツルコトヲ得

銀行ハ本公債元利金仕払ノ費用ニ充ツル為其取扱金額ニ対シ毎回千分ノ二半ノ手数料ヲ受クルモノトス

第八条 政府ハ本公債ノ元利金仕払ヲ無条件ニ保証シ本公債募集金又ハ本鐵道收入ニシテ本公債元利金仕払ニ不足ヲ告クルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ此場合ニ

シ 本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ

銀行ハ直ニ鐵道局長及日本駐割支那公使ニ通知シ其許可ヲ得テ新聞紙上ニ該証書ノ仕払ヲ停止スル旨ヲ公告シ且

關係國ノ法律習慣ニ從ヒ必要又ハ便宜ト認ムル措置ヲ執ルヘシ若シ該証書ニシテ銀行ノ定ムル期間内ニ發見セラレサルトキハ鐵道局長又ハ日本駐割支那公使ハ代証書ニ捺印シ之ヲ銀行ニ交付スヘシ右ニ要スル費用ハ公債証書所持人ノ計算ニ於テ銀行之ヲ仕払フヘシ

第十一条 政府ハ本公債証書竝利札及本公債元利金ノ受払ニ關シテハ本公債期間中一切ノ公課ヲ免除ス

第十二条 公債募集目論見書及元利金仕払其他ニ關スル詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ナキモノハ銀行ニ於テ日本駐割支那公使ト協定スヘシ

銀行ハ第十三条ノ規定ニ從ヒ本契約調印次第本公債募集目論見書ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ日本駐割支那公使ニ対シ必要ニ応シ銀行ト協力スルコト及本公債募集目論見書ニ署名スルコトヲ訓令スヘシ

第十三条 銀行ハ工事ノ計畫竝其進行ノ程度及市場ノ状況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分テ發行スルコトヲ得

政府手取額ハ發行手数料トシテ發行價格ヨリ額面ノ分ノヲ控除シタルモノトス

第十四条 本公債募集金ハ公債応募者ノ分割払込額及其期日ニ從ヒ在横浜銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ繰入ルルモノトス横浜ニ於ケル該勘定残高ニ對シテハ年分、支那ニ送金シタルモノノ残高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從ヒ利子ヲ付ス本公債募集金竝其利子ハ其中ヨリ鐵道建設中ニ於ケル本公債利子仕払及其取扱手数料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ局長ノ指圖ヲ待ツ局長ニ於テ金 円以上ヲ引出サントスルトキハ其引出期日十日以前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

公債募集金ハ建設工事ノ進捗ニ応ジ仕払ヲ要スル工事ノ性質及費用ノ証明書ヲ添付セル局長及會計主任連署ノ銀行宛仕払命令ニ依リテ之ヲ引出スモノトス

建設費毎月見積額ニ對スル資金ハ局長ノ請求次第上海ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鐵道ノ用途ニ

一タルヘシ

本鐵道完成後本鐵道局勘定ニ使途ヲ有セサル預金残高アルトキハ之ヲ第十七条ニ規定セル公債利子準備金勘定ニ振替ヘ以テ政府カ本契約ニ依テ義務ヲ負フ仕払ノ準備トス

第十六条 本鐵道ノ建設及管理ハ一切政府ニ於テ之ヲ行フモノトス

政府ハ本鐵道局長一名ヲ任命ス局長ハ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ依リ本鐵道ニ関スル事務ヲ行フノ全權ヲ有ス技師長ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ局長ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム技師長ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鐵道ノ測量設計及見積ヲナシ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ竝鐵道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ノ注文ヲナス技師長ハ技術部所要内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之ニ依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

技師長ハ局長又ハ副局長ヨリ内外專門技術員ノ任免及其事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ付与セラル

供セラルル迄在上海銀行ニ於ケル預金タルモノトス會計主任ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ本鐵道局長ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム

會計主任ハ會計部所要内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之ニ依リテ任命ヲ行フ會計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

會計主任ハ本公債期間内局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鐵道ニ關スル一切ノ収支ヲ管理シ且本鐵道ニ關スル支出ニ付一切ノ書類ニ副局長ト連署ス

本鐵道ニ關スル諸勘定ハ會計主任指揮ノ下ニ新式西洋簿記法ニ拠リ日支兩國語ヲ以テ記帳スヘシ

鐵道局ハ其營業開始後毎年度終了後ニ於テ日支兩國語ヲ以テ決算報告書ヲ刊行シ請求ニ応ジ之ヲ交付スヘシ

第十五条 本公債募集金竝其利子ニシテ建設中ニ要スル本公債利子ヲ控除シタル後本鐵道ノ建設ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス若シ尚不足ヲ告クルニ於テハ銀行ニ由リテ發行スル公債ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ本契約ニ於ケルト同

ヘシ

本鐵道ノ各区域ハ其完成スルニ隨ヒ技師長ヨリ之ヲ局長ニ引渡シ局長ハ事情ノ許ス限り速ニ當該区域ノ運輸ヲ開始スルモノトス

局長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス運輸主任ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ局長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ更ニ日本人一名ヲ保線技師ニ任命ス保線技師ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ鐵道ノ保存ヲ掌ル

運輸主任及保線技師ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム

第十七条 本鐵道收入ハ遲滞ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ払込ミ場合ニ應ジ定期預金又ハ当座預金トシテ其利率ハ隨時銀行ト協議シテ之ヲ定ム

本鐵道營業費及保存費ハ總テ右收入ヨリ支出シ其殘額ハ之ヲ本公債利子仕払竝本契約附表ニ依ル元金償還ニ對スル相當準備ニ充テ尚剩余アルトキハ政府ハ局長ノ決スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ但シ鐵道全部開通

後ハ本契約附表ニ依リ元利金ヲ仕払フニ足ル金額ヲ前記
剰余金ヨリ控除シ各期日六個月前ニ之ヲ銀行ニ預ケ入ル
ヘシ

若シ鐵道收入ニシテ元利金ヲ仕払フニ足ル剰余金ナキト
キハ本契約第八条ノ規定ニ從フ

第十八条 銀行ハ本鐵道建設中外國ヨリ輸入スヘキ材料機
械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定ス

右購買中其重要ナルモノニ付テハ局長ニ於テ之ヲ入札ニ
付ス取扱者ハ鐵道ノ為最有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入
札、約定又ハ注文ヲ為シ購買原価及其百分ノ五ノ取扱手
数料ヲ受ク但シ注文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨリ局
長ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

取扱者ハ前記外國材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ監督シ一
般市場ニ就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買ス
ヘシ材料機械其他ノ物件ニシテ輸入後注文文明細書ニ符合
セサルトキハ鐵道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノト
ス

外國材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其品質價格同
一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ次ニ取扱者ノ推薦スル國ノ

第二十一条 政府ニ於テ外債ニ依リ本鐵道ノ支線又ハ延長
線ヲ建設セントスル場合ニハ該外債ニ関シ銀行ニ優先權
ヲ与フルモノトス

(第二十一条)

支那側ニ於テ強テ希望スルニ於テハ浦信第十九条第一項 that
may appear..... from Chinese Sources 及ヒ第一項ノ
文句ヲ挿入シ差支ナカルヘシ

一 第九条ノ本公債ノ担保ハ之ヲ他ノ債務ノ担保ニ供シ得サル趣旨
ノ規定支那側ノ承諾スル所トナサル場合ニハ其代價的ニ左ノ
意味ノ規定ヲ第二十一条第二項トシテ挿入セシムルコト可然乎
「其他本鐵道ニ関スル一切ノ外債ニ付政府ハ銀行ニ優先權ヲ
与フルモノトス」

第二十二條 政府ハ本公債ノ担保ヲ損傷スルノ虞アル支線
延長線又ハ併行線ノ建設ヲナサルモノトス

第二十三條 銀行ハ公債証書所持人ノ受托者タルモノトス
從テ本公債ニ関スル事項ニツキ鐵道局ト銀行トノ間ニ交
渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タ
ルヘシ

第二十四條 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市
場及支那政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經
済上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公債

モノヲ購買スヘシ
送り状及検査人証明書ハ之ヲ鐵道局ニ提出シ各種ノ割戻
又ハ割引ハ鐵道局ニ歸ス

取扱者ハ鐵道ノ為ニスル購買ニ付テハ總テ製造者ノ送り
状及検査人ノ証明書ヲ以テ証憑ト為ス取扱者ニ對シテハ
前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給セス但シ顧問技師
ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鐵道局勘定ヨリ其報酬ヲ
支給スヘシ

若シ支那產材料及支那製品ニシテ其品質價格同一ナルト
キハ支那產業奨励ノ為最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付
テハ取扱者ニ取扱手数料ヲ支給セス

取扱者ハ本鐵道建設完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道
局所要外國品ノ供給ニ関スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ
有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第十九條 政府ハ本鐵道局所要ノ材料機械其他ノ物件ニ對
シテハ關稅釐金其他右ニ類スル一切ノ公課ヲ免除ス

第二十条 政府ニ於テ外債ニ依リ洮南府ヨリ承德府城ニ至
ル鐵道及海竜府ヨリ吉林省城ニ至ル鐵道ヲ建設セントス
ル場合ニハ該外債ニ関シ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政府ト
協定スル相当期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ
右期間内ニ仍ホ其發行ヲ見サルニ於テハ本契約ハ之ヲ無
効トス此場合ニ於テ政府ハ銀行ニ對シ別ニ何等ノ報償ヲ
与ヘサルモノトス

(第二十四条)

若シ第三条ニ前貸ニ関スル規定ヲ置クコト成リタル節ハ末項
ヲ左ノ通り改ム

(箋附)
「此場合ニ於テ政府ハ本契約第三条ニ依ル前貸金ニ利子ヲ付
シテ返済スル外銀行ニ對シ別ニ何等ノ報償ヲ与ヘサルモノト
ス」

第二十五條 銀行ハ本契約ニヨリ享有スル權利ノ全部又ハ
一部ヲ再讓渡又ハ複委任ノ權利及其負擔スル義務ト共ニ
他ノ日本人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得但シ右讓渡再
讓渡又ハ委任複委任ハ局長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十六條 銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部又ハ一
部ヲ倫敦又ハ巴里ニ於テ發行スルコトヲ得
本公債ノ全部又ハ一部ヲ日本ニ於テ發行スル場合ニ於テ
モ銀行ハ本公債ノ流通ニ便ナラシムル為メ証書ニ額面金
額相当ノ一定英貨額又ハ仏貨額ヲ記載シ並ニ日支兩國

語ノ外英語又ハ仏語ヲ以テ之ヲ印刷シ且倫敦又ハ巴里ヲ本公債元利金仕払地ト為スコトヲ得

本契約中前記二項ニ関連スル各条ハ右二項ノ場合ニ於テハ夫々必要ノ変更ヲ受クルモノトス

第二十七条 本契約ハ大正 年 月 日即チ中華民國 年 月 日大總統令ニ準拠シテ調印シタルモノニシテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ支那駐割日本公使ニ通告ヲ經タリ

第二十八条 本契約ハ日本文及支那文ヲ以テ各四通ヲ作成シ其内各三通ヲ政府ニ各一通ヲ銀行ニ保存ス本契約ノ解釈ニ関シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

註 海關鐵道借款契約第十五条和訳文(中国興業株式会社ニ於テ作成)左ノ通り

「第十五条 前貸

本契約履行ヲ速カナラシムル為メニ兩当事者ニ於テ公債發行前ニ前貸金ノ必要ヲ認メタルトキハ会社ハ年六分ノ利子ヲ以テ必要額ノ前貸ヲナスベシ
右ノ場合ニ於テ会社ハ公債預入銀行ヨリ額面価額ガ該前貸金ノ一倍半ニ相当スル未發行公債ヲ引出シ之ヲ担保トスルコトヲ得
右ノ前貸金ハ借款手取中ヨリ優先ニ償還セラルベキモノ

項ハ単ニ「本公債ノ利子ハ半年毎ニ之ヲ仕払フモノトス」ト規定スルニ止マルコトヲ得バ一層可ナリ

第五条ニ関シ

浦信第五条末段ハ同第四条末段同様第七条ト重複ノ嫌アルニ付之ヲ削除シタリ

第七条ニ関シ

一、本契約ニハ善後借款契約附属元利仕払表ノ例ニ倣ヒ元利金仕払期日ヲ何月何日ト明確ニ記載セル元利金仕払表ヲ添付セシムル趣旨ナリ

二、本条第二項臨時償還ノ場合ニ於ケルコトハ浦信第七条ニハ規定ナキモ第一項トノ權衡上ヨリスルモ必要ト認メタルニ付為念追補シタリ

第九条ニ関シ

一、本鐵道ニ万一他国筋ノ借款關係等生スルヲ努メテ防止センガ為本条第三項ニ本公債ノ担保ハ他ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得サル旨規定シタリ但シ本契約ノ規定ニ基キ銀行ニ於テ支線延長線等建設ノ為ニスル公債ヲ募集セントスル場合ニ本公債ノ担保ニ対シ第二位ノ担保權ヲ設定セントスルニ当テハ本条第三項ノ規定ニ拘ラズ銀行ト支

(附屬書二)

別冊乙号

滿蒙鐵道借款細目契約案説明書

第一条ニ関シ

本条第二項「大正 年支那政府 分利付鐵道公債」ハ都合ニ依リ「^{大正}中華民國 年 支那政府 分利付鐵道公債」ト称スルコトスルモノナリ又欧文ノ場合ニハ一千九百年支那政府 分利付鐵道公債ト記スモノトス

第三条ニ関シ

前貸ノ必要アラバ其時ニ臨ミ別ニ協定スルコトシ度ニ付浦信第三条末項前貸ニ関スル規定ハ全部之ヲ削除シタリ但シ支那側ニ於テ強テ希望スルニ於テハ別冊細目契約案付箋ノ如キ規定ヲ挿入スルコトト為スモ差支ナシ

第四条ニ関シ

一、浦信第四条末段ハ第七条ト重複ノ嫌アルニ付之ヲ削除シタリ

二、「フール、クーポン」添付ノ自由ヲ留保センカ為或ハ本条第二項ノ「公債發行ノ日ヨリ之ヲ起算ス」ヲ削リ同

那側トノ話合ニ依リ如何様トモ為シ得ヘク又右ハ第二位ノ担保權ヲ設定スルニ止マルモノ故本公債所有者ニ於テモ別ニ苦情ヲ唱フルノ余地ナカルヘシ

將又本契約第十五条第一項ノ場合ニ於ケル公債ガ本公債ト同一担保ヲ有スヘキハ当然ナルニ付本条第二項ノ通り規定シタリ

二、担保權ヲ設定シタル以上元利金仕払遲滞ノ場合ニ於テハ銀行ハ当然鐵道局ニ代テ其營業ノ管理ヲ行フコトニ了解セラレ居ルモノト解釈スレハ格別ナルモ出来得ベクバ吉長南潯等ノ例ニ倣ヒ代管營業權ニ関スル明文ヲ置クコトト致度シ

三、浦信ニハ担保ノ意義、効力等ハ英國法ニ準スヘキ旨ノ規定アルモ本契約案ニハ右ニ類スル規定ヲ置カス蓋シ日本ノ法律ニ於ケル担保權ナルモノニハ種々手続等ノ問題モ附帶シ旁誤解ヲ生スルノ虞モアリ且寧ロ担保ノ意義ヲ限定シ置カサル方却テ我方ニ有利ニシテ解釈上運用ノ妙味アルベク前項ノ代管營業權有無ノ問題ノ如キモ亦之ト相關連スヘシ

第十条ニ関シ

第二項ハ暫ク大鉢浦信第十条通りトシタルモ新聞紙上ニ公告スルコトハ「關係ノ法律習慣ニ從ヒ必要又ハ便宜ト認ムル措置」ノ内ニ含ムトモ見得ヘク又代証書ノ發行ハ支那政府銀行ノ相方ニ煩勞ト不便トヲ来スコト少カラサルカ故ニ寧ロ代証書ニ關スル規定ヲ削ル方運用ノ便多カルヘク旁出来得ベクバ本項ハ左ノ如ク改ムルコトト致度シ

「本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ鐵道局長及日本駐割支那公使ニ通知シ關係國ノ法律習慣ニ從ヒ必要又ハ便宜ト認ムル措置ヲ執ルヘシ」

第十二条ニ関シ

第一項「公債募集目論見書及元利金仕払其他^ニニ關スル詳細ノ事項」云々ノ条浦信第十二条ニハ「其他」ノ文字ナキモ当事者相方ノ便宜ヲ慮リ特ニ之ヲ挿入シタリ

第十三条ニ関シ

公債ノ發行ハ工事ノ計畫並其進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応シ一回又ハ數回ニ分テ之ヲ行フコトヲ得ル旨規定セリ
浦信第十三条ニハ此類ノ規定ナシ

浦信第十六条ニハ局長ハ必ズ鐵道附近ニ居住スヘキ旨ノ規定アルモ不要ト認メ本契約案ニハ之ヲ挿入セズ

第十八条ニ関シ

一、第一項外國品購買ニ關シ浦信第十八条ニハ会社ハ外國ヨリ輸入スヘキ材料機械其他ノ物件ノ購買取扱者トナルトアルモ銀行ハ本来ノ性質上此ノ如キ購買取扱者トハ成リ得サルカ故ニ本契約案ニテハ銀行ハ右材料等ノ購買取扱者ヲ指定スル意味ニ改メタリ

二、第四項ニ「取扱者ノ推薦スル國ノモノ」ヲ購買スヘキ旨ノ規定ヲ挿入シタルハ例ヘハ本公債ヲ巴里ニテ發行スル場合ニハ仏國側ハ仏國材料使用ヲ希望スル等ノコトアルヘキヲ慮リシモノナリ

第十九条ニ関シ

海關第十六條^(註一)、同成第十六條第二十一項等ノ例ニ倣ヒ為念本条ヲ挿入シタリ

第二十一条ニ関シ

一、支那側ニ於テ強テ希望スルニ於テハ別冊細目契約案付箋ノ如ク本条ハ之ヲ浦信第十九条ノ通りノ行文ト為スモ差支ナシ

第十四条ニ関シ

一、浦信第十四条ニハ「局長及(又ハ)副局長又ハ其代理者」云々トアルモ本契約案ニ於テハ本条其他共「其代理者」ノ文字ヲ削除シ且ツ「局長又ハ副局長」云々トシタリ

二、諸勘定記帳ノ件ハ前後ノ關係上會計主任ノ權限ニ關スル規定ノ次ニ之ヲ挿入スルコトセリ

三、會計主任僱聘契約ノコト何等浦信ニ規定ナシ(技師長等ノ分ハアリ)且技師長等ニ付テモ僱聘契約ニ銀行ノ同意ヲ要スル旨ノ規定ナシ仍テ本契約案ニ於テハ適宜之ヲ補足シタリ(第十六条参照)

四、第五項會計部所要人員表ノ条ニハ技師長ノ条下ニ倣ヒ

「内外」ノ文字ヲ加ヘタリ

第十五条ニ関シ

第十三条ニ依リ發行價格ヲ以テ適宜塩梅シ得ベク且第十二条第一項ノ結果詳細ノ事項ハ更ニ協定ヲ遂ゲ得ベキが故ニ本条第一項ハ浦信第十五条通り「其利子其他ノ条件ハ本契約ニ於ケルト同一タルヘシ」トシタリ

第十六条ニ関シ

二、浦信ト同ク本契約案ニハ期限滿了前全部ノ償還ヲ禁スル旨ノ規定ヲ置カサル次第ニモアリ旁第九条ノ本公債ノ担保ハ之ヲ他ノ債務ノ担保ニ供シ得サル意味ノ規定支那側ノ承諾スル所トナラサル場合ニ於テハ其代償的ニ別冊細目契約案付箋ノ如キ一項ヲ本条ニ挿入セシムルコトト為スモ亦一方法タルベシ

第二十二条ニ関シ

本条ノ行文ハ聊カ異様ナルモ借款当事者タル銀行トシテハ何等カ本借款ト關連スル様ノ文字ヲ使用セサルヘカサルガ故ニ「本公債ノ担保ヲ損傷スルノ虞アル」云々トシタリ(担保損傷ノ内ニハ勿論收入ノ減少等ヲモ含ム)

第二十四条ニ関シ

若シ第三条ニ前貸ニ關スル規定ヲ置クコトト成リタル節ハ本条末項ヲ別冊細目契約案付箋ノ通り改ムヘシ

第二十六条ニ関シ

一、本公債發行ノ都合上本条ヲ挿入シタリ
二、第二項ノ通り一定ノ英貨額又ハ仏貨額ヲ記載スルコトトセバ自然為替上ノ損益ヲ生スルコトアルヘキモ右ハ損益共ニ支那政府ニ歸スヘキ旨別ニ協定ノ要アリ

第二十七条ニ関シ

浦信第二十四条ニハ国会通過ヲ一要件トセルモ本契約ニ於テハ現下ノ事態ニ鑑ミ単ニ大統領令ノミニテ足ルコトシタリ

註1 海蘭鐵道借款契約第十六条第二十三項及第二十四項和訳文（中国興業株式会社ニ於テ作成）左ノ通り

「課税ノ免除

中国及ビ外国ニ於テ為シタル会社ノ註文品ニ対シテハ輸入税及子口半税若クハ各省釐金税ヲ免除ス

但シ前項ノ規定ハ将来中国政府ニ於テ他ノ鐵道建築材料及設備品ニ対シテ課スルコトアルヘキ租税ニ就テハ其產出國ノ如何ヲ問ハズ之ヲ適用セザルモノトス」

2 同成鐵道借款契約第十六条第二十一項亦右ト同趣旨ノ規定ナリ

尚右同成鐵道借款契約ハ千九百十三年七月二十二日北京ニ於テ中国代表者（交通總長及財政總長）ト有限責任支那鐵道白耳義会社（La Société Belge de Chemin de fer en Chine）及有限責任支那鐵道建設營業公團西会社（La Société Française de Construction et d'exploitation de Chemin de fer en Chine）ノ代表者 Robert de Vos ヲ間ニ締結セラレタルモノニシテ同契約第四条ニ依リ右同成鐵道ハ「京綏鐵道」ノ線上ニ在ル山西省大同府ヲ起テ太原ニシテ山西省ノ首府太原府平陽府蒲州府陝西省ノ潼關府

for the said preliminary agreement, and this final Agreement witnesses as follows:

ARTICLE 1.

The Chinese Government hereby authorised the Company to issue a five per cent (5%) Gold Loan for an amount of £3,000,000. The Loan shall be of the date on which it is issued to the public and shall be called "THE CHINESE GOVERNMENT FIVE PERCENT PUKOU SINYANG RAILWAY LOAN".

ARTICLE 2.

The Loan is designed to provide capital for the construction of a Government line of Railway from a point on the Tientsin-Pukou Railway, Southern Section, to a point at or near Sinyang on the Peking-Hankow Railway, a distance of about three hundred and fifty miles.

The route to be followed between these two points shall be decided upon by the Director General of the Railway after completion of the final survey.

ARTICLE 3.

The capital so provided shall be solely devoted to the construction of the railway line including the purchase of the land, rolling stock and other equipment,

首府西安府及漢中府ヲ經テ四川省ノ首府成都府ト連絡スル鐵道」ヲ云フ

(附記1)

浦信鐵道借款契約英文案寫

DRAFT AGREEMENT.

PUKOU-SINYANG RAILWAY
LOAD AGREEMENT

This Agreement is made at Peking on the day of 1913, corresponding to the day of the month of the 2nd year of the Chinese Republic, and the contracting parties are:

The Government of the Republic of China (hereinafter called "The Chinese Government") acting through its Minister of Finance, its Minister of Communications, and the special Commissioner appointed to negotiate the present Agreement, of the one part, and Chinese Central Railways Limited London, (hereinafter called "The Company") of the other part.

Whereas a preliminary Agreement was signed in respect to the Pukou-Sinyang Railway Loan on January 6th 1899, corresponding to the 25th day of the 11th month of the 24th year of Kuang Hsu, it is now agreed that this final Agreement shall be substituted

and to the working of the line and to payment of interest on the loan during the period of construction, which is estimated at 3 years from the actual beginning of the works, the commencement of which is not to be delayed beyond six months from the date of the signature of this Agreement, within which period the Company shall notify the Director General that a sum not exceeding £200,000 has been placed at the disposal of the Railway Administration, to be held in Europe or remitted to China as it may direct, as a first instalment on account of the proceeds of the loan. This amount of £200,000 or whatever portion thereof is actually advanced, together with interest thereon not exceeding a charge of six percent (6%) per annum, shall be deducted from the proceeds of the sale of the bonds.

ARTICLE 4.

The rate of interest for the loan shall be five per cent (5%) per annum on the nominal principal, and shall be paid to the Bond-holders half-yearly. The said interest shall be calculated from the date on which the loan is issued to the public and shall be paid by the Chinese Government during the time of construction

either from the proceeds of the loan or from other sources, and afterwards in the first place, out of the revenues of the railway, and then from such other revenues as the Chinese Government may think fit to use for the purpose in half-yearly instalments according to the amounts specified in the schedule attached to this agreement and fourteen days before their due dates, Western Calendar, as calculated half-yearly from the date on which the loan is issued to the public.

ARTICLE 5.

The term of the loan shall be forty (40) years. Repayment of principal shall commence from the eleventh year from the date of the loan and, except as provided in Article 6 hereinafter, shall be made by yearly amortisation to the Hongkong & Shanghai Banking Corporation out of the revenues of the line or such other revenues as the Chinese Government may think fit to use for the purpose according to the amounts specified in the schedule attached to this agreement, but fourteen (14) days before their due dates, Western Calendar, as calculated from the date on which the loan is issued to the public.

attached to this Agreement and fourteen days before their due dates. These payments shall be made by the Director General to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in Shanghai in Shaghai sycee and/or coin of the national currency, as soon as the said currency shall have been effectively established, sufficient to meet such payments in Gold in London, exchange for which shall be settled with the Bank either on the date of payment or at the option of the Railway Administration at any date or dates within six months previous to any due date for the repayment of interest and principal. These payments may, however, be made in Gold fourteen days before their due dates, if the Chinese Government should happen to have gold funds "bona fide" at their disposal in Europe not remitted from China for the purpose, and desire so to use them. In reimbursement of expenses connected with the payment of interest and repayment of principal of the loan, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation will receive a commission of one quarter percent on the annual loan service.

ARTICLE 8.

The Chinese Government hereby unconditionally

ARTICLE 6.

If at any time after the lapse of ten (10) years from the date of the loan the Chinese Government should desire to reduce the whole outstanding amount of the loan or any part of it not yet due for repayment in accordance with the schedule of repayments hereto attached, it may do so until the twentieth (20th) year, by payment of a premium of 2½% (two and a half percent) on the face value of the bonds, that is to say, by payment of one hundred and two pounds and ten shillings for each £100 bond, and after the 20th year without premium: but in each and every case of such extra redemption, the Chinese Government shall give six months notice in writing to the Company and such extra redemption shall be effected by additional drawings of bonds to take place on the date of an ordinary drawing as provided for in the prospects of the loan.

ARTICLE 7.

The Hongkong and Shanghai Banking Corporation having been appointed by the Company Agents for the service of the loan the payments due for amortisation and interest, referred to in Articles 4 and 5, shall be made in accordance with the amounts of the schedule

guarantees that the interest and principal of this loan shall duly be paid in full, and should the revenues of the railway and/or the proceeds of the loan not be sufficient to provide for the due and full payment of interest and repayment of principal, the Chinese Government will make arrangements to ensure that the amount of deficiency shall be met from other sources and handed over to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation on the date upon which funds are required, to complete full payment of interest and repayment of principal.

ARTICLE 9.

The loan shall be secured by mortgage of the railway declared to be now entered into in equity by virtue of this agreement, and shall, as soon as possible hereafter be secured by a specific and legal first mortgage of the company upon all lands, materials, rolling stock, buildings, property and premises of every description purchased or to be purchased for the railway, and on the railway itself, as and when constructed and on the revenues of all descriptions derivable therefrom.

The provisions of this Article in respect of the

mortgage are to be construed and treated as equivalent in purport and effect to a mortgage customarily executed in England.

ARTICLE 10.

The Company is hereby authorised to issue to subscribers to the loan bonds for the total amount of the loan for such amounts as may appear advisable to the Company. The form of the bonds shall be settled by the Company in consultation with the Director General or the Chinese Minister in London. The bonds shall be printed or engraved in Chinese and English: they shall bear the facsimile of the signature of the Director General and of his seal of office, in order to dispense with the necessity of signing them all in person. But the Chinese Minister in London shall, previous to the issue of any bonds, put his seal upon each bond with a facsimile of his signature, as a proof that the issue and sale of the bonds are duly authorised by, and binding upon, the Chinese Government, and the representative of the Company in London shall countersign the bonds as Agents for the issue of the loan.

In the event of bonds issued for this loan being

in consultation with the Chinese Minister in London. The Company is hereby authorised to issue through its Agents the Hongkong and Shanghai Banking Corporation the prospectus of the loan as soon as possible after the signing of this agreement (subject to the provision stated in Article 13 below) and the Chinese Government will instruct the Chinese Minister in London to co-operate with the Company in any matters requiring conjoint action and to sign the prospectus of the loan.

ARTICLE 13.

The loan shall be issued to the public in one series of bonds to the amount of three million pounds sterling (£3,000,000) as soon as possible after the signature of this agreement, subject always to the engagement of the Chinese Government under Article 17 of the Chinese Government 5% Reorganization Gold Loan of April 26, 1913. The price of the bonds to the Chinese Government shall be the actual of price issue to the public in London less flotation charges of five and a half points (5½) retainable by the Company (that is to say a charge of Five Pounds Ten Shillings (£5.10/-) for every £100 bond issued).

ARTICLE 14.

lost, stolen or destroyed, the Company shall immediately notify the Director General and the Chinese Minister in London, who shall authorise the Company to insert an advertisement in the public newspapers notifying that payment of the same has been stopped and to take such other steps as may appear advisable or necessary according to the laws and customs of the country concerned, and should such bonds not be recovered after a lapse of time to be fixed by the Company, the Director General or the Chinese Minister in London shall seal and execute duplicates bonds for a like amount and hand them to the Company, by whom all expenses in connection therewith shall be defrayed.

ARTICLE 11.

All bonds and coupons and payments of interest and repayments of principal in connection with the service of the loan shall be exempt from all Chinese taxes and imposts during the currency of this loan.

ARTICLE 12.

All details necessary for the prospectus and connected with the payment of interest and repayment of the principal of this loan, not herein explicitly provided for, shall be left to the arrangement of the Company

The proceeds of the loan shall be paid to the credit of a Pukou Sinyang Railway account with the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in London. Payments of loan proceeds into the credit of this account shall be made in instalments and on dates conforming to the conditions allowed to the subscribers to the loan. Interest at the rate of three (3) percent per annum shall be granted on the credit balance of the portion of this account kept in London and interest on the credit balance of the portion transferred to China will be allowed at the Bank's usual rates for such accounts. After deduction of the funds required for the service of interest and for commission on this service during the time of construction, the Bank will hold the net proceeds with accrued interest to the order of the Director General who, in authorising the payment of any sums exceeding £20,000 shall give notice to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation ten days before the day on which they are required. Requisitions on the loan funds will be drawn in amounts to suit the progress of construction of the railway by orders on the Hongkong and Shanghai Banking Corporation signed by the Managing Director or his duly authorised

representative and the Chief Accountant, and accompanied by a certificate stating the nature and cost of the work to be paid for.

Funds to meet monthly estimates of construction expenses shall be transferred to Shanghai as and when required by order of the Director General, such transfers being effected through the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and the transferred funds shall remain on deposit with this Bank until required for railway purposes.

The accounts of the railway will be kept in Chinese and English, in accordance with the accepted modern methods, under the direction of a duly qualified British Chief Accountant to be chosen and appointed by the Director General with the previous consent of the Company. The terms of his agreement will be fixed by the Director General. The Chief Accountant will draw up a list of the necessary staff for his Department for submission to the Director General who shall decide and make the appointments, and the Chief Accountant shall have sole charge under the authority of the Director General and or the Managing Director or his Representative of all disbursements and receipts

If after the completion of the line there should be a balance at credit of the railway account, such unused balance will be transferred to the credit of the interest reserve fund hereinafter mentioned in Article 17 as a provision for payments for which the Chinese Government is responsible under this agreement.

ARTICLE 16.

The construction and control of the railway shall be vested entirely in the Chinese Government. The Chinese Government will appoint a Director General of the Railway who will reside in the immediate neighbourhood of the line, and have full power to act in the name and on behalf of the Government within the terms of the present agreement. The Engineer-in-Chief who will be chosen and appointed by the Director General with the previous consent of the Company, shall be a duly qualified British Engineer and shall take orders from the Director General, the Managing Director or his duly authorised representative. The terms of his agreement will be fixed by the Director General. His duties will be to make the survey, draw up the plans of the line and make estimates, to direct the execution of the works and to order under the

of railway funds during the currency of this loan, and shall sign, in conjunction with the Managing Director, all documents appertaining to the disbursements of railway funds. The Railway Administration will publish annually upon the close of its financial year a report in the English and Chinese languages showing the working accounts and traffic receipts of the railway, which report shall be procurable by the public on application.

ARTICLE 15.

If during the time of construction the net proceeds of the present loan with accrued interest should, after deduction of the sums necessary for the service of interest on the loan, not be sufficient to complete the construction and equipment of the railway line, the amount of deficiency shall be provided, in the first place, from such Chinese funds as may be available so as to permit of the uninterrupted continuance of the work of construction, any balance then uncovered being supplemented by a further foreign loan for the amount required, to be issued by the Company. The interest and other conditions of such supplementary loan to be the same as in the present agreement.

authority of the Director General, the Managing Director or his duly authorised representative all the materials and equipment necessary for the exploitation of the railway. He will draw up a list of the necessary Chinese and foreign Engineering Staff for submission to the Director General, and the latter shall appoint and send them to the Engineer-in-Chief who shall then assign works to them. Whenever appointments of technical employes, both Chinese and foreign, are to be made or their functions defined, as well as in the case of their dismissal, the Engineer-in-Chief shall be empowered to take the necessary action by the Director General, the Managing Director or his representative.

As and when any section of the line is constructed and ready for traffic it will be handed over by the Engineer-in-Chief to the Director General who will, as far as circumstances permit, open such section to traffic, and will select a duly qualified British traffic Manager who will be charged with the operation of the railway under the orders of the Director General and or the Managing Director or their representative.

When the work of construction is entirely completed the services of the Engineer-in-Chief will terminate and

the Director General will select a duly qualified British Engineer for the maintenance of the railway under the orders of the Director General and or the Managing Director or his representative.

The two officers above referred to shall be appointed by the Director General with the previous consent of the Company, and the Director General shall fix the terms of their agreements.

ARTICLE 17.

All receipts and earnings of the railway shall be regularly paid into the Railway's account with the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, interest on such funds being allowed by the Bank at rates to be arranged for current account or fixed deposit as the case may be.

All expenses of working and maintaining the line shall be paid from the receipts and earnings, and any remainder thereof shall be charged with the service of the loan. If, after payment of these expenses, and making due provision for payment of interest on the bonds, and for repayment of principal due in accordance with the amortisation schedule hereto attached, there remain surplus funds unappropriated and properly

available for other purposes, such funds shall be at the disposal of the Chinese Government to be used in such manner as the Director General may decide, provided always that after completion and opening of the line to traffic the amount sufficient for regular payments of interests and repayments of principal shall be deducted from such surplus funds, if any, and shall be deposited with the Hongkong and Shanghai Banking Corporation six months before the date on which such payments fall due.

In the event of there being no surplus funds available as aforesaid from the earnings of the railway the amount required for payment of interest and repayments of principal shall be provided in accordance with the conditions of Article 8 hereinbefore.

ARTICLE 18.

The Company will act as Agents of the Railway administration during construction for the purchase of all material, plant and goods required to be imported from abroad. For all important purchases of such materials tenders shall be called for by the Director General: in the case of all tenders indents and orders for the importation of goods and materials from abroad,

the said Agents shall purchase the materials required on the terms most advantageous to the railway, and shall charge the original net cost of the same plus a commission of five percent. It is understood that no orders for materials shall be executed or any expenditures incurred without the approval of the Director General to whom the Engineer-in-Chief shall apply for sanction.

In return for payment of commission as above stated the Company shall be prepared to superintend the purchase of all foreign materials required for the construction and equipment of the railway, which shall be purchased in the open market at the lowest rate obtainable, it being understood that all such materials shall be of good and satisfactory quality, and that the railway Administration shall have the right to reject on arrival in China materials which do not come up to specifications. At equal rates and qualities goods of British manufacture shall be given preference over other goods of foreign origin.

Original invoices and inspector's certificates are to be submitted to the Railway Administration: all return commissions and rebates of every description shall be

credited to the railway: and all purchases made by the Agents on behalf of the Railway shall be supported by manufacturers' original invoices and inspectors' certificates.

No commission shall be paid to the Agents except as above provided: but it is understood that the Railway Administration shall provide out of railway funds for the remuneration of Consulting Engineers, whenever their services are engaged.

With a view to the encouragement of Chinese industries preference will be given, at equal prices and qualities, over British or other foreign goods, to Chinese materials and goods manufactured in China. No commission will be paid to the Company on purchases of such materials and goods.

It is understood and agreed that after completion of construction of the railway the Company will be given the preference for such agency business, during the currency of the loan, for the supply of foreign materials as the Railway Administration may require, on terms to be hereafter mutually agreed upon.

ARTICLE 19.

Branch lines or extensions in connection with the

railway line mentioned in the Agreement that may appear to the Chinese Government profitable or necessary later on shall be built by the Chinese Government with funds at their disposal from Chinese sources, and if foreign capital is required preference will be given to the Company.

The length of such branch lines or extensions shall be determined by the Chinese Government.

ARTICLE 20.

The Company is hereby appointed Trustees for the bondholders, and in any future negotiations respecting this loan or matters arising in connection therewith, which may take place between the Railway Administration and the Company, the latter shall be taken as representing the bondholders and as empowered to act on their behalf.

ARTICLE 21.

If, after the signature of this agreement and before the publication of the prospectus for the issue of the loan, any political or financial crisis should take place by which the market and the prices of existing Chinese Government stocks are so affected as to render, in the opinion of the Company, the successful issue of the loan

impossible on the terms herein named, the Company shall be granted a reasonable extension of time to be mutually agreed upon for the performance of their contract. If within the time limit then determined the loan shall not have been issued, then this contract shall become null and void, and any advances made by the Company under the provision of Article 3 of this Agreement shall be repaid by the Chinese Government with accrued interest, but without any other compensation or remuneration whatsoever.

ARTICLE 22.

By the preliminary agreement dated January 6th, 1899, it was stipulated that the terms and conditions of the present agreement should be subject to the terms and conditions contained in the final agreement for the Shanghai Nanking Railway.

Article 12 of the said agreement for the Shanghai Nanking Railway provides for the participation by the lenders in the net profits of the railway, after certain charges have been met, to the extent of 20%, and net profit certificates were issued to the lenders to the amount of 20% of the nominal capital of the loan.

It is hereby mutually agreed that in consideration

by the Waichiaopu.

ARTICLE 25.

Four sets of this Agreement are executed in Chinese and English, three sets to be retained by the Chinese Government and one set by the Company.

In the event of any doubt arising regarding the interpretation of the contract the English text shall rule.

Signed at Peking by the contracting parties this day of of the 2nd year of the Chinese Republic, corresponding to the day of 1913, Western Calendar.

(附 記 二)

浦信鐵道借款契約案和訳文
(大蔵省理財局作成 未定稿)

本契約ハ中華民國第二年 月 日即チ千九百十三年 月
日ヨリテ北京ニ於テ締結スルモノニシテ契約当事者ノ一方
ハ中華民國財政總長交通總長及本契約ノ商議ノ為メ任命セ
ラレタル特別委員ノ代表スル中華民國政府(爾後「支那政
府」ト称ス)ニシテ相手方ハ在倫敦ノ有限責任支那中央鉄
道会社(爾後「会社」ト称ス)ナリ

浦信鐵道公債ニ関スル予備契約ハ曩ニ光緒二十四年十一月

of the Company waiving its rights under the aforesaid preliminary agreement it shall be granted the right to retain, in commutation of this participation in net profits £120,000 out of the proceeds of the loan in instalments and on dates in proportion to, and based on, the terms of subscription to the loan, as stated in the prospectus. No further payment in respect of commutation of profits will be allowed on any supplementary loans.

ARTICLE 23.

The Company may, subject to all its obligations under this agreement, transfer or delegate all or any its rights powers and discretions thereunder to any British Company Directors or Agents with power of further transfer and sub-delegations: such transfer, sub-transfer, delegation or sub-delegation to be subject to the approval of the Director General. •

ARTICLE 24.

This agreement is signed under the authority of a Presidential Order, after having been passed by the National Assembly dated the of the 2nd year of the Republic, corresponding with the day of 1913, Western Calendar, which has been officially communicated to the Minister of Great Britain, in Peking,

二十五日即チ千八百九十九年一月六日ヲ以テ調印セラレタルヲ以テ愛ニ右予備契約ニ代ユルニ本最終契約ヲ以テスベキコトニ合意成レリ本最終契約左ノ如シ

第一条 支那政府ハ本契約ニ依リ三百万磅ノ五分利金貨公債發行ノ權ヲ会社ニ附与ス公債ノ日附ハ該公債カ公衆ニ對シテ發行セラル、ノ日タルヘク該公債ハ支那政府五分利浦信鐵道公債ト称ス

第二条 本公債ハ津浦鐵道南部線ノ一点ヨリ京漢鐵道ノ信陽若クハ其附近ノ一点ニ至ル約三百五十哩ノ官線鐵道ノ敷設ニ必要ナル資本金ヲ供給スルヲ以テ目的トス
右二点間ノ通過スヘキ線路ハ最後ノ測量ヲ完成シタル後鐵道總弁之ヲ決定スヘシ

第三条 右ニ依リテ調達シタル資本金ハ専ラ土地、鐵道用車輛其他ノ設備品ノ購買ヲ包含スル所ノ鐵道線路ノ敷設運轉及工事着手ノ時ヨリ約三年ノ敷設期間内ニ於ケル公債ノ利子仕払ニ使用スヘシ

工事ハ遅クモ本契約調印ノ日附ヨリ六ヶ月内ニ着手シ会社ハ上記敷設期間内ニ二十万磅ヲ超過セサル金額ヲ公債手取金ノ第一回分割払込金トシテ本鐵道公司ノ自由処分

込ムヘシ

第六条 本公債ノ日附ヨリ十年ヲ經過シタル後ニ於テ支那政府カ本契約附屬表ニ依リ未タ償還期日ノ至ラサル公債未償還額ノ全部若クハ一部ヲ償還セント欲スル時ハ第二十年目ニ至ル迄ハ公債証書ノ券面額ニ對シ二分五厘ノ打歩ヲ即チ百磅ノ公債証書ニ對シ百二磅十志ヲ仕払ヒ又第二十年目後ニアリテハ打歩ナシニ何時ニテモ之ヲ償還スルコトヲ得ヘシ但右ノ臨時償還ノ場合ニ於テハ支那政府ハ会社ニ對シ書面ヲ以テ六ヶ月以前ニ予告ヲ發シ且ツ公債目論見書中ニ規定スル普通抽籤日ニ於テ附加抽籤ヲ行ヒ之ヲ実行スヘシ

第七条 香上銀行ハ公債事務取扱銀行トシテ会社社代理人ニ依リテ指定セラレタルヲ以テ第四条及第五条ノ満期日ノ到来セル年賦償還金及利息ノ仕払ハ本契約附屬表ノ金額ニ依リ満期日、前十四日ニ於テ香上銀行ニ對シ之ヲ為スヘシ右ノ仕払ハ在上海ノ香上銀行ニ對シ鐵道總弁ヨリ倫敦ニ於ケル金貨ノ支払ニ応スルニ足ルベキダケ上海規銀及ビ(又ハ)支那國幣制確立スルニ至リタル時ハ支那國通貨ヲ以テ之ヲ行フヘキモノトス且ツ支那國通貨又ハ規銀

ニ委シ之ヲ歐洲ニ於テ保管シ或ハ該公司ノ指図ニ依リ支那國ニ廻送スヘキコトヲ鐵道總弁ニ通告スヘシ右二十万磅ノ金額又ハ其中實際前貸セラレタル部分ハ毎年六分ヲ超過セサル利息ヲ合シ公債ノ手取金中ヨリ之ヲ控除スヘシ

第四条 公債ノ利率ハ年ニ券面總額ノ五分トシ半年毎ニ公債証書所持人ニ払渡スヘシ右利息ハ公債ノ發行日ヨリ計算シ敷設期間中ハ公債ノ手取金又ハ其他ノ財源ヨリ其後ニ於テハ先ツ鐵道收入中ヨリ次ニ支那政府ガ本目的ノ為ニ使用スルヲ適當ト思惟スル他ノ財源ヨリ本契約ノ附屬表中ニ記載シタル金額ニ抛リ毎半年期ニ西曆ニヨリ公債發行日ヨリ起算シテ毎半年期ノ満期日ヨリ十四日前ニ支那政府之ヲ支払フヘシ

第五条 公債ノ償還期限ハ四十年トス元金ノ償還ハ公債ノ日附以後第十一年目ヨリ始メ第六条ノ規定ニ依ル場合ノ外ハ年賦償還方法ニヨリ本契約ノ附屬表中ニ定メタル金額ニ依リ鐵道收入又ハ支那政府ガ本目的ノ為ニ使用スルヲ適當ト思惟スル其他ノ歳入ヨリ西曆ニヨリ公債發行日ヨリ起算シテ其満期日ヨリ十四日前ニ香上銀行ニ之ヲ払

ノ倫敦金貨トノ為替ハ仕払日ニ於テ或ハ鐵道公司ノ選択ニヨリ元利償還ノ満期日前ノ六ヶ月内ノ或日ニ於テ鐵道總弁香上銀行ト合議ノ上之ヲ決定スヘシ但シ右ノ仕払ハ支那政府カ特ニ之ヲ支那國ヨリ廻送シタルニ非スシテ善意ニ歐洲ニ於テ其自由ニ処分シ得ル金資金ヲ有スルニ至リタルトキハ満期日前十四日ニ金ヲ以テ之ヲ行フヘシ
香上銀行ハ毎年公債ノ元払ニ關連スル費用ノ弁償トシテ取扱金額ノ四分ノ一「パーセント」ノ手数料ヲ受クヘシ
第八条 支那政府ハ茲ニ本公債ノ元利カ完全ニ支払ハルヘキコトヲ無条件ニ保証ス鐵道ノ收入及ビ(又ハ)公債ノ手取金カ期日ニ於ケル完全ナル利子仕払及元金償還ニ足ラサルトキハ支那政府ハ利子ノ仕払及元金ノ償還ヲ完了スル為メニ右ノ不足額ヲ他ノ財源ヨリ填補ノ上其資金ノ必要ナル期日ニ於テ之ヲ確實ニ香上銀行ニ交付シ得ル様取計フ可シ

第九条 本公債ハ衡平法ニ於テ本契約ノ効力ニ依リ即時ニ設定セラル、モノト見ラル、本鐵道ノ抵当權ニ依リテ保證セラル可シ且ツ向後可成速ニ本鐵道ノ為ニ購買シタル又購買スヘキ凡テノ種類^{ラツツ}ノ土地、材料、鐵道用車輛、建

物、各種ノ財産及地所^{プレミセス}及鐵道敷設後ニ於テハ其鐵道自身並ニ該鐵道ヨリ来ルヘキ各種ノ收入ニ対スル会社ノ特別ニシテ且ツ適法ナル第一抵当權ヲ担保トスヘシ

本条規定スル所ノ抵当權ノ意義及ビ効力ニ付キテハ英國慣行ノモノト同一ニ解釈シ之ガ取扱ヲ為スヘシ

第十条 会社ハ本契約ニ依リ本公債ノ總額ニ対シ会社力方便宜ト思惟スル額面ノ公債証書ヲ応募人ニ発行スルノ權利ヲ有ス公債証書ノ形式ハ鐵道總弁又ハ倫敦駐劄支那國公使ト商議ノ上会社之ヲ決定スヘシ公債証書ハ支那語及英語ヲ以テ印刷又ハ鐫刻シ鐵道總弁各証書ニ自ラ署名スルノ必要ヲ省略スル為メ鐵道總弁ノ署名又ハ官印ノ模写ヲ載スヘシ但倫敦駐劄支那國公使ハ公債証書ノ発行ニ先ダチ公債証書ノ発行及売出ガ支那政府ニヨリ適法ニ允許セラレ又支那政府ヲ羈束スルモノナルコトノ証拠トシテ各証書ニ其署名ノ模写ヲ載セ且ツ之ニ捺印セザルベカラズ本会社ノ代表者モ亦本公債ノ発行ノ代理人トシテ公債証書ニ副署スヘシ

本公債ノ為メニ発行シタル公債証書ガ紛失盜失又ハ滅失シタルトキハ会社ハ直ニ右ノ事由ヲ鐵道總弁又ハ倫敦駐

第十三条 本公債ハ常ニ千九百十三年四月二十六日ノ支那政府五分利政治金貨借款ノ第十七条ニ拠ル支那政府ノ取扱ニ從ヒ本契約調印後可成速ニ英貨三百万磅金額ノ公債証書ヲ一回ニ発行スヘシ該公債証書ニ關スル支那政府ノ手取額ハ倫敦ニ於ケル発行額ヨリ会社ノ得ヘキ五点半ノ売出手数料(即各公債証書百磅ノ発行價格ニ対シ五磅十志ノ手数料)ヲ控除シタルモノタル可シ

第十四条 本公債ノ手取金總額ハ在倫敦ノ香上銀行浦信鐵道勘定ノ貸方ニ払込マル可シ公債手取金ノ本勘定貸方ヘノ払込ハ分割払込ト為シ払込ハ本公債ノ応募者ニ許可シタル条件ニ遵拠スル日ニ於テ之ヲ為ス可シ倫敦ニ於テ保管スル右勘定ノ貸方殘額ニ対シテハ年三分ノ割合ヲ以テ利息ヲ附シ又支那國ニ移送シタル部分ノ貸方殘額ニ対シテハ同銀行ガ平常カル勘定ニ対シ附スル所ノ利息ト同一ノ割合ヲ以テ利息ヲ附スヘシ香上銀行ハ敷設期間内ニ於ケル利息仕払並ニ其手数料ニ必要ナル資金ヲ控除シ純手取金ハ其利息ト共ニ鐵道總弁ノ命令ノ下ニ之ヲ保管ス

總弁ガ二万磅ヲ超過スル金額ノ支払ヲ許可スル場合ニハ

割支那國公使ニ通告シ其許可ヲ得テ右公債証書ノ仕払ガ中止セラレタルコトヲ新聞紙ニ広告シ且ツ關係國ノ法律慣習ニ從テ適當又ハ必要ト思ハル、所ノ他ノ手段ヲ取ルヲ得ベシ該公債証書若シ会社ノ予定期間内ニ回復セサルトキハ鐵道總弁又ハ倫敦駐劄支那國公使ハ同金額ノ公債証書ノ副本ヲ調製シ捺印ノ上之ヲ会社ニ交付スヘシ之ニ關スル費用ハ会社ノ支弁トス

第十一条 本公債ニ關スル各公債証書、利札利息仕払及元金償還ニ付テハ本公債ノ有効期間内各種ノ支那國税金ヲ免除セラル、モノトス

第十二条 目論見書ノ為メニ必要ナル一切ノ細目及本公債ノ元利仕払ニ關スル細目ニシテ本契約書中ニ明瞭ノ規定ナキモノハ会社ニ於テ倫敦駐劄支那國公使ト商議ノ上之ヲ取極ムベシ会社ハ本契約ニヨリ其代理人ナル香上銀行ヲ經由シテ本契約ノ調印後可成速ニ(後掲第十三条ノ規定ニ從ヒ)本公債ノ目論見書ヲ発行スルノ權利ヲ有ス且ツ支那政府ハ共同行為ヲ必要トスル事件ニ關シテハ会社ト協力シ又本公債ノ目論見書ニ署名スヘキコトヲ倫敦駐劄支那國公使ニ訓令スヘシ

右金額ヲ必要トスル日ヨリ十日以前ニ香上銀行ニ予告ヲ發スヘシ公債資金ノ引出請求ハ鐵道敷設事業ノ進捗上適當ナル金額タルヲ要シ專務理事又ハ適法ナル其代表者及會計長ノ署名シタル香上銀行宛支払命令ニ其仕払ヲ為ス可キ事業ノ性質ト費用トヲ明示スル証明狀ヲ添ヘ之ヲ為ス可シ

毎月ノ敷設費予算額ニ該當スル資金ハ總弁ノ請求アリタルトキ上海ニ回送セラル可シ回金ハ香上銀行ヲ經由スルモノトス且ツ回送金ハ鐵道ノ目的ノ為メニ必要ナルニ至ル迄香上銀行ニ預入セラル可シ

鐵道會計ハ予メ会社ノ承諾ヲ經テ鐵道總弁ガ選任スベキ適任者タル英人會計長ノ指導ヲ受ケテ支那語並ニ英語ヲ以テ新式ノ方法ニ依リ記載スヘシ會計長ニ關スル契約ノ条件ハ鐵道總弁之ヲ決スヘシ會計課ニ必要ナル人員ノ目錄ハ會計長調製シテ之ヲ鐵道總弁ニ交付シ鐵道總弁之ヲ決定任命スヘシ且ツ會計長ハ本公債ノ有効期間中ニ於テハ鐵道資金ノ各収支ニ關シ鐵道總弁及(又ハ)專務理事又ハ專務理事ノ代表者ノ下ニアリテ全責任ヲ有シ又鐵道資金ノ支払ニ關スル各書類ニ專務理事ト共ニ署名スヘシ

鐵道公司ハ毎年其年度末ニ於テ鐵道ノ營業費ト運輸收入トヲ示スヘキ報告書ヲ英語ト支那語トヲ以テ公刊シ公衆ノ請求ニ応ジ之ヲ附与スヘシ

第十五条 敷設期間内ニアリテ本公債ノ純手取金額ガ其利殖金ヲ合スルモ尚本公債ニ対スル利子ノ支払ニ必要ナル金額ヲ控除スルトキハ鐵道線路ノ敷設及ビ設備ヲ完成スルニ足ラサル場合ニ於テハ敷設工事ノ繼續ヲ中止セサル為メ之ニ流用シ得ベキ支那資金中ヨリ一時右不足額ヲ補給シ置キ尚不足額アルトキハ会社ヲシテ其必要額ダケ外國公債ヲ發行セシメ之カ補充ヲ行フベシ右補充公債ノ利息其他ノ条件ハ本契約ニ於ケルト同一ナルベシ

本線路竣工ノ後鐵道勘定ノ貸方ニ使途ヲ有セサル残額アルトキハ右残額ハ支那政府ガ本契約ニヨリ仕払ノ責任ヲ有スル所ノ仕払ニ対スル準備金トシ第十七条記載スル所ノ利子払準備金ノ貸方ニ移替スベシ

第十六条 鐵道ノ敷設監督權ハ全部支那政府ニ属スルモノトス支那政府ハ鐵道總弁ヲ任命シ總弁ハ本線路ニ近接ノ地ニ住シ本契約ノ条件ニ從ヒ政府ノ名ヲ以テ政府ニ代テ行動スルノ全權ヲ有スベシ技師長ハ總弁ガ予メ会社ノ承

敷設工事若シ全部竣功シタルトキハ技師長ノ任務ハ終了シタルモノトス總弁ハ一名ノ適任者ヲ英國技師中ヨリ選抜シ之ヲシテ總弁及ビ(又ハ)專務理事又ハ理事代理者ノ命ヲ受ケテ鐵道ノ維持ニ當ラシムベシ
右ノ二人ノ職員ハ予メ会社ノ承諾ヲ得タル上鐵道總弁之ヲ任命シ且ツ其雇傭契約ノ条件ハ鐵道總弁之ヲ決定スベシ

第十七条 本鐵道ノ收入及利得金ハ定期ニ之ヲ香上銀行ノ本鐵道ノ勘定中ニ払込ミ之ニ対スル利息ハ場合ニ從ヒ本銀行ガ当座勘定又ハ定期預金ニ対シ附スル所ノ利息ト同一利率ノモノタルベシ

線路ノ運轉及ビ維持費ハ本鐵道ノ收入及ビ利得金ヨリ之ヲ支払ヒ且残余アルトキハ本公債ノ元利金ヲ支払フベシ運轉及ビ維持ノ費用ヲ支払ヒタル後本公債ノ利息仕払並ニ本契約附屬償還表ニ依テ払渡スヘキ元金償還ノ準備ヲ為シ尚使途ナクシテ或他ノ目的ニ流用シ得ヘキ剩余金アルトキハ之ヲ支那政府ノ自由処分ニ附シ鐵道總弁ガ決定スベキ方法ニ從ヒ之ヲ使用スルヲ得セシムヘシ但此場合定期ノ利息仕払及ビ元金償還ニ足ルヘキ金額ハ必ズ鐵道

諸ヲ得テ選任スヘキモノニシテ適任者タル英人技師ヨリ採用シ總弁專務理事又ハ專務理事ノ適法ナル代表者ノ命令ヲ受クベキモノトス其雇傭契約ノ条件ハ總弁之ヲ決定スベシ技師長ハ測量及ビ本線路ノ設計ニ任ジ並ニ見積リ書ヲ作製シテ工事ノ実行ヲ指導シ且ツ總弁、專務理事又ハ專務理事ノ適法ナル代表者ノ許可ヲ得テ鐵道開通ニ必要ナル各材料ト設備品トヲ注文スルヲ以テ任務トス技師長ハ必要ナル支那人技師並ニ外國人技師ノ職員録ヲ作り總弁ニ交附シ總弁技師ヲ任命ノ上技師長ノ下ニ送派シテ技師長ノ割當ツル事務ヲ執ラシムベシ雇支那人技手及雇外國人技手ノ任命、其職權ノ決定及ビ其罷免ニ関シテハ總弁、專務理事又ハ專務理事ノ代表者ノ命ヲ受ケテ技師長之ヲ行フベシ

線路中或区域ガ敷設ヲ竣リ直ニ開通ノ準備成リタルトキハ技師長之ヲ鐵道總弁ニ引渡スベシ又鐵道總弁ハ事情ノ許ス限り右ノ区域ヲ運輸ノ為メニ開通シ且ツ適任者一名ヲ英國人ヨリ選抜シ運輸課長ニ補シ總弁及ビ(又ハ)專務理事又ハ總弁專務理事等ノ代理者ノ命ヲ受ケテ營業ノ監督ニ當ラシムヘシ

線路ノ工事竣成營業開始後右剩余金ヨリ控除ノ上右諸支払ノ満期日ヨリ六ヶ月前ニ香上銀行ニ之カ預入ヲ為シタルコトヲ要ス

鐵道ノ取得金ヨリ上記ノ目的ニ流用スベキ剩余金ノ存セサル場合ニ於テハ利息ノ支払又ハ元金ノ償還ノ為ニ必要ナル金額ハ第八条ノ条件ニヨリ之ヲ調達スベシ

第十八条 鐵道敷設期間内ニアリテハ会社ハ必要ナル外國輸入ノ各材料用具及ビ物品ノ購買ニ関シ鐵道公司ノ代理人トシテ行動スベシ重要ナル右材料ノ購買ニ際シテハ鐵道總弁入札ヲ行フベシ右代理人ハ海外輸入品並ニ材料ノ各入札、約定及ビ注文ノ場合ニ於テ鐵道ニ最モ有利ナル条件ヲ以テ必要ナル材料ヲ購買スベシ且ツ右代理人ハ之ニ関シ右材料ノ純原価ト五分ノ手数料トノ支払ヲ要求スルヲ得ベシ鐵道總弁ノ承認ナキ材料注文書ハ発スベカラズ又鐵道總弁ノ承認ヲ得ザル經費ハ支出スベカラズ材料注文書又ハ經費ニ関スル鐵道總弁ノ承認ハ技師長之ヲ申請スベキモノトス

右手数料ノ支払ニ対スル報酬トシテ会社ハ鐵道ノ敷設並ニ設備品ノ為ニ必要ナル各外國材料ノ購買ヲ監督シ一般

市場ニ於テ成ルベク最低率ニ於テ之ヲ購買スベシ但此際右ノ材料が善良ニシテ満足スベキ品質ノモノナラサルベカラズ又鐵道公司ガ右材料ノ支那国ニ到達シタル場合要件ヲ充ザル材料ヲ拒絕スルノ權利ヲ有ス價格並ニ品質若シ同一ナルトキハ英國品ハ他外国製造品ニ對シ優先權ヲ与ヘラル可シ

送付状正本及ヒ検査官ノ証明書ハ鐵道公司ニ交付セラルベシ諸種ノ報酬の手数料及ヒ割戻金ハ鐵道公司之ヲ得ルモノトシ又本鐵道ニ代テ代理人ノ為シタル買入ハ凡テ製造者ノ送付状正本及ヒ検査官ノ証明書ヲ以テ之ヲ証明ス可シ右以外ニハ何等ノ手数料ヲモ代理人ニ与フルコトナシ但顧問技師ヲ傭入タルトキハ右技師ニ對スル報酬ハ鐵道資金ヨリ之ヲ支払フベシ

支那工業奨励ノ為メニ價格及ビ品質ノ同一ナル場合ニハ支那国ニ於テ製造ノ支那国材料及物品ハ英國其他ノ外国品ニ對シ優先權ヲ与ヘラルベシ右ノ材料及ビ物品ノ購買ニ際シテハ鐵道公司ハ何等ノ手数料ヲ会社ニ仕払フヲ要セズ

鐵道敷設ノ工事竣了ノ後ト雖モ本公債ノ有効期間内ニア

思ハル、如キコトアルトキハ会社ハ本契約ノ実行ニ関シ双方ノ合意ニナル相当ノ猶予期間ヲ与ヘラル可シ右猶予期間内ニ公債ガ發行セラレサルトキハ本契約ハ無効ト為リ本契約第三条ノ規定ニ從テ会社ガ為シタル前貸金ハ之ニ其利息ヲ附スルノ外何等ノ賠償又ハ報酬ナクシテ支那政府悉ク之ヲ償還スヘシ

第二十二條 本契約ノ諸条件ハ滬甯鐵道ノ最終契約中ニ包含セラレタル諸条件ニ從フベキモノナルコトハ千八百九十九年一月六日付予備契約ノ規定スル所トス

滬甯鐵道契約第十二條ハ鐵道ノ純益中ヨリ或ル費用ヲ控除シタル後其二十「パーセント」丈ヲ債主ニ配分スベキコトヲ規定シ且ツ債主ニ對シ其公債ノ額面總額ニ對スル二十「パーセント」丈ノ純益分配証書ヲ發行シタリ会社カ右予備契約ニ依テ有スル所ノ權利ヲ拋棄シタルヲ以テ会社ニ右純益配分ノ對価トシテ本公債ノ手取金中ヨリ十二万磅ヲ目論見書中ニ示ス所ノ公債応募条件ニヨリ且ツ之ニ基ク期日ニ於テ其分割払込ニ從ヒ之ヲ保有スルノ權利ヲ附与スベシ純益分配ノ對価トシテ右以外ニ仕払ヲ為スコトハ如何ナル補充公債募集ノ場合ニモ之ヲ許サ

リテハ会社ハ向後公司ト会社トノ間ニ協定サル可キ条件ニ從ヒ鐵道公司ノ必要トスル外国材料ノ供給ニ関シテハ右代理業ニ付キ優先權ヲ与ヘラル可キモノナルコトヲ約ス

第十九條 本契約ノ鐵道線路ニ関スル支線又ハ延長線ニシテ将来支那政府ニ取り有利若クハ必要ト思ハル、モノハ支那政府ガ其自由ニ処分シ得ル支那財源ヨリ出ツル所ノ資金ヲ以テ之ヲ敷設スベシ且ツ外國資本ヲ必要トスル場合ニハ会社ニ優先權ヲ与フベシ

右支線及ビ延長線ノ距離ハ支那政府之ヲ決定スベシ

第二十條 本契約ニヨリ会社ヲ以テ公債証書所持人ノ受托者トス将来鐵道公司ト会社トノ間ニ本公債ニ関シ又ハ本公債ト関連シテ起ル所ノ諸問題ニ関シ生スヘキ所ノ将来ノ交渉ニツキテハ会社ハ公債証書ノ所持人ヲ代表シ且ツ之ニ代理スルノ權利ヲ有スルモノト看做スベシ

第二十一條 本契約ノ調印後ニシテ又本公債發行ノ目論見書發表前政治上若クハ金融上ノ危機發生シ市場及ヒ在来ノ支那政府公債ノ價格ニ影響ヲ及ボシ会社ノ意見ニテハ本契約ノ諸条件ヲ以テ公債ヲ發行スルトモ成功覚束ナク

ズ

第二十三條 会社ハ本契約ニ遵拠スル義務ヲ變ゼズシテ其權利權力及ビ自由ノ全部或ハ一部ヲ再譲渡又ハ復委任ノ權利ト共ニ或英國会社ノ重役又ハ代理人ニ譲渡又ハ委任スルヲ得ベシ此場合ニ於ケル譲渡再譲渡委任又ハ復委任ハ鐵道總弁ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十四條 本契約ハ西曆千九百十三年 月 日ニ相当スル中華民國第二年 月 日ヲ以テ国会ヲ通過シタル大總統ノ命令ニ依リ右ノ事由ヲ公式ニ北京駐劄英國公使ニ通牒シタル後外交部之ニ調印ス

第二十五條 本契約ハ支那語及ビ英語ノ分各四通宛ヲ作製シ三通ハ支那国政府ニ保存シ一通ハ会社ニ保存ス

契約ノ解釈ニ関シ疑問ノ起リタル場合ニ於テハ英文ノモノニ拠ルベシ

西曆千九百十三年 月 日ニ相当スル中華民國第二年 月 日契約当事者北京ニ於テ調印ス

(附 記三)

海蘭鐵道借款問題

(大正二年三月上旬政務局調)

六国団体ト支那側トノ借款談判一時中断中客年九月二十四日白耳義ノCompagnie Générale de Chemin de fer et de Tramways en Chineト支那側トノ間ニ調印セラレタル借款契約アリ右ハ江蘇省海州ヨリ河南省開封府ニ至リ既設ノ汴洛鐵道ヲ經テ河南府ヨリ陝西省潼關西安ヲ過キ甘肅省蘭州ニ至ル鐵道資金二億五千万法ヲ供給スル契約ニシテ且該契約ニハ右鐵道ハ必要ノ場合ニ更ニ之ヲ甘州ヲ經テ肅州迄延長スヘク尚該契約ハ各小枝線敷設ノ場合ニモ適用スヘキ旨ヲ規定シアリ右借款ニハ初メ仏國側資本家中ニモ有力ナル關係者アリタル由ナルモ仏國政府ハ六国団体規約ニ顧ミテ自國財業者ニ對シ該借款債券ヲ巴里取引所ニ上スコトヲ差止ムル旨言明シタル結果仏國側ハ一先ツ手ヲ引キ白ノ「ソシエテ、ジュネラル、ド、ベルヂック」及英ノ「シェレーダー」等之ニ關係スルニ至リタル趣ノ処右兩銀行ハ露國団体中ノ団員トシテハ六国団体ニ加入セルモノナルニ付仏國政府ヨリ露國政府ニ對シ注意ヲ促ス所アリタル趣ニテ為ニ結局右等白耳義及英國財業者モ公然本鐵道借款ニ參加シ得サル様ノ事態ト成リ爾來本借款ハ表面頓挫ノ姿ヲ呈シ居レリト雖同借款ニヨリテ敷設サルヘキ鐵道ハ予テ露國側

ニテ企画中ナル露領内ノ一点ヨリ蒙古ヲ通過スル鐵道ニヨリテ西比利亞線ト連絡スル虞モアリ事態ノ性質極メテ重大ナルガ在北京英國公使モ亦同鐵道ノ敷設ハ東洋ノ大勢ニ及ホス影響著大ナルモノアルヲ看取シ英國側ノ有スル條約又ハ契約ニ依リ該借款ヲ妨害スルノ方途ヲ研究シタルモ何等手懸ヲ得サル旨ヲ伊集院公使ニ語リタルニ付同公使ハ曩ニ六国団代表者カ周財政總長ト改革借款契約優先權問題（第十七條）商議ノ際周ヨリ申出タル草案ノ末段ニ「支那政府ハ本借款發行後六ヶ月間ハ銀行団ノ同意ヲ得ルニ非ンバ千九百十二年十二月一日後締結ノ政府借款又ハ政府保証借款ヲ發行セサルコトヲ約ス」トアルニ関シ周ハ端ナクモ十二月以前調印済借款ノ一例トシテ白耳義鐵道借款ヲ挙げタル処斯クテハ六國側ニ於テモ自然右借款ヲ公然承認スル姿トナリ面白カラサル旨ヲ英國公使ニ注意シタル結果兩公使ニ於テ種々内探ノ末仏國側カ実業借款分離ヲ主張スルハ実ハ白耳義鐵道借款ニ加入セン底意ヨリ出テタル模様ナル趣ヲ突止メ得タルニ依リ帝國政府ニ於テハ本借款ヲ六國団体ト白耳義会社トノ共同借款トナスコトヲ得策ト認メ前記借款契約第十七條ノ關係モアリ旁々一月十日ノ六國団体倫敦會

議ニ先チ在英加藤大使ニ訓令シ右ニ関スル英國当局ノ意見ヲ叩カシメタルニ英國外務大臣ニ於テモ事態ノ性質極メテ重大ニシテ特ニ該鐵道ノ軍略上ノ關係亦容易ナラサルモノアルヲ認メ大體帝國政府ノ所見ニ同意ヲ表シ仏國ヲ主トシテ關係各國トモ協議シ各國団体ヲシテ右借款ニ參加セサラシメ以テ實際上該借款ヲ不成立ニ終ラシムルカ又ハ帝國政府意見通り該借款ヲ六國団ト白耳義団トノ共同借款ト為スニ尽力スヘキ旨ヲ同大使ニ述ヘ次テ英國政府ハ一月七日附覚書ヲ關係各國政府ニ致シ前記優先權問題ノ成行ヲ叙シテ白耳義鐵道借款ハ客年十二月一日以前ニ締結セラレタルモノナルニ付發行差支ナキコトナルヘキガ尠クモ其金額ノ一部ハ白耳義以外ニ求メサルヘカラサルヘキ処六國団員自制セルヲ寄貨トシ締結セラレタル借款契約ニ依リテ六國団員ノ或者ガ利スル所アルハ不当ノ次第二ニシテ此点ニ関シ六國間ニ相當申合ヲ為スコト至当ナル旨ヲ述ヘ就テハ六國政府ハ各々其ノ國人ノ該借款投資ヲ援助セサルコトヲ約束セムコトヲ提議シ斯クスレハ多分事實上該借款ハ取消サレ六國団ハ相當ノ補償ヲ支払ヒ該借款ヲ引受ケ之ヲ國際的ノモノト為スヲ得ルニ至ルヘキ旨附說セルカ右ニ對シ帝國政府

ニ於テハ英國政府覺書ノ趣旨ニ同意ナル旨回答シタリ然ルニ二月十二日英國政府ヨリ内示セル本件ニ関スル仏國政府回答覺書ニ拠レハ仏國政府ハ英國政府申出ニ同意シ難キ理由ヲ述ヘ主トシテ仏國資金ヲ以テ建設シタル汴洛鐵道延長ニ関スル借款ヲ仏國市場ニ於テ發行セサル様仏國資本家ニ求ムルハ困難ナリト結論シ但シ英國外務省ノ意見ノ次第モアルコト故仏國政府ニ於テハ同鐵道借款ヲ他ノ實業借款ト同等ノ地位ニ置ク目的ヲ以テ北京ニ於テ六國間ニ共同申合セヲナスコト及漢口「ダラー」借款並ハ東借款ト共ニ該借款發行ノ時期ヲ改革借款發行六ヶ月後トスルコトニ折合フヘキニ付右ニ関スル英國政府ノ意嚮ヲ承知シ度旨申添居レリ英國政府ニ於テハ關係各國ヨリ尽ク回答ニ接シタル上ニテ前記仏國政府覺書ニ對シ照復スヘシトノコトナリ尚英國政府覺書ニ對シ回答シタルハ日、仏兩國ノ外米國ノミナルガ米國政府ノ回答ハ甚曖昧ナルモノナリト云フ

註 汴洛鐵道トハ開封及洛陽間鐵道ナリ

七 三月七日 在中国山座公使ヨリ 牧野外務大臣宛（電報）

滿蒙鐵道細目契約ノ商議開始ハ速ナルヲ要ス

ル件

第一九六号

貴電第八八号ニ関シ細目ニ関スル書類ハ已ニ御發送アリシヤ未タナレハ至急決定發送アル様致シタシ

各種ノ情報ヲ綜合スルニ支那側ニ於テハ滿蒙鐵道細目ニ関シ今日迄我ヨリ商議ヲ開カサルヲ以テ全ク資金欠乏ニ依ルモノトシ福建揚子江鐵道ノ如キハ真ニ敷設ノ意ナク単ニ利権ヲ獲得シ置クニ過キササルモノト觀察シ居ル模様アリ旁細目ニ関スル商議開始ハ成ルヘク速ナルヲ要スル次第ナリ

八 三月十一日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国側ハ四平街洮南線ヲ奉天洮南線ニ変更希

望ニ付請訓ノ件

第二〇四号

三月十日小田切ハ朱啓鈴ト面接先ツ滿蒙鐵道ニ関スル細目案モ既ニ本邦ヨリ發送セシ由ニ付接到次第協議ニ取懸ルヘク從テ他國ノ例ト同様多少前貸モ出来ヘキ見込ナリト告ゲタルニ朱ハ日本側ヨリ細目協議ノ申込何故ニ斯ク遅キヤヲ審カリ居タル折柄ニテ実ハ支那人中ニハ彼は評判サヘアリ

結果左ニ開陳ス

大体ニ於テ事ノ實際ニ差支ナキモノハ成ルヘク浦信契約ノ文句ヲ採用スルコト大綱ノ主意ニモ適ヒ且支那側ヲシテ無用ノ猜疑心ヲ起サシメスシテ商議ノ捗取り速ナルヘキニ付其方針ニ依レリ

第一条 年号ヲ削除シ「鐵道」ノ前ニ「滿蒙」ノ二字ヲ加フ但シ此ノ二字ハ支那側ノ好マサルヘキニ付先方ヲシテ適宜提案セシムルコト、シタシ

第二条 「兩鐵道」ノ「兩」ヲ削リ乙ノ次ニ「丙長春ヨリ起リ洮南府ニ至ル」ヲ加ヘ各鐵道ノ下ニ概算哩数ヲ記シ第二項ヲ「線路ハ測量ノ上本鐵道局長之ヲ定ム」ト改ム

第三条ハ浦信契約第三条全文採用但シ金額期限等ハ未定

(貴案ニ依レハ「建設」ハ construction and equipmentヲ意味スル場合ト單ニ construction ノミヲ意味スル場合トアルノミナラス「建設」ナル文字ハ誤訳ヲ来シ易キニ付 construction ハ「建造」 equipment ニハ適當ナル訳語ヲ用ユルコト然ルヘシ) 土地買収ガ「建設」ノ内ニ含マルヘキヤモ支那文ニテハ問題トナルニ付浦信契約ノ通トスル方可然

タル際ナレハ協議開始ハ至極憚ブ所ナリト答ヘ尚滿蒙鐵道ニ関シテハ關係地方ノ官民間ニ種々論議アルニ付何トカシテ四平街洮南ヲ奉天洮南ニ変更スルコトハ出来間敷ヤト述ヘタル由ナリ

然ルニ落合ノ内報ニ依レハ法庫門地方ノ人民ハ鐵道ノ同地方ヲ通過センコトヲ熱望シ居ル由ナルノミナラス過般当地ニ来リタル參謀本部員ヨリ聞ク所ニ依レハ陸軍側ニ於テハ該線路ヲ奉天起点トナスコトヲ切望セル趣ナルガ若シ果シテ帝國政府トシテ右ノ変更ヲ希望サルルニ於テハ支那側ノ希望セルニ乗シ之ヲ協議スルコト容易ナルヘシト思ハルルニ付細目協議ニ入ルニ先チ至急陸軍鐵道院等關係ノ筋ト御交渉ノ上本件ニ対スル政府ノ議ヲ一定シ御電示アル様致タシ

九 三月十七日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

滿蒙鐵道借款細目契約案ニ対スル意見ノ提示

及請訓ノ件

第二一九号

滿蒙鐵道借款細目契約案接到小由切ノ意見ヲモ徵シ研究ノ

第四条第五條浦信契約第四條第五條ノ通(第七條ト重複ノ嫌アリテモ支那人及応募者ニ了解シ易ケレハ其方可ナリ)

第六條第一項ノ終リニ第二十年後ハ額面通仕払フノ意味ヲ加フ此ノ規定ハ殆ント總テノ借款契約ニアルニ付之ヲ削除セサルヲ可トス

第七條第三項「受入ル、貨幣」ハ矢張 national currency云々浦信契約ノ如クシ第四項モ十四日前ノ規定ヲ入ル、方可然

第八條 「此ノ場合ニ於テモ」ハ不用ナルカ如シ 削除

第九條 原案ノ通ニシ附箋止メ

第十條第一項「捺印シ竝其ノ署名ヲ之ニ」ヲ「其ノ官印及署名ヲ」ニ改ム

第二項説明書案ノ通修正

第十四條以下ニ於テ「代理者」ヲ削リタル理由如何

第十四條末項「日支兩國語」ハ「日支英ノ國語」ニ改ム

第十六條第一項局長ガ附近ニ住居スルノ必要ナルハ支那特殊ノ事情ニ鑑ミ多年ノ經驗ニ依リ認ムル所ナレハ浦信契約通リノ方可然第二項及末項傭聘契約ヲ銀行ト協議ノ上

定ムルコトハ浦信契約ニナキ処支那側ノ承諾覚束ナケレトモ仮ニ原案ノ通

第十八条第一項及末項「建設」ハ「建造」ニ改ム

第三項ハ浦信契約ノ通トス支那側安心ノ為ナリ

第二十条ノ規定ハ大綱ニ定メアルコトナレトモ之ヲ細目契約ニ存スルトキハ洮熱線ニ対スル「ボーリング」及米國側ノ異議アルニ鑑ミ本公債倫敦ニテ売出ノ際差支ヲ来スコトナキヤ考慮スル必要アルヘシ

第二十一条ヲ浦信契約第十九条第一項通ニ修正スレハ（支那側ハ同意スヘキヤハ問題ナレトモ）第二十条記載ノ二鉄道ヲモ包含スルコトトモ解シ得ヘク我權利ハ頗ル広汎ノモノトナリ却テ利益アルモ前条ト関連シ考慮ヲ要ス又第二附箋通本条第二項トシテ挿入スハ第九条第三項ヲ支那側到底承諾ス間敷ニ付其場合ノ為ニ備フルモノニシテ兩方共成立スルコトハ不可能又不必要ナリ

第二十二条 大綱協定當時ヨリ支那側ニ於テ極力反対ヲ表セル所ニシテ断シテ同意セサルヘキハ勿論却テ大体ノ纏リヲ困難ナラジムヘキニ付提出セサル方然ルヘシ

第二十四条 末段附箋通改ム

第一三五号

貴電第二一九号ニ関シ

第一条 年号削除ハ異存ナキモ「滿蒙」ノ二字ヲ冠スルコトハ欧語ニ訳スル場合ナドニ如何ニモ大袈裟ニ聞コエ面白カラサルニ付公債名称ハ支那側提案ヲ待テ決定スルコトト致度シ

第二条 長春洮南線ニ付テハ御承知ノ通り陸軍側ノ希望モアリ又仮令事實上当分同線ニハ着手セサルコトト為シ得ルトシテモ甲乙丙ト併記スル以上ハ往電第一二八号ノ三千万円ヲ増額スルヲ要スヘク旁本条ハ是非共原案通リト致度シ概算哩数ノコト差支ナキニ付甲線百九十(90)哩乙線百二十(20)哩ト記入アリ度シ線路測量ノコトハ「線路ハ測量完成ノ上局長銀行ト之ヲ協定ス」トシテ本条ニ加フルコトト致度シ經過地域次第ニテ収支ニモ関係スル所尠カラサレハナリ

第三条 浦信第三条前段ヲ採用スルコトハ差支ナキモ(但シ数字ハ勿論往電第一二八号ノ通りタルヘシ)後段前貸ノ件ハ原案第三条付箋通リトスルコトニ致度シ但シ已ムヲ得サレバ前貸ノ件モ浦信第三条後段通リトスルモ強テ

第二十六条 曩ハ Straight ヨリ珍田大使へ申出ノ次第モアリ將來米國資本ヲ入ル、必要ヲ慮カリ第一項第二項トモ(倫敦巴里又ハ紐育)ト改ムル方可然尤第二十條削除ニ決セハ右ノ修正必要ナキコト勿論ナリ第二項(本公債ノ全部又ハ一部ヲ日本國ニ於テ發行スル場合ニ於テモ)ハ不必要且日本國ニ於テ發行セサルヲ原則トセル如キ感想ヲ支那側ニ与フルニ付削除シ(仏貨額)ノ次ニ(又ハ米貨額)ヲ加フ

第二十八条 (日本文支那文及英文)ト改メ末段日本文ヲ英文ト改ム

右ノ内單ニ字句ノ修正ハ別トシ實質ノ重要ナルモノ(仮令ハ第九条二十一条ノ如キ)ハ愈々商議ニ際シテハナルヘク貴案通提出シ先方ノ對案出テタル後交渉ノ模様ニ依リ結局右卑見ノ如ク折合フ積リニ付其御含ヲ以テ御考慮アリタシ

尚本案提出ハ一日ヲ遅ラシ難キニ付至急何分ノ回電ヲ請フ

一〇 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

滿蒙鐵道借款細目契約案ニ関シ回訓ノ件

異存ナシ何レノ途前貸金額ハ支那側申出ヲ待テ決定スルコトト致度尤モ結局利率年七分ニテ二百万円迄ハ前貸スル考ナルニ付御含置アリ度シ construction ヲ建造 equipment ヲ設備ト訳出スルコト差支ナシ

第四条第五條第六條貴電通リ修正提出アリタシ

第七条 national currency 云々トスルコト差支ナキモ我方ニ不利ナル解釈ヲ招カル様訳語ニ注意アリ度シ第四項ノ件差支ナシ

第八条 異存ナシ

第九条 原案ノ通り提出相成度付箋ノコトハ見合スヘシ

第十条 第一項第二項共貴電通リ修正提出アリ度シ

第十四條以下ニ於テ「代理者」ヲ削リタルハ余リニ下級ノ者ノ命令權迄契約面ニ規定シ且ツ之ヲ一々繰リ返ヘス必要モナカルヘク又局長副局長共不在欠員等ノ場合ニハ当然其代理者ヲ置クコトナルヘケレハナリ但シ浦信通リ

「代理者」云々ヲ挿入スルコトスルモ別ニ異存ナシ第十四條末項矢張り「日支兩國語」ト為シ置キ事實上英訳文ヲ作ルコトニ止メ度シ

第十六条第一項貴電通り修正提出アリ度シ傭聘契約ノコトハ是非原案成立ヲ希望ス

第十八条「建造」ト修正差支ナシ第三項浦信通リトスルコト異存ナシ但シ in return 〆〆 come up to specifications迄タルハ勿論ナリ

第二十条第二十六条ニ紐育ヲ加フルノミニテ可ナルヘク米國側ノ異議アル丈却テ本条ハ削除セサルコトト致度シ

第二十一条 現ニ浦信定本ニモアル規定ナルニ付支那側ニ於テ不同意ヲ唱フヘキ理由ナク又極メテ重要ナル事項ニモアリ旁本条ハ之ヲ存置致度シ但シ浦信第十九条第一項通り修正スルコトハ異存ナシ次ニ第二付箋ハ本条第二項トシテ挿入提出スルコトト致度但シ右付箋ト第九条第三項トハ自ラ問題ノ範圍モ異ルカ故ニ兩者共成立スルコトハ我方權利保護上最好マシキニ付成ルヘクハ双方成立ヲ見ル様精々御尽力アリ度シ尤モ当方ニテハ兩者中第九条第三項ノ方ニ一層重キヲ置ク次第ナリ

第二十二條 鐵道ノ収支從テ本公債ノ担保力ニモ關係アリ且滿蒙ニ於ケル我方特殊ノ地位ニ鑑ミ是非共本条ハ之ヲ存置致度支那側飽迄不承諾ナルニ於テハ「支線延長線併

行線」ノ代リニ「競争線」ノ文字ヲ用フルカ又ハ只漠然ト「政府ハ本公債ノ担保ヲ損傷スルノ虞レアル措置ヲ為サルモノトス」ノ意味ニ改ムルモ可ナリ

第二十四条 異存ナシ

第二十六条 原案第一項ト第二項トヲ入レ換ヘ且凡テ貴電通り修正提出アリタシ

第二十八条 浦信英文ハ不正確ノ箇所尠カラス且今後ハ日支間ノ取極等ハ成ヘク日本文ヲ標準トスルコト、致度考ナルニ付（英文トスレハ最後ノ解釈ハ英米人ノ決定ニ待タサルヘカラサルコトトナリ甚面白カラス）本契約ハ日支両文ヲ以テ作成シ疑義ハ日本文ヲ以テ之ヲ決スルコトト致度シ但事實上英訳文ヲ作成スルコトハ勿論差支ナシ尚第六条冒頭臨時償還ヲ開始シ得ル時期ハ十一年目ヨリ又第十三条第二項ノ発行手数料額ハ五分五厘（5.5%）トスルコトニ決定セリ

一一 四月三日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

滿蒙鐵道借款細目案第二十二條削除方ノ件
第二六八号

政務局長 小池張造殿

拜啓左記事項ニ関スル電信別紙ノ通り弊行左記トノ間ニ受授仕候間茲ニ供御内覽候 敬具

小田切取締役來電

四月三日發

一、滿蒙鐵道借款細則契約案ニ関スル同役ノ意見
（附屬書）

在北京小田切取締役來電寫

四月三日發
四日着

滿蒙鐵道借款細則契約案ニ関シ左ニ愚見申述候

第一、支那側ニ於テ長春洮南府線ヲ重要視スルコトハ大綱交渉ノ初メヨリ明瞭ノコトニテ當時駐支公使ニ申出又屢々本役ニ明言セル所ナリ故ニ第二条ニ規定スルガ如ク該線ヲ後廻シスルコトハ支那側ノ断シテ承諾セサル所ナルノミナラズ痛ク其感情ヲ害スベシト思ハル

第二、第二十二條併行線ニ関スル規定ハ駐支公使、葉恭綽談話ノ模様ニ徴スルモ之ヲ契約中ニ記入スルコト支那側ニ於テ到底承諾セサルベク又浦信鐵道契約ニナキ條項ハ之ヲ書加ヘサル方談判ノ進行ヲ円滑ナラシムベシ第二十一条規定存在スル以上本邦ノ利益ハ充分確保セラレタリト思ハル、以上ノ理由ニ依リ第二条ニ長春洮南府線ヲ加ヘ第二十

一二 四月四日 井上橫浜正金銀行頭取ヨリ
小池政務局長宛

滿蒙鐵道借款細目契約案ニ関スル小田切取締

役電報送付ノ件

附屬書 四月三日在北京小田切正金取締役發井上頭取宛
來電寫
滿蒙鐵道借款細目契約案第二十二條等ニ
関スル件

大正三年四月四日

橫浜正金銀行

頭取 井上準之助

二条ヲ削除スルコト御再考有之度兩三日中ニ本契約案支那当局者へ提出ノ答ニ付其筋ト協議ノ上至急何分ノ回答有之度尚ホ公債証書印刷費ニ関シテハ第十条ニ何等ノ規定ナシ然ルニ浦信鐵道契約漢文ニハ総テノ費用ハ会社之レヲ負担スト規定シ又本役ノ質問ニ対シ Mayers ハ銀行負担ナリト明言セリ故ニ本件ニ関シ支那側ヨリ質問アラバ本行ニ於テ負担スト答へ差支ナキヤ併セテ回答ヲ請フ

一三 四月四日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

滿蒙鐵道細目契約案第二十二条ヲ削除シ第九
条中ニ同趣旨ノ規定ヲ加へ提出アリ度旨訓令
ノ件

第一六六号
貴電第二六八号ニ関シ

御来示ノ如キ御見込ナルニ於テハ已ムヲ得ザルニ付表面ヨリ併行線又ハ競争線ノ文字ヲ掲グルコトヲ避クル為第二十
二条ハ之ヲ削除シ第九条(Article 9) 中ニ夫レトナク「政
府ハ本公債ノ担保ヲ損傷スルノ虞アル措置(或ハ措置又ハ
施設)ヲ為サ、ルモノトス」ノ意味ノ規定ヲ加へ兎モ角先

滿蒙ニ於テ軍事上我希望スル鐵道網ハ附図第一ノ如シ而
シテ此等諸鐵道ハ其素質ヲ概ネ南滿鐵道ト同一ナラシメ
殊ニ其輪転材料ノ制式ハ必ス之ヲ同鐵道ト合一セシムル
ヲ要ス

理由

本鐵道網ハ滿蒙ニ於ケル我カ特種ノ利權保護ノ為メ用
兵上必要トスル所ナリ然リ而シテ南滿線ヨリ左右ニ分
岐スルモノハ之ヲ奉天ヨリシ同地ヲ以テ南滿交通ノ中
心タラシムルヲ要ス故ニ近來成立セル洮南線、海龍線
ノ如キモ之ヲ奉天及撫順線ヨリ分岐セシムヘク若シ四
平街及開原ヨリ分岐セシムルノ已ムヲ得サル場合ニ在
リテハ奉天以北ノ南滿線ヲ之ニ伴フテ複線ニ改築セサ
ルヘカラス又鐵道素質ノ同一殊ニ輪転材料制式ノ合一
ハ諸鐵道ニ於ケル連帶運轉ヲ容易ナラシムル為メ緊要
欠クヘカラサル事項ナリトス

第二、支那本部ニ於ケル鐵道網

支那本部ニ於ケル我利權ノ關係ニ稽ミ軍事上我カ希望ス
ル鐵道網ハ附図第二ノ如シ

理由

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 一五

方ニ提出アリ度シ

一四 四月七日 楠瀬陸軍大臣ヨリ
牧野外務大臣宛

陸軍側希望ノ中国鐵道網ニ関スル件

附屬書 支那ニ於テ軍事上我希望スル鐵道網

(四月七日接受)

軍事機密
陸軍省 陸機密第三九号

支那ニ於ケル軍事上我希望スル鐵道網ノ件通
牒

大正三年四月七日

陸軍大臣 楠 瀬 幸 彦(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

支那ニ於ケル軍事上我希望スル鐵道網ハ別冊ノ通ニ候間及
通牒候也

(附屬書)

別冊

極秘

大正三年三月

支那ニ於テ軍事上我希望スル鐵道網

第一、滿蒙ニ於ケル鐵道網

福建省ニ於ケル我カ特種利權及漢治萍ニ於ケル利權保
護ノ為メ並ニ軍需品調達ノ為メ用兵上必要トスル所ナ
リ

附言 将来列國ノ鐵道利權獲得ニ因リ我利權ヲ保護
シ若クハ列國ト均衡ヲ保持スルノ必要ヲ生シ更ニ
線路ヲ増加セサル可ラサルコトアラン是等ハ時ニ
及テ意見ヲ呈出スルコトアルヘシ

註 附図第一及第二省略 附図(一)所載鐵道下記ノ如シ、千金寨
・吉林、吉林・会寧、海龍・通化、奉天・洮南、法庫門・
東島珠穆沁王府、新民府・承德・北京

一五 四月十日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

滿蒙鐵道借款細目契約案中国側へ提出ノ件

附屬書一 滿蒙鐵道借款細目契約案

二 四月十日付在中国日本公使館ヨリ中国外交部
宛往翰第三十二号

附記一 四月二十三日附小村外務書記官ヨリ富田大藏
書記官宛半公信

滿蒙鐵道借款細目契約案ニ関シ大藏省側意見
問合ノ件

二 四月二十八日附山崎理財局長ヨリ小池政務局

機密第一五二号

(四月拾八日接受)

大正三年四月十日

在支那

特命全權公使 山座 円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

滿蒙鐵道借款細目契約案送附ノ件

本件ニ関シ三月六日附政機密送第六五号貴信ヲ以テ擬定案御送附相成当方ニ於テモ研究之上具申スヘキ旨御申越之趣敬承右ニ基キ爾来小田切正金取締役ト協議致シ隨時請訓ノ上改訂立案致候分別紙甲号和訳文各通ノ通り調製致シ候間御査閲相成度就テハ本件ハ可成速ニ小田切ト交通部当局トノ間ニ協議セシムヘキ筈ニ付四月十日附書面ヲ以テ本使ヨリ孫外交総長ヘ別紙乙号ノ通り申送り交通部当局ヘ轉達知照方取計置候間左様御承知相成度此段報告申進候也

(附屬書一)

甲号

鐵道借款細目契約案

大正二年十月五日即チ中華民國二年十月五日ノ借款大綱ニ

造中ニ於テ支払フヘキ本公債利子ニ充ツ

右建造ハ本契約調印後六個月以内ニ起工シ實際起工ノ開始ヨリ凡ソ五年間ニ完成スヘシ

前記六個月ノ期間内銀行ハ本鐵道局長ニ對シ公債募集金勘定ノ第一回払込トシテ金 円ヲ超過セサル金額ヲ局長ノ命ニ依リ日本ニ保管シ又ハ支那ニ廻送シ本鐵道局ノ使用ニ供スヘキコトヲ通知スヘシ

右ニ拠リ實際前貸セラレタル金額及其ノ利子ハ第一回公債募集金中ヨリ控除セラルヘク其ノ利子ハ年七分ヲ超過セサルモノトス

第四条 本公債ノ利率ハ額面金額ニ對シ壹個年百分ノ五トシ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支払フモノトシ公債發行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ本鐵道建造中ハ公債募集金又ハ其ノ他ノ財源ヨリ完成後ハ先ツ本鐵道收入ヨリ次ニ政府力適當ト認ムル他ノ收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ公債發行ノ日ヨリ半年毎ニ計算シ各期日拾四日前ニ支払フモノトス

第五条 本公債ノ期間ハ四拾個年トシ元金ハ公債發行ノ日

基キ大正 年 月 日即チ中華民國 年 月 日北京ニ於テ支那政府(以下政府ト称ス)ト日本国横浜正金銀行(以下銀行ト称ス)トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第一条 政府ハ銀行ニ五分利付政府金貨公債參千万円ヲ發行スルノ權限ヲ付与ス

本公債ハ支那政府五分利付 鐵道公債ト称シ發行ノ日ヲ以テ其ノ日附ト為ス

第二条 本公債募集金ハ左記兩鐵道ノ建造ニ充ツルモノトス

甲、四平街ヨリ起リ鄭家屯ヲ經テ洮南府ニ至ル延長里程約壹百九拾英里

乙、開原ヨリ起リ海龍城ニ至ル延長里程約壹百貳拾英里線路ハ測量完成ノ上本鐵道局長銀行ト之ヲ協定ス

政府ハ長春吉長鐵道停車場ヨリ起リ南滿州鐵道ヲ貫越シ洮南府ニ至ル鐵道ヲモ亦銀行ニ由リテ發行スル公債ヲ以テ建造スルモノトス其ノ金額其ノ他ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第三条 本公債募集金ハ專ラ本鐵道線路ノ建造費(土地車輛及其ノ他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム)經營費及建

ヨリ之ヲ起算シ第拾壹年目ヨリ其ノ償還ヲ始ム

右償還ハ第六條ノ場合ヲ除キ本鐵道ノ收入又ハ政府ノ適當ト認ムル其ノ他ノ收入ヲ以テ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ公債發行ノ日ヨリ起算シ各期日十四日前ニ之ヲ行フモノトス

第六條 本公債發行ノ日ヨリ拾個年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場合ニ於テハ第貳拾年目迄ハ額面百分ノ貳半ノ割増即チ金壹百円ニ付金壹百零貳円五拾錢ヲ支払ヒ第貳拾年以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六個月以前ニ書面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ当日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七條 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日拾四日前ニ第四条及第五条所載ノ元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第六條ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日

拾四日前ニ必要ノ元金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ政府ハ日本ニ於テ金貨ヲ以テスル
交付額相当ノ上海規銀^{又ハ}新国幣^{（スノ如キ貨幣カ有効}
ニ確立セラレタル時ニ限ル[）]ヲ在上海銀行ニ支払フモノ
トス政府ハ支払ノ当日又ハ期日前六個月内何時ニテモ銀
行ト右為替相場ノ取極ヲ為スコトヲ得

若シ政府カ特ニ右ノ目的ノ為メ支那ヨリ送金シタルモノ
ニアラサル金資金ヲ善意ニ日本ニ所有スルトキハ各期日
拾四日前ニ之ヲ前記支払ニ充ツルコトヲ得

銀行ハ本公債元利金支払ノ費用ニ充ツル為メ其ノ取扱金
額ニ対シ毎回千分ノ式半ノ手数料ヲ受クルモノトス

第八条 政府ハ本公債ノ元利金支払ヲ無条件ニ保証シ本公
債募集金^{又ハ}本鐵道收入ニシテ本公債元利金支払ニ不足
ヲ告クルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ期日拾四
日前ニ之ヲ銀行ニ交付スヘシ

第九条 本公債ハ現在及将来ニ於テ本鐵道ニ属スル一切ノ
動産及不動産並本鐵道一切ノ收入ニヨリテ第一位ニ担保
セラル

第十五条第一項ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前

詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ナキモノハ銀行ニ於テ日
本駐割支那公使ト協定スヘシ

銀行ハ第十三条ノ規定ニ從ヒ本契約調印次第本公債募集
目論見書ヲ發行スルコトヲ得

政府ハ日本駐割支那公使ニ対シ必要ニ応シ銀行ト協力ス
ルコト及本公債募集目論見書ニ署名スルコトヲ訓令スヘ
シ

第十三条 銀行ハ工事ノ計画並其ノ進行ノ程度及市場ノ状
況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ
得

政府手取額ハ發行手数量トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分
ノ五半ヲ控除シタルモノトス

第十四条 本公債募集金ハ公債応募者ノ分割払込額及其ノ
期日ニ從ヒ在横浜銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ繰入ルル
モノトス横浜ニ於ケル該勘定残高ニ対シテハ年参分支那
ニ送金シタルモノノ残高ニ対シテハ銀行ノ普通ノ率ニ從
ヒ利子ヲ付ス本公債募集金並其ノ利子ハ其ノ中ヨリ鐵道
建造中ニ於ケル本公債利子支払及其ノ取扱手数料ニ要ス
ル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ本鐵道局長ノ

項ノ動産不動産及收入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保
セラル

本公債ノ担保ハ之ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為シ又ハ
之ヲ損傷スルノ虞アル措置施設ヲ為スコトヲ得ス

第十条 銀行ハ本公債全額ニ対シ銀行ニ於テ適宜定ムル額
面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得其ノ様式ハ銀行ニ
於テ本鐵道局長又ハ日本駐割支那公使ト之ヲ協定ス公債
証書ハ日支兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シ局長ノ署名及官印ヲ
印写ス又日本駐割支那公使ハ公債証書發行ニ先チ各証書
ニ署名及官印ヲ印写セシメ以テ公債ノ發行カ政府ノ許可
ニ依ルコト及政府ヲ拘束スルコトヲ証明シ銀行モ亦本公
債發行取扱者トシテ其ノ代表者ヲシテ証書ニ署名セシム
ヘシ

本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ
銀行ハ直ニ局長及日本駐割支那公使ニ通知シ關係国ノ法
律習慣ニ從ヒ必要又ハ便宜ト認ムル措置ヲ執ルヘシ

第十一条 政府ハ本公債証書並利札及本公債元利金ノ受払
ニ関シテハ本公債期間中一切ノ公課ヲ免除ス

第十二条 公債募集目論見書及元利金支払其ノ他ニ関スル

指図ヲ待ツ局長ニ於テ金 円以上ヲ引出サントスルト
キハ其ノ引出期日拾日前ニ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

公債募集金ハ鐵道建造ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ
性質及費用ノ証明書ヲ添付セル局長及會計主任連署ノ銀
行宛支払命令ニ依リテ之ヲ引出スモノトス

建造費毎月見積高ニ対スル資金ハ局長ノ請求次第ニ上海
ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鐵道ノ用途
ニ供セラルル迄在上海銀行ニ於ケル預金タルモノトス

會計主任ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ局長ニ於テ銀行ノ承
諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協
議ノ上之ヲ定ム

會計主任ハ會計部所要内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之
ニ依リテ任命ヲ行フ會計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ
定ム

會計主任ハ本公債期間内局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鐵
道ニ関スル一切ノ収支ヲ管理シ且本鐵道ニ関スル支出ニ
付一切ノ書類ニ副局長ト連署ス

本鐵道ニ関スル諸勘定ハ會計主任指揮ノ下ニ新式西洋簿
記法ニ拠リ日支兩國語ヲ以テ記帳スヘシ

鐵道局ハ其ノ營業開始後毎年度終了後ニ於テ日支兩國語ヲ以テ決算報告書ヲ刊行シ請求ニ応シ之ヲ交付スヘシ

第十五条 本公債募集金並其ノ利子ニシテ建造中ニ要スル本公債利子ヲ控除シタル後本鐵道ノ建造及設備ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス若シ尚不足ヲ告クルニ於テハ銀行ニ由リテ発行スル公債ヲ以テ補足スヘク其ノ利子其ノ他ノ条件ハ本契約ニ於ケルト同一タルヘシ

本鐵道完成後本鐵道局勘定ニ使途ヲ有セサル預金殘高アルトキハ之ヲ第十七条ニ規定セル公債利子準備金勘定ニ振替ヘ以テ政府カ本契約ニ依テ義務ヲ負フ支払ノ準備トス

第十六条 本鐵道ノ建造及管理ハ一切政府ニ於テ之ヲ行フモノトス

政府ハ本鐵道局長一名ヲ任命ス局長ハ常ニ本鐵道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シテ本契約ノ規定ニ依リ本鐵道ニ関スル事務ヲ行フノ全權ヲ有ス

技師長ハ日本人ヲ以テ之ニ充テ局長ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議ノ

運輸主任及保線技師ノ傭聘契約ハ局長ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム

第十七条 本鐵道收入ハ遲滞ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ払込ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座預金トシテ其ノ利率ハ隨時銀行ト協議シテ之ヲ定ム

本鐵道營業費及保存費ハ總テ右收入ヨリ支出シ其ノ殘額ハ之ヲ本公債利子支払並本契約附表ニ依ル元金償還ニ対スル相當準備ニ充テ尚剩余アルトキハ政府ハ本鐵道局長ノ決スル方法ニ從ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ但鐵道全部開通後ハ本契約附表ニ依リ元利金ヲ支払フニ足ル金額ヲ前記剩余金ヨリ控除シ各期日六個月前ニ之ヲ銀行ニ預入ルヘシ

若シ鐵道收入ニシテ元利金ヲ支払フニ足ル剩余金ナキトキハ本契約第八条ノ規定ニ從フ

第十八条 銀行ハ本鐵道建造中外国ヨリ輸入スヘキ材料機械其ノ他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定ス

右購買中其ノ重要ナルモノニ付テハ本鐵道局長ニ於テ之ヲ入札ニ附ス取扱者ハ外国品ノ入札約定又ハ注文ノ場合ニ於テ鐵道ノ為最有利ナル条件ヲ以テ購買ヲ為シ購買原

上之ヲ定ム技師長ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ本鐵道線路ノ測量設計及見積ヲ為シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ並鐵道建設ニ必要ナル材料機械其ノ他ノ物件ノ注文ヲ為ス

技師長ハ技師部所要内外人員表ヲ局長ニ提出シ局長之ニ依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

技師長ハ局長又ハ副局長ヨリ内外專門技術員ノ任免及其ノ事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ付与セラ

ルヘシ
本鐵道ノ各区域ハ其ノ完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ局長ニ引渡シ局長ハ事情ノ許ス限り速ニ当該区域ノ運輸ヲ開始スルモノトス

局長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス運輸主任ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ局長ハ銀行ノ承諾ヲ得テ更ニ日本人一名ヲ保線技師ニ任命ス保線技師ハ局長又ハ副局長ノ命ヲ承ケ鐵道ノ保存ヲ掌

ル
價及其ノ百分ノ五ノ取扱手数料ヲ受ク但注文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨリ局長ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ前記手数料ノ支払ヲ受クルニ因リ鐵道ノ建造設備ニ必要ナル一切ノ外国材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ支那ニ到着後注文明細書ニ符合セサルトキハ鐵道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

外国材料機械其ノ他ノ物件ヲ購買スルニ当リ其ノ品質價格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ次ニ取扱者ノ推薦スル国ノモノヲ購買スヘシ

送狀及検査人証明書ハ之ヲ鐵道局ニ提出シ各種ノ割戻及割引ハ鐵道局ニ歸ス

取扱者カ鐵道ノ為ニスル購買ニ付テハ總テ製造者ノ送狀及検査人証明書ヲ以テ証憑トナス

取扱者ニ對シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給セス但顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鐵道局勘定ヨリ其ノ報酬ヲ支給スヘシ

若シ支那產材料及支那製品ニシテ其ノ品質價格同一ナル

トキハ支那産業奨励ノ為最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ取扱手数料ヲ支給セス

取扱者ハ本鐵道建造完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道局所要外国品ノ供給ニ関スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス其ノ取扱条件ハ追テ之ヲ協定スヘシ

第十九条 政府ハ本鐵道局所要ノ材料機械其ノ他ノ物件ニ對シテハ關稅厘金其ノ他右ニ類スル一切ノ公課ヲ免除ス

第二十条 政府ニ於テ外債ニ依リ洮南府ヨリ承德府城ニ至ル鐵道及海竜府ヨリ吉林省城ニ至ル鐵道ヲ建造セントスル場合ニハ該外債ニ関シ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

第二十一条 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約所載鐵道線路ノ支線又ハ延長線ヲ建造セントスル場合ニハ政府ハ支那ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リ之ヲ建造セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス右支線又ハ延長線ノ里程ハ政府之ヲ決定ス

其ノ他本鐵道ニ關スル一切ノ外債ニシキ政府ハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

第二十二条 銀行ハ公債証書所持人ノ受托者タルモノトス

從テ本公債ニ關スル事項ニシキ鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タルヘシ

第二十三条 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市場及支那政府現存公債ノ市價ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事變發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公債發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政府ト協定スル相当期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ右期間内ニ仍ホ其ノ發行ヲ見サルニ於テハ本契約ハ之ヲ無効トス此場合ニ於テ政府ハ本契約第三条ニ依ル前貸金ニ利子ヲ付シテ返済スル外銀行ニ對シ別ニ何等ノ報償ヲ与エサルモノトス

第二十四条 銀行ハ本契約ニ依リ享有スル權利ノ全部又ハ一部ヲ再讓渡又ハ複委任ノ權利及其ノ負担スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得但シ右讓渡再讓渡又ハ委任複委任ハ本鐵道局長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十五条 銀行ハ本公債ノ流通ニ便ナラシムル為証書ニ額面金額相当ノ一定英貨額仏貨額又ハ米貨額ヲモ記載シ

並ニ日支兩國語ノ外英語又ハ仏語ヲ以テ之ヲ印刷シ且倫敦巴里又ハ紐育ヲ本公債元利金支払地ト為スコトヲ得

銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ倫敦巴里又ハ紐育ニ於テ發行スルコトヲ得

本契約中前記二項ニ關連スル各条ハ右二項ノ場合ニ於テハ夫々必要ノ變更ヲ受クルモノトス

第二十六条 本契約ハ大正 年 月 日即チ中華民國 年 月 日大總統令ニ準拠シテ調印シタルモノニシテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ支那駐割日本公使ニ通告ヲ經タリ

第二十七条 本契約ハ日本文及支那文ヲ以テ各四通ヲ作成シ其ノ内各三通ヲ政府ニ各一通ヲ銀行ニ保存ス本契約ノ解釈ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

(右漢訳文)

鐵路借款合同

本合同係根據中華民國二年十月五日即大正二年十月五日所訂借款大綱中華民國政府以下稱 爲政府與日本國橫濱正金銀行以下稱 爲銀行中華民國三年 月 日即大正三年 月 日在北

京訂立議定條款如左

第一條 政府准銀行承辦發售五釐利息金幣借款數目係日金參千萬圓本借款日期即售票之日訂定名爲 中華民國政府五釐利息 鐵路公債

第二條 本債票進款充爲建造左列鐵路之用

甲 由四平街起經鄭家屯至洮南府爲止共長約一百九十英里

乙 由開原起至海龍城爲止共長約一百二十英里
前開路綫俟測勘完竣後應由督辦與銀行協定

政府允由長春之吉長鐵路車站起貫越南滿洲鐵路至洮南府之鐵路亦應用銀行承辦發售債票進款建造其數目及其他辦法日後再行協定

第三條 本債票進款專充爲建造本鐵路購辦地段車輛及一切應配物料並經營行車之費及於造路期內應付債票利息之用

建造工程須於本合同簽押後六個月以內開工自實在開工之日起估計約需五年造竣

在前開六個月限期内應由銀行將預備至多日金 圓之款作爲銀行代墊首次出售債票進款聽候督辦或在日本存款

或滙至中國以備本鐵路局提用等情知會督辦此項墊款實在提用之數並其利息均由首次出售債票進款內儘先扣除其利息常年不得過七釐

第四條 本債票利息按票面數目作爲常年五釐自出售債票之日起算每半年交付執持債票人一次

此項利息

政府在建造本鐵路期內或由出售債票進款或由別項進款交付在其造竣後先由本鐵路進款交付次由政府以爲合宜之別項進款交付自出售債票之日起算每半年按照本合同附表數目日期於十四日前交付一次

第五條 本借款以四十年爲期自出售債票之日起算至第十一年起還本

此項還款除第六條所開辦法外由本鐵路進款或由政府以爲合宜之別項進款交付自出售債票之日起算每年按照本合同附表數目日期於十四日前交付一次

第六條 由發售本債票之日起經過第十年後無論何時若

政府欲將本合同附表所載未到期之借款全數清還或欲先還若干均可照辦至期二十年照債票上數目加價一百分之二半即係每一百圓還一百零二圓五十錢第二十年後無須加價

政府確保全還若本債票進款及本鐵路進項不敷付還本利之數由

政府設法以別項款項補足按期十四日前交付銀行

第九條 本借款以現在及將來屬本鐵路所有一切動產不動產及各項進款作爲頭次抵押

按照第十五條第一項所訂立之借款亦以前項所開動產不動產及進款作爲與此項借款同等之抵押

本借款之抵押不得作爲前開二項以外債務之抵押並不得有與此項抵押有所虧損辦法

第十條 本借款全數准銀行印發債票其數目由銀行酌定其式樣由銀行商同督辦或中國駐日公使酌定債票用中日文字印刷督辦所簽姓名及其關防均摹刻於上中國駐日公使於債票未發之前須逐張將其所簽姓名及其關防摹刻於上以證

政府允准及擔認發售此項債票銀行亦委代表人在債票上加簽以證其爲發售債票之經理人

倘本借款發出之債票或遺失或經毀損或被竊銀行隨即知會督辦及中國駐日公使並按照關係國之法律習慣視其或爲必須或爲適宜隨時酌量辦理

第十一條 所有本借款之債票息票以及本借款付利還本等事

如遇有前開臨時償還時

政府應於六個月以前用公文知會銀行

此項臨時償還照本借款招帖內載粘圖日期多加粘圖次數

第七條 政府既派銀行爲經理此項借款之代表須將第四條及第五條所載本利照本合同附表數目日期十四日前交付銀行

如遇有第六條所載臨時償還時

政府亦須將應還之本及加價先期十四日前交付銀行

前二項所開應付還款項須由

政府按照足數在日本交還日幣之數核算用上海規銀及新國幣（一俟此項國幣行有實效）交付在上海之銀行其滙價於付款當日與該銀行訂定或可於六個月以內無論何時隨便訂定

如或

政府在日本實在存有日本金幣果係並非專爲前開付還起見滙去者則於先期十四日前可用此項存款付還本利

銀行應照經手款數每次於一千分計收二分五用費作爲經理

本借款本利之費

第八條 本借款債票本利

在借款期內

政府概免各項稅捐

第十二條 所有借款招帖以及付利還本並其餘一切詳細辦法未經本合同內詳載者由銀行會同中國駐日公使酌定

俟本合同簽字後即准銀行遵照下節第十三條所載發行本借款招帖

政府飭令中國駐日公使遇有必須之事即與銀行協同酌辦並令於本借款招帖簽字

第十三條 銀行得酌量工程計畫及其進行程度以及市面情形或一次或分數次發售本借款之債票

政府應收之債票淨價係由售出之實數扣除銀行用費每百分五分之餘數

第十四條 本債票進款按照購票人分次交款及其日期在橫濱交付銀行收存本鐵路項下其在橫濱現存之款項按常年三釐給發利息滙至中國各款按銀行常例給息此項債票進款暨生發之利息除造路期內交付借款利息並經手用費外銀行將此款存放聽候督辦提用督辦提用款項若過 圓之數應於用款前十日知照銀行

此項債票進款隨本鐵路工程進行所需可隨時提用惟須核照

督辦及總會計向銀行開具會同簽字之發款憑單並須將此款所用之工程性質及價值另單聲明緣由方可交款

按照預行估定之每月應需造路用款一俟由督辦知會銀行即當滙至上海此項滙款歸銀行經理其在爲鐵路事宜提用以前作爲在上海銀行存款

總會計以日本國人員充當由督辦預先商明銀行同意由督辦任用其聘用合同由督辦與銀行商定

所有會計處應用之人員由總會計開列額缺數目清單呈請督辦核准由督辦選充至各人員分管事務應由總會計派定

本借款期內該總會計承督辦及總辦命令專司本鐵路一切收支各款並關於用款各單據同中國總辦簽字

關於本鐵路一切賬目應由總會計指揮用中日文字按照新式外國簿記法登記

鐵路局開始營業以後每屆結賬年度用中日文刊印決算報告書以便任人取閱

第十五條 所有本債票進款並生發之利息除將造路期內應付債票利息扣除外設有不敷修造鐵路以及裝配所需其不敷之數則應先由政府別項進款提付如仍有不敷之數則商由銀行再行發售債

速開車營業

由督辦預先商明銀行選用一日本國人員充當行車總管遵照督辦及總辦指揮命令辦理行車事宜

全路工程告竣後總工程司應辦事務已畢時由督辦預先商明選用一日本國人員充當養路工程司遵照督辦及總辦指揮命令辦理養路事宜

行車總管以及養路工程司聘用合同由督辦與銀行商定

第十七條 所有本鐵路進款隨時交銀行收入本鐵路項下不得稍涉遲延酌視情形定爲長存或短存其利息隨時會同銀行酌定

所有本鐵路營業養路各費均由此項進款項下支付倘此項進款除支付上開各費暨備充付本借款債票常年利息與本合同附表內所列到期應還之本外仍有盈餘

政府按照督辦所定辦法聽憑由督辦撥用但在全路告成開車營業之後須將本合同附表所載應付還本借款本息由該盈餘內照數劃扣於到期六個月前交存銀行

如遇鐵路進項並無盈餘足敷付還本息之款應即按本合同第八條辦理

第十八條 本鐵路於造路期內應由銀行指定經理購買由外國

票補足其利息並條件仍按本合同辦理

設於本鐵路全工告竣後鐵路項下尙有未經指定作爲何項支用之存款剩餘則應移入後詳第十七條內載借款利息公積項下以備充

政府按照本合同認還之款

第十六條 本鐵路建造工程以及管理一切事宜全歸政府辦理

政府簡派督辦一員該督辦常川駐在工所並代表政府享有執行本合同範圍內之事權

總工程司應以日本國人員充當但須由督辦預先商明銀行同意由督辦派充其聘用合同由督辦與銀行商定該總工程司應聽督辦或總辦命令辦理勘路等畫繪圖估計等事並指揮監管一切工程及訂購材料機器等一切物件

總工程司須將工程處應用之華洋員開列額缺數目清單呈請督辦核准由督辦選充至各人員分管事務應由總工程司派定

至鐵路上派用專門華洋人員分派各該員應辦各事以及辭退各該員應由督辦及總辦交由該總工程司酌核辦理

待本鐵路分段告成每段即由總工程司交與督辦極力設法務

運來各材料機器什物之人

所有購買前項各物件內其係緊要者由督辦招人投票該經理人於將該物件投票批約或訂購時須以與鐵路最爲相宜之條件經辦該經理人除領原買實價外按照該價每百分取經理費五分惟訂購材料及支取費用非由總工程司呈督辦核准不得照行

該經理人既得上文所詳之經理費自應監購鐵路所需建造裝配各外洋材料並須在各國市場選擇價值最廉而質料最佳者方行購買若材料運至中國有與原單不符者鐵路局得拒不收貨

當購買外國材料機器以及各項物件時質料及價值較與他物一律相同應先儘由日本購買次及由經理人所推薦之國之貨

所有原賣單及驗單均呈本鐵路局查核所有各項回用扣頭均歸還入鐵路項下

所有經理人爲鐵路事宜購買各材料須有製造廠原賣單並驗單爲據

該經理人除得上文所詳經理費外不給別項用費惟遇有聘用工程顧問人員時鐵路局須由鐵路項下提給酬資

中國材料及經在中國製造之貨物若質料價值相同自應先儘購買藉以鼓勵中國工藝但購買中國材料時不給經理人經理費用

本鐵路全工告竣後其在本借款期內關於經理鐵路局所需外國貨物之事仍應先儘經理人經理購買至經理章程應日後再行酌定

第十九條 政府允本鐵路局所需各項材料機器什物應豁免關稅釐金及其他一切捐項

第二十條 倘將來政府籌畫建造由洮南起至承德府城鐵路及由海龍府起至吉林省城鐵路如須用外國資本則先儘與銀行商辦

第二十一條 政府將來或以爲有益或以爲必需擬建造聯屬本合同內所載鐵路之枝路或延展綫路應由政府以中國款項自行修造如須用外國資本則先儘與銀行商辦其枝路或延展綫路里數長短由政府自行訂定

此外所有關聯本鐵路之一切外債亦須先儘與銀行商辦

第二十二條 銀行即作爲執持債票人之受託人凡嗣後關於本借款事宜鐵路局與銀行互相交涉時銀行即以執持債票人之

本合同內與前開二項相涉之條款遇有實行前開二項所載之事則自須核照更改

第二十六條 本合同係遵

中華民國三年 月 日即大正三年 月 日

大總統令簽定其

大總統令業由外交部正式照會

日本駐北京公使訖

第二十七條 本合同繕寫中日文各四份

政府存各三份銀行存各一份於解釋文義如有疑義以日文爲

準

(附屬書二)

乙號

第三二號

大正三年四月十日

大日本帝國公使館

外交部查收

逕啓者上年十月五日經本使與

貴總長訂立借款修造鐵路豫約之辦法大綱內所述本國資本家一節現准本國政府來報稱橫濱正金銀行願充此項資本家等語

代理人自居

第二十三條 本借款合同簽字後招帖未發之先倘遇有發生關於政治上或經濟上之事故以致金融市面以及

政府已發之債票市價頗受影響在銀行之意見以爲本債票未能按照本合同條款發售通暢

政府應准銀行將本合同內所訂條款展期緩辦惟所展之限期屆時彼此商定若訂明之期限內仍不能發售即將本合同作廢遇有此項情節

政府除將本合同第三條所載墊款及其核算利息一併清還外不給他項酬費

第二十四條 銀行可將按照本合同應享之權利及責任全行或分別交與他日本國人接辦或再交代理人代辦其接辦代辦應尙請督辦核准

第二十五條 銀行爲本借款債票易於流通起見得於債票上按照此票面數目核與英幣法幣及美幣相當之定數一併印列並用中日文字外另用英文或法文印刷且以倫敦巴黎及紐約作爲付還本借款本息之地

銀行得將本借款債票之全部或一部分在倫敦巴黎及紐約發售

據此不日由駐京該行代表小田切君向貴國交通部開商細目合同也相應函致

貴部查照並請轉咨交通部接洽辦理爲茲肅此順頌

日祉

(附記一)

四月二十三日附小村外務書記官ヨリ富田大藏書記官宛半公信

滿蒙鐵道借款細目契約案ニ関シ大藏省側ノ意

見問合ノ件

機密扱(半切)

拝啓昨日電話ニテ申上置候通り滿蒙鐵道借款契約細目案支那側へ提出済ノ義ニ関スル在支公使報告右細目案(支那訳文共)添付御送附申上候間御査閲相成度同細目案ニ付北京へ注意申送り可然ト思考セラル、箇所ハ別紙意見書ノ通りニ有之右ニ対スル御高見至急御回示相煩度尚別紙意見書諸点以外ニ御心付ノ廉モ有之候ハ、併セテ承知致度此段不取敢得貴意候勿々拝具

追而支那訳文ノ義ハ目下当方ニ於テ日本文ト対照研究中ニ有之此義御含迄申添候也

註 別紙四月十日付機密第一五二号在支公使來信並添付契約案
日漢文写ハ前掲ニ付省略ス

(別紙)

(外務省側意見書)

北京ニテ修正ノ上支那政府へ提出シタル滿蒙鐵道借款細目
契約案ヲ閱スルニ大体ニ於テ差支ナキモ左記諸点ハ多少面
白カラスト思考セラル、ニ付交渉結了後契約文字句整理ノ
際等ニ適宜修正方予メ北京へ訓令シ置可然乎

一、第三条第一項ニ經營費(浦信英文ハ the working of
the line)ノ文字アル処右ハ第十七条第二項ノ營業費(浦
信英文ハ all expenses of working the line)ナル文字
トノ權衡上矢張「營業費」トスル方可ナルヘシ(或ハ第
十七条ノ營業費ノ方ヲ經營費ト改ムルコト、ナスモ差支
ナシ)

二、第六条第一項末文「第貳拾年以後」ハ「第貳拾年目以
後」ト改ムル方然ルベシ

三、第七条第三項 Coin of the National Currency as
soon as the said currency shall have been effectively
established ハ「新國幣(斯ノ如キ貨幣カ有効ニ確立セ

ラレタル時ニ限ル)」ト訳出シアル処右ニテ差支ナキヤ
為念大藏省側及正金側ノ意見問合ノコト

四、第七条第三項ニ「上海規銀及^{又ハ}新國幣」(其他ノ箇所
ニモ同様ノ例アリ)トアリ右ハ and/or ノ意味ナルヘキ
ガ從來邦文ニテハ and/or ノ意味ニハ「又ハ」ヲ慣用シ
居レルニ付今前記ノ如ク^{又ハ}トスル新例ヲ開クニ於
テハ從來ノ「又ハ」ノ解釈ニ関シ誤解ヲ生スル虞モアリ
況ンヤ契約面ニ^{又ハ}ト記スルカ如キハ体裁上モ面白
カラサルニ付寧ろ從來ノ通り「又ハ」ト為ス方可ナラサ
ル乎

五、第十六条第三項冒頭「技師長ハ」ハ「技師長ニハ」ノ
誤ナルヘシ(現ニ第十四条第四項會計主任ノ条ニハ「會
計主任ニハ」トアリ)

六、第十六条第四項冒頭「技師部」ハ聊奇異ナリ矢張り
「技術部」トナス方可然(會計主任ノ条ノ「會計部」ト
ノ鈎合上モ毫モ差支ナシ)

七、第十六条第三項末文「建設」ハ「建造」ノ誤ナルヘシ
八、第十六条第五項「内外専門技術員」ハ「内外専門技術
員」ノ誤ナルヘシ

九、第十八条第二項「取扱者ハ外国品ノ入札約定又ハ注文

ノ場合ニ於テ鐵道ノ為最有利ナル条件ヲ以テ購買ヲ為
シ」ハ浦信英文 in the case of all tenders indents and
orders for the importation of goods and materials
from abroad, the said Agents shall purchase the
materials sequired on the terms most advantageous
to the railway ノ直訳ナルヘキカ邦文トシテハ行文聊カ
奇異ノ感アリ寧ろ原案通り「取扱者ハ鐵道ノ為最有利ナ
ル条件ヲ以テ右購買ノ入札、約定又ハ注文ヲ為シ」ト改
ムル方可然

十、第二十一条第一項末文「右支線又ハ延長線ノ里程(浦
信英文ハ the length of such branch lines or exten-
sions)ハ「右支線又ハ延長線ノ距離」ト改ムル方穩當
ナルヘシ

(附記二)

(大藏省側意見回答)

国秘第五三九号

(四月二十九日接受)

拜啓今般北京ニ於テ修正ノ上支那政府へ提出相成候滿蒙鉄
道借款細目契約案ニ対シ更ニ修正ヲ要スル諸点ニ関シ当方

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 一五

ノ意見御問合ニ相成候処当方ノ意見左ノ通り開陳仕候

一、異議ナシ

二、「第二十年目以後」ハ「第二十一年目以後」又ハ
「第二十一一年以後」ナラサル可ラサル様被相考候(浦
信英文ニハ after the 20th year トアルヨリ二十年目
ハ含マレサルコトトナルモ邦語ノ「以後」ハ右ノ年ヲ
含ムコトトナルヲ以テ之ヲ「第二十一一年目以後」トス
ル必要アリト認ム)

三、北京案異議ナシ

四、以下貴見ニ賛成

尚左ノ二点ハ多少研究ノ余地アリト認メラレ候

一、第三条第二項「起工ノ開始ヨリ」邦文トシテハ面白
カラズ之ヲ「起工ノトキヨリ」又ハ「工事開始ノトキ
ヨリ」ト更ムルコト如何

二、第五条第二項「本鐵道ノ收入又ハ政府ノ適當ト認ム
ル其他ノ收入ヲ以テ」ハ「右償還ハ」ノ直グ後ニ挿入
スルヲ適當ト認ム乃「第六条ノ場合」ハ「本契約附表
所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ」ノ例外ナルヲ以テ此ノ
二句ノ間ニ「本鐵道ノ收入云々」ノ文句ヲ挿入スルコ

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 一六 一七 一八
トハ不可ナリト認メラレ候
右回答迄 敬具
大正三年四月二十八日

大蔵省理財局長 山崎 四男六
外務省政務局長 小池張造殿

一六 四月二十二日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

交通部百万円借款ノ承諾方正金ヘ勧告アリタ
キ件

第三三二号

四月二十二日小田切ヨリ正金本店ニ電稟シタル交通部百万
円借款ノ件ハ是非承諾スル様正金ニ御勧誘相成リタシ

一七 四月二十四日 井上横浜正金銀行頭取ヨリ
松井外務次官宛

交通部百万円借款拒絶ノ件

附屬書 四月二十四日付正金銀行ヨリ在北京小田切取締
役宛電報

大正三年四月二十四日

横浜正金銀行

道細目交渉及交通部所管事業ニ対シ今後我利権拡張ニ多大
ノ便宜アルヘク之レニ反シ単純ナル銀行業務見地ヨリ謝絶
スルトキハ差当リ細目交渉ノ上ニモ頗フル不利益ナル結果
ヲ来スヘシト思ハルルノミナラス担保ハ小田切電報ノ通十
分ナル見込ニ付重ネテ正金ニ御勧誘相成タク同行カ尚償還
ヲ懸念スルニ於テハ政府ヨリ保証サルル様御詮議ヲ望ム

一九 四月三十日 井上横浜正金銀行頭取ヨリ
小池政務局長宛

交通部ヨリ百万円借款依頼及滿蒙鐵道ニ関ス
ル小田切取締役書信送附ノ件

附屬書 四月二十四日付在北京小田切正金取締役ヨリ井
上頭取宛頭第一五四号
交通部百万円借款及滿蒙鐵道ニ関スル件

第一八八号

大正三年四月卅日

横浜正金銀行

頭取 井上準之助(印)

外務省

政務局長 小池張造殿

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 一九

六四

頭取 井上準之助(印)
外務次官 松井慶四郎殿

拜啓左記事項ニ関スル電信別紙写ノ通り弊行左記トノ間ニ
受援仕候間茲ニ供御内覧候 敬具

小田切取締役宛電信 四月二十四日横浜発
一、交通部百万円借款申込ノ件

(附屬書)

四月二十四日横浜発

在北京小田切取締役宛電信写

本月二十二日付貴方電信及ヒ駐支公使ヨリ外務大臣宛交通
部借款ノ件支那政府目今ノ形勢ニテハ償還ノ見込相立タス
從テ銀行業務トシテ貸出シ好マシカラス断ル外無之ト存候
併シ右ニ対シ意見アラハ申出有之度

一八 四月二十四日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

交通部借款ニ関シ正金ノ承諾勧誘方進言ノ件

第三四〇号(至急)

往電第三三二号ニ関シ横浜正金銀行ハ償還ノ見込立タサル
ニ付断ル外ナシトノ意嚮ナル由ナルカ右借款成立ハ滿蒙鉄

在北京小田切取締役ヨリ左記書面に到着致候ニ付右御参考ノ
為メ差出候也

一 交通部ヨリ百万円借款依頼及ヒ滿蒙鐵道ニ関スル件
(四月廿日付) 以上

(附屬書)

頭第百五十四号

大正三年四月廿日

本店

頭取 井上準之助殿

於北京支店

取締役 小田切万寿之助

交通部ヨリ百万円借款依頼及滿蒙鐵道ニ関ス
ル件

去十五日実相寺支配人ハ本役ノ旨ヲ含ミ滿蒙鐵道借款契約
案ニ関スル用向ヲ以テ交通部次長葉恭綽ヲ訪問セシ処同次
長ヨリ交通部鐵道設備費ニ充ツル為此際百万円位ノ借款ヲ
引受ケ與レ間敷ヤト依頼シ翌十六日更ニ同人ノ代理トシテ
其腹心ナル交通部經理司長陳福順ヲ派遣シテ本件ヲ交渉シ

六五

来リタルニ依リ当方ニ於テハ前記契約ノ調印ヲ急キ其前貸金中ヨリ之ヲ融通スルコトヲ第一ノ策トシ又先般商議ヲ中止セシ電話借款ヲ復活シテ之ニ対シ前貸金ノ名義ニテ融通スルコトヲ第二策トシテハ如何ト提議シタルニ陳ハ次長ニ復命ノ上何分ノ挨拶ヲナスヘシトテ辞去シ翌日ニ至リ電話ヲ以テ右ノ二策ハ何レモ差当リ借款ノ条件トナスニ便宜ナラサル故何カ他ニ適當ノ方法ヲ講究シタシトノ返答アリシカ其後ニ至リ先方ヨリ更ニ左ノ如キ条件ヲ提出致越候

一、金額 金壹百万円

二、名義 交通部鐵道擴張設備借款

三、担保 京漢鐵道余利

四、期限 一ケ年

五、利息 年七分

依テ之ヲ基礎トシ意見ヲ交換セシ上名義ヲ「南滿境内鐵道調査費借款」或ハ「交通部鐵道擴張設備借款」トスルコト担保ヲ「京漢鐵道余利」若クハ「交通部管理実業收入余利」トスルコト而シテ右ノ所謂余利ハ既ニ交通部カ他ノ借款ノ担保ニ提供シタルモノヲ差引キタルモノナルコトヲ声明スルコト等ニ折合ヒタルニ付右ニ関シテハ本店ニ打電ノ

鐵道以外ノ実業收入即電信電話ノ如キ交通部ノ管理ニ属スル一切收入ヲ包含スルコトトナルニ依リ回収ニ関シテハ何等ノ懸念ヲ要セサルコトト相信候

第三、五国団体銀行ノ一トシテ本借款ヲ引受クルニ当リ多少ノ非難ヲ招クヤモ計リ難キモ是亦容易ニ説明シ去ルヲ得ヘク即チ交通部ハ由來他ノ各部ト異ナリ其管理スル実業收入ヲ特別會計トシテ之ヲ取扱ヒ又交通部ノ經費ノ如キハ同部ノ收入ヲ以テ十分支出シ得ルニ依リ今次ノ借款ハ決シテ之ヲ行政費ニ流用スルモノニアラスシテ實際南滿境内鐵道調査費又ハ鐵道擴張設備費ニ使用スルモノナルコトヲ領會セシムルニ於テ何等難キ事無之候

右ノ如キ理由ニ依リ一昨夜不取敢電報ヲ以テ得貴意候次第ニ有之候間貴方ニ於テ之ニ対シ出来得ル限り好意ヲ以テ御詮議相成度希望ニ不勝候仍ホ同時ニ御参考ノ為メ及御電報候通リ同日葉次長ハ実相寺支配人ニ対シ滿蒙鐵道借款契約案ハ目下交通部ニ於テ同草案ノ日文ト漢文トヲ对照檢閲中ニテ不遠交通部ノ意見ヲ纏メ速カニ商議ヲ開始スヘク又本件ニ関シテハ同人ニ於テ十分尽力可致旨明言セシ由ニ有之候

上ナラテハ何等確答ヲ与フルコト能ハサルモ本役ノ関スル限り出来得ル丈成立ニ尽力スヘシト相答置候
右ニ対スル卑見左ノ通りニ有之候

第一、無論主義トシテハ十分賛成ヲ表セサルモ熟ラ支那ニ対スル列國ノ遣リロヲ觀察スルニ中英公司ヲ除クノ外英米獨白等ハ多少ノ好餌ヲ与ヘツ、多大ノ利權ヲ獲得シツ、アルカ如ク今ヤ本邦ニ於テハ滿蒙鐵道契約ノ商議ヲ目前ニ控ヘ居ルノミナラス他ノ利權獲得ノ便宜上ヨリ打算シテ支那ニ対スル策略トシテハ是非共差支ナキ範圍ニ於テ列國同様ノ措置ヲ為スノ必要可有之候

第二、担保ハ今日ノ処確實ナリト信セラル即チ京漢鐵道收入中ヨリ總テノ經費及内外債ノ利息等ヲ差引キタル余利ハ一千九百十一年度ニ於テ洋銀二百三万八千八百十八元七十六仙ニシテ一千九百十二年度ハ洋銀三百六十一万六千六百七十七元三十八仙ナリ而シテ昨年度ハ未タ精算ニ至ラサルモ一昨年度ニ讓ラサル收入アリタリト云フ遠キ將來ハ保証ノ限りニアラスト雖一ケ年若クハ二ケ年ノ如キ短期ノ借款ナレハ京漢鐵道ノ純余利ヲ担保トスレハ返済ニハ十分ノ余裕可有之若シ交通部実業收入ヲ担保ニ提供セシムル場合ニハ

過般本役ハ政府ノ鐵道事業ニ対シ大勢力ヲ有スル梁士詒ヲ訪問ノ上滿蒙鐵道借款契約草案提出ノ始末ヲ告ケ且主要ナル条項ニ関シテ説明セシニ同人ニ於テ長春洮南線鐵道ノ敷設ヲ後廻シトスルコトニ付同意ヲ表スル能ハストノ語氣ヲ洩シタルモ兎ニ角詳細ノ考量ヲ加ヘ十分ノ尽力ヲ乞フ旨依頼シテ手ヲ分チ候要スルニ既報ノ通り該線ニ関シテハ將來多少ノ口舌ヲ費ヤスヲ免レサルモノト觀察致候
右申進候敬具

二〇 五月二日

加藤外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

交通部百万円借款依頼ニ関連シ滿蒙鐵道契約
及華南鐵道問題ニ対スル中国側ノ態度ニ付懇
談方訓令ノ件

第二一九号

貴電第三四九号ニ関シ

正金ニテハ交通部借款ハ營業上ノ見地ヨリ好マシカラスト認メ応諾セサル意向ナル処支那側ニ於テ滿蒙鐵道契約及過日要求シ置キタル南支鐵道ニ付誠意ヲ以テ速ニ我商議ニ応スルニ於テハ政府ヨリ正金ニ対シ本件借款ヲ引受クル様十

分勧告スヘキニ付貴官ヨリ可然当局者ニ懇談ヲ遂ケ結果電報アリタシ

往電第二一三号南潯鐵道ノ件ハ我方当然ノ云分ニ付右ト關係ナク至急申入レ置カルル様致タシ

註 後出二九七文書

二一 五月三日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

交通部百万円借款申込ニ対シテハ正金ニ於テ是非之ニ応諾スル様説示方稟申ノ件

第三六七号

貴電第二一九号ニ関シ滿蒙鐵道細目協定先方ヨリ屢々催促シタルモ我方ニ於テ草案出来手間取り愈々確定ノ上漢訳ヲ作り正金ヨリ交通部ニ提出シタルハ四月十三日ナリ而シテ交通部ニ於テハ我提案ニ対シ研究ヲ加ヘ愈々商議ニ入ラントスルニ際シ今回ノ借款ヲ申込ミタルモノナル所御承知ノ通我提案ハ先方ノ最モ希望スル長春洮南府線ヲ後廻シトナスコトハ勿論浦信鐵道契約以上ニ我利益ヲ獲得セント試ムルモノナルカ故ニ此等ノ目的ヲ貫徹センカ為メニハ先方ノ申込ニ応スルコト必要ニシテ我ニ取りテハ利用スヘキ好機

諾スル様御説示相成リタシ南潯鐵道ノ件ハ御訓令通取計申スヘシ

二二 五月五日 加藤外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

交通部借款ハ拒絕セザルヲ得ザル旨訓令ノ件

第二二一号

貴電第三六七号御申越ノ次第ハ正金銀行ニ内示シタルモ同行ニ於テハ依然借款ニ応スルコトヲ欲セズ元来本件ハ最初ヨリ同行ニ於テ応諾スルノ意ナキモノナリシ處滿蒙鐵道及南支鐵道ノ關係モアリ支那側ノ態度次第ニテハ何トカ正金ヲ説得シタキ考ニテ往電第二一九号ノ通申進シタル次第ナルモ貴見ノ如クナルニ於テハ本借款ハ遺憾ナカラ断念スルノ外ナシ政府ヨリ出金若クハ保証スルカ如キコトハ到底取計難シ

二三 五月五日 在哈爾濱本多總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

日本ノ洮南方面鐵道敷設計画ニ関スル「ノヴ
オエ、グレミヤ」所載記事送ノ件

附屬書 露曆四月四日「ノヴオエ、グレミヤ」所載記事

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 二二 二三

会ナルト同時ニ若シ之レヲ拒絕スルニ於テハ我目的ノ貫徹上多大ノ支障ヲ来スヘキハ火ヲ階ルヨリモ明カナリ加フルニ交通部ハ從來鐵道經營ヲ以テ純然タル自國ノ「ビジネス」トナシ努メテ外交關係ヲ避ケントスル方針ナルニ付必要已ムヲ得サル場合ノ外本使カ顔出スルコトハ甚タ好マシカラス況ンヤ南支鐵道ハ我方ニ於テ必要ノ材料ヲ集メ協議ヲ進ムル順序ト相成リ居リ斯クシテ徐ロニ我目的ノ貫徹ヲ期スヘキモノニシテ僅々百万円ノ短期借款ノ如キハ元ヨリ以テ好餌トナス能ハサルノミナラス若シ斯ル問題ニ引懸クルトキハ滿蒙鐵道細目協定ニスラ一層ノ困難ヲ来スヘキコト必然ナリ且正金ニ於テハ是迄既ニ二回モ同様ノ申込ヲ受ケ拒絕シタル次第ナルニ今回モ亦政府ノ干渉ニ依リ渋々之レニ応シタルカ如キ姿トナリテハ利權獲得競争ノ今日他國資本家ノ遣口ニモ照ラシ同行ノ為メニ甚タ取ラサル所ニシテ既ニ償還ノ見込モ十分立チ居ル以上潔ク之レニ応スルコトハ實ニ滿蒙鐵道細目協定ノ為メノミナラス同行カ支那ニ於ケル交通部關係事業ニ將來手ヲ延ハスニ付キ極メテ有益ナラント信ス就テハ借款其ノモノ(僅カ百万円ニシテ而カモ期限一ケ年)ノ算盤ニ止マラハ大体ノ利害ニ顧ミ是非応

蒙古ニ於ケル日本ノ漸進的地歩

公第五八号

(五月十一日接受)

大正三年五月五日

在哈爾濱

總領事 本多熊太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

洮南方面我鐵道計画ニ関スル「ノヴオエ、
レミヤ」通信送付ノ件

洮南方面我鐵道計画ニ関スル当方面露國側ノ意向等ニ付テハ先般來累次及具報置候次第モ有之候処近着「ノヴオエ、グレミヤ」新聞ニ顯ハレタル同社哈爾濱通信員ノ寄稿ハ当方面露人間ノ意向ノ反映トモ見ルベキヤニ被存候条別紙反訳ノ上御参考マデ供貴覽候 敬具

追テ同通信員ノ身上等ハ一昨年來追々提出ノ報告類ニテ御承知ノコト、存ジ茲ニ贅述ヲ省キ候也

写送付先 山座駐支公使

福島關東都督

(附屬書)

蒙古ニ於ケル日本ノ漸進的地歩

(我四月十七日)
露曆四月四日「ノヴォオエ、ヴレミヤ」所載

コンシン寄稿

日本ハ北京政府ト折衝ノ結果、内蒙古哲里木盟ニ鐵道敷設權ヲ獲得シタリ、而シテ該鐵道ハ名義上支那ニ属スルモノナレドモ、敷設費日支兩辦ニシテ性質上吉長線ノ如キモノナリ、吉長線ガ目下日本人ノ手中ニ落チタルヲ知ラバ、新鐵道敷設ニ関スル這般ノ消息ハ自ラ明カナルヘシ

將ニ敷設サルベキ鐵道第一区線ハ四平街鄭家屯間延長百二十露里ナリ、四平街ハ日露戦争當時我ガ「リネウィッチ」將軍ガ精兵ヲ率キテ日本軍ニ対抗シタル所、東清鐵道南線ニ於ケル一市場ナリシヲ「ボウツマス」条約ハ遂ニ此ノ地ヲモ日本ニ割讓スルノ止ムナキニ到ラシメタリ、鄭家屯ハ四平街ノ西北方哲里木盟、達爾汗王旗、「シヌマイ」河ト「シャラムルン」河ノ合流地点ニアリ、河ハ其下流ヲ西遼河ト称シ南流シテ有名ナル遼河トナリ營口ニテ遼東灣ニ注グ、鄭家屯ノ住民ハ殆ンド支那商人ニシテ四万ト算セラレ支那貨物ノ当地ニ輸入セラル、モノ年額八十万弗、支那商ガ当地ニ於テ買込ム牛馬羊等年額七万頭、羊毛五十万布度ナルガ、鄭家屯ノ發達ハ其西方照烏達盟、錫林郭爾盟

漸次支那人ニ侵蝕セラレ其一部ハ隣盟、興安嶺ノ石多キ山地ニ移住シ他ノ一部ハ水草ヲ求メテ喀爾喀ニ遊牧シタリ、故ニ現今札薩克圖旗ニ於テハ支那ノ移民二十万ニ達セントシテ蒙古人ノ留マルモノ二三千ニ過キス、他ノ諸地方、諸旗ニ於テモ大差ナカルベシト云フ

哲里木盟ハ大凡ソ三十五万平方露里ノ平地ヲ有スルニ拘ラズソノ牧養セル牛二十一万六千頭、馬十二万二千頭、羊十三万三千頭ニ過ギス、斯ノ如キ状態ヲ以テ豈独立ヲ云々スルノ実力アラシヤ、支那政府ガ安心シテ植民シ支那移民ガ心置ナク開拓ニ従事スルハ之ガ為メナリ、年々支那人等ハ蒙古人ノ畜類ヲ奪ヒ富力ヲ減ゼシメ自腹ヲ肥スコトニ汲々タリ、洮南府附近ノ如キハ支那人ガ植民ヲ始メタルハ極メテ最近ノ事ナルニ拘ラズ現今年々五十万布度ノ粒穀ヲ輸出スルニ到レリ、千九百十二年支那ノ蒙古討伐軍ガ洮南府ニ駐屯中ハ該地方產穀物ヲ以テ其ノ軍糧トナシタリキ、而モ斯ノ如キ穀物產地ハ露國ノ地圖ニハ現今ニ到ルモ猶ホ何物ヲモ記入セズ白キ空所ヲ残セルノミナリ

洮南府ハ洮兒河ノ南方ニ拡ガレル市街ニシテ從來内蒙古ニ於ケル露國及日本ノ勢力範圍ハ此ノ地点ヲ以テ分岐点ト

地方ノ中心市場トシテ從來其ノ商權ヲ掌握シタリシ小庫倫ノ商業的意義ヲ没却セシムルモノニシテ小庫倫ノ取引ハ漸次鄭家屯ニ移リツ、アリ

前記鐵道開通ノ曉ニハ博王旗及達爾汗王旗ハ支那移民ノ密住スル所トナルベシ、現今ニ於テサヘ博王旗ノ如キ其植民地帯ニ支那人ノ居住セルモノ十万人ヲ有スルニ関ハラズ蒙古人ノ此旗ニ殘留セルモノ僅カニ四十戸ニ過キス、達爾汗王旗ニ於テモ大抵之ニ等シカルベシト云フ、而シテ該地方ハ最近迄閑田不耕ノ地ナリシガ支那人等之ガ開拓ニ従事シテヨリ急転シテ現今ニ於テハ毎年二百五十万布度ノ穀物ヲ輸出スルニ到リ南滿唯一ノ水路タル遼河ノ輸送力ニテハ到底斯ノ如キ巨額ノ穀物ヲ搬出スル能ハズト云フ、同地ハ鐵道開通ト共ニ益々繁榮スベク且ツ其耕耘事業ノ如キ數倍ノ好況ヲ呈スベク、カクテ日本ガ収ムベキ利益ノ莫大ナルハ言フヲ俟タズ

新鐵道第二区線ハ鄭家屯ヨリ図什業圖王旗、南郭爾羅斯旗、札薩克圖王旗ヲ經テ洮南府ニ到ル延長二百十露里ナリ、抑モ此ノ第二区線ノ經過スベキ地方ハ最近殊ニ過去十年来支那ガ植民ヲ始メタル所ニシテ主人公タル蒙古人等ハ

ナシタリキ、町ノ住民ハ支那商人約三万人、貨物ノ輸入セラルルモノ年額三十万弗、支那商人ガ蒙古人ヨリ買込ム牛馬羊等六万頭、羊毛五十万布度ト計上セラル、外、毛皮類ノ支那商人ノ手ニ収メラル、モノ亦年々莫大ナリ、洮南府ノ發達ハ鄭家屯ノ發達ト正比例ヲナスベク四平街洮南府線全線開通セバ洮南府ハ該鐵道ノ商業的大中心地点タルベシ吾人ハ日本人ガ四平街鄭家屯鐵道ヲ敷設スルコトニ関シテ蒙古ニ於ケル露國ノ經濟的利益ヲ侵害スルモノト見做スベキ何等ノ根拠ヲ有セズト雖モ鄭家屯洮南線ニ到リテハ之ヲ樂觀スルコト能ハザルヲ憾トセザルベカラズ、何トナレバ該鐵道ハ單ニ露國ノ北滿洲ニ於ケルアラユル位置ヲ庇護スベキ何物ヲモ認ムル能ハザルニ止マラザレバナリ

嫩江右岸ニ於ケル大賚庁植民区ノ穀物ハ從來總テ洮南府ニ集散シ、夏期ニアリテハ同地ヨリ嫩江埠頭ニ送致シ東清鐵道ノ汽船ヘ積載シテ嫩江ヲ下リ、冬ハ馬車ニテ東清鐵道最近駅ニ搬出セラレタル所ニシテ、洮南府ハ大賚庁迄十露里、嫩江埠頭マデ百二十露里、松花江埠頭迄百五十露里、齊々哈爾マデ二百五十露里ノ地点ニ介在スルガ故ニ、四平街洮南鐵道ノ開通ニヨリテ南滿鐵道ハ東蒙北滿ノ間ニ自然

的連絡ヲ完了シ、洮南府ハ南北滿洲ト東蒙古トヲ連結スベキ一大中心地点タルベキナリ

東清鐵道社員「メンシコフ」氏ハ昨年如上ノ關係ニツキ調査スル所アリシガ、彼ノ研究ニヨレバ、將來南滿洲鐵道ハ東清鐵道ヨリ年々一千万布度以上ノ穀産貨物ヲ割取スベシト、然レトモ吾人ガ前記列挙シタル所ヲ以テ蒙古ニ於ケル日本ガ新企業ノ凡テノ意義ヲ網羅セルモノトハ斷ズベカラズ、洮南府ヨリ喀爾喀、車臣汗ノ薩木貝子旗マデ延長四百露里ニ亘ル平坦真直ナル道路ノ敷設セラレ、隊商道トシテ殊更ニ斯ノ如キ地方迄延長セラル、ハ抑々何ヲ意味スルカ、コレ単ニ日本人ガ穀物ヲ輸入センガタメノミト云ハバ露國亦北方ヨリ新道路ヲ敷設シテ之ト對抗スベキ事難事ニアラザルモ、日本人ハ洮南府ニ於テ自余ノアラユル方面ニ向ツテ露國ト競争センコトヲ試ムベク、日本ノ貨物ヲ只蒙古ニ供給スルニ満足セズ嫩江ノ戎克ヲ利用シテ遠ク齊々哈爾ニマデ輸送セントスルモノニアラザルナキカ、洮南鐵道ガ第一ノ目的トスル所ハ日本ノ粗製貨物ヲ最モ廉価ヲ以テ輸入セントスルニアルハ勿論ナルガ、日本ハ又此ノ鐵道ニヨリテ蒙古ニ於ケル勢力範圍ニ一區画ヲ定メンコトヲモ希

望シツ、アリ、即チ從來露國ノ勢力範圍内ニアリシ洮南府附近ヲ其經濟的領域タラシメントスルモノニ外ナラズ、日本人ハ今ヤ將ニ哈爾賓ト哈爾賓ノ政治經濟的勢力圈内ノ中間地哲里木盟ニ一楔ヲ籍入シ、洮南府ヲ根拠トシテ露國ガ哈爾賓及喀爾喀ニ有スル勢力ト對抗スルニ到ラントシツ、アリ

新鐵道第三區線ハ洮南府ヨリ二百五十露里ノ地点ニアル齊々哈爾ニ向ツテ布設セラルベキヲ順序トスベシ、然レトモ讀者ハ洮兒河以北ガ我勢力圈内タルコトヲ記憶セザル可カラズ、折角ノコトニ日本ハ何故ニ巴爾喀ヲ經テ海拉爾ニ達スヘキ延長四百露里ノ鐵道ヲ敷設セントハセザルヤ

「ポウツマス」條約締結後八年間ニ於テ日本ハ南滿ト接觸セル東蒙古ノ宏大ナル地域ニ勢力ヲ扶植シタリ、而シテ今日ニ於テハ露國ガ先ニ手ヲ触レタル地方ヲ敢ヘテ侵シツツアリ、若シ露國外交ニシテ日本ガ斯クノ如ク着々トシテ北進シ來レル現象ニ對シ重要ナル意義ヲ認ムルコト能ハズンバ、將來日本ガ露國ヲ犯サントスル時ト雖モ之ニ何等ノ注意ヲモ払ハザルト一般ナリト云ハザル可カラズ

(附屬書一)

在北京小田切取締役來電

五月九日發

五月十日着

二四 五月十一日 井上横浜正金銀行頭取ヨリ
小池政務局長宛

交通部借款拒絕ニ関スル小田切取締役トノ往

復電信通報ノ件

附屬書一 五月九日在北京小田切取締役ヨリ井上頭取宛

來電寫

交通部借款拒絕ハ再考アリタキ件

二 五月十一日付正金銀行本店ヨリ小田切取締役

宛返電寫

右回答

大正三年五月十一日

横浜正金銀行

頭取 井上準之助(印)

外務省

政務局長 小池張造殿

拝啓左記事項ニ関スル電信別紙寫ノ通り弊行左記トノ間ニ受授仕候間茲ニ供御内覽候 敬具

一、五月九日付小田切取締役來電 交通部申込借款ニ関スル件

一、同十一日付横浜發 右ニ對スル回答ノ件

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 二四

交通部 1,000,000—借款ノ件ニ関シ更ニ電報ス元來此借款ニ関シテハ各國對支經營ノ現狀ト昨年以来日支關係ノ不良トニ鑑ミ一面滿蒙鐵道借款細則ヲ出來得ル限り我希望通り協定シ同時ニ借款南清鐵道等利權獲得ニ便利ナラシメン為メ是非共交通部希望ニ応スルノ必要ヲ認メタル結果電報セシ次第ナルガ五月六日ノ貴方電信ニ接シ少ナカラス失望セリ然ルニ御承知ノ通り先年本行ハ交通部ニ對シ1,000,000—借款ニ応シタルカ今日前借款ト同様ノモノニ對シ銀行業務トシテ引受クル能ハスト云フコトハ先方ニ於テ奇怪ニ感スヘク殊ニ昨年末兩度迄同様ノ申込ヲ拒絕セシ關係上從來交通部カ本行ニ對シ有シタル好感ヲ損シ將來本行ノ支那ニ於ケル活動ヲ妨グルノ恐レアルヘク殊ニ一己人トシテハ葉次官ニ對シ本借款ニ充分尽力スヘシト明言セル行掛リアリテ事ノ不成立ハ本役ノ立場ヲ極メテ困難ナラシムヘシ更ニ銀行業務上ヨリ觀察スルニ本借款担保ハ交通部ノ特別

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 二五

會計ニ属シ毎年ノ剰余ハ既報ノ通り良好ニシテ当国ニ一大事變ノ發生セサル限り一年ノ短期借款返済ニ差支フベシトハ信シラレス事情及本役ノ立場右ノ通りニシテ過去兩日間熟考ノ末之レカ拒絕ハ良好ノ結果ヲ齎ラサストノ信念ヲ堅クセシニ付右ニ関シ貴方ニ於テ再應詮議ノ上是非承認ヲ与ヘラレンコトヲ希望ス

(附屬書二)

在北京小田切取締役宛電信写

五月十一日横浜発

九日付貴方電信ニ対シ回答ス、

交通部申込借款ニ就キ日本政府ノ態度ハ過日外務大臣ヨリ駐支公使宛電信ニテ御承知ノコト、存候貴殿立場ニ付テハ充分同情ヲ表スルモ目下本行ノ事情ハ申越ノ如キ貸出シヲ為スコトヲ許サス事情充分御諒察ノ上可然先方ニハ御断リ相成度

二五

六月五日 加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛(電報)

南滿及東蒙通過ノ鐵道ニ関スル英國ノ利權獲得説ニ鑑ミ事實ノ成行公表シ度キ旨英当局ニ

申入方訓令ノ件

附記 六月十三日公表ノ日本政府声明

(在露大使館經由第二六三号)

第五九号

昨今当地新聞紙上ニ於テ英國資本家カ最近錦州熱河間及熱河北京間ノ鐵道ニ関シ何等カノ利權ヲ獲得シタルモノノ如ク伝ヘ彼是論議モアルニ付此際昨年錦州鐵道敷設ニ関シ英國政府ニ同意ヲ与ヘタル際帝國政府ヨリ留保ヲナシタル成行要領ヲ公表スルト共ニ今回問題トナリタル前記兩鐵道ハ何レモ帝國ニ於テ特殊ノ利益ヲ有スル地方ヲ通過スルモノナルヲ以テ英國政府ニ於テ予メ我ニ謀ルコトナクシテ斯ル企画ヲ支持スルカ如キコト断シテナキ管ナル旨去ル三月北京熱河赤峯線ニ関シ英國政府回答ノ次第モ合セテ公表シタキ考ナルニ付右了承アリタキ趣英國当局ニ申入異存ノ有無至急電報アリタシ

(附記)

六月十三日公表ノ日本政府声明

南滿東蒙ニ於ケル我特殊權益竝錦朝鐵道其他ニ関スル件

異存ナキコトヲ言明スルト共ニ将来之ヲ延長スル場合ニハ予メ帝國政府ニ協議スルコト並ニ若シ之ニ対シ英國以外ノ外国資本参加スルカ如キ場合ニハ日本資本ヲモ参加セシムルコトヲ提議セサルヘカラサル旨声明シ置タルニ英國政府ヨリ右留保ヲ諒承セル旨回答シ来レリ

又本年二月中喧伝セラレタル英國資本家ニ於テ北京ヨリ熱河ヲ經テ赤峰ニ至ル鐵道ニ付支那政府トノ間ニ借款商議中ナル旨ノ報道及最近新聞紙上ニ問題ト成リ居レル英國資本家カ錦州熱河間及熱河北京間ノ鐵道ニ関シ何等カノ利權ヲ獲得シタルヤノ報道ハ何レモ全然事實無根ナルコトヲ帝國政府ニ於テ確ムルコトヲ得タリ

註 右ハ六月十三日午後三時半公表セラレタリ

二六

六月二十七日 在中國小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

滿蒙鐵道借款細目及華南鐵道問題ノ交渉再開

方ニ関シ小田切ヨリ中國側ヘ申入ノ件

第四八四号

六月二十六日小田切交通總長梁敦彥ニ会见シ滿蒙五鐵道細目協定ハ故山座公使ヨリ提案ヲナシタル儘中絶ノ姿ト相成

リ居ルモ右ハ貴総長就任ト共ニ成ルヘク速カニ協定ヲ遂ケ
タキ旨申込ミタル所梁ハ本細目ハ既ニ満足ナル協定済ノコ
トト思ヒ居タルニ付未タ前任者ヨリ引継ヲ受ケ居ラサル次
第ナルカ左様ノ義ナラハ山座公使ノ提案ヲ篤ト研究ノ上協
議ヲ開始シ決定スルコトニ致スヘシト答ヘタル由就テハ本
件モ遠カラサル内ニハ何等カ進捗ヲ見ルコトト思ハル次テ
小田切ハ予テ山座公使ヨリノ提出ニ係ル南支鐵道問題ニ談
及シ本鐵道計画ニ関スル十数年来ノ沿革行懸リ等詳細ナル
説明ヲ為シ本問題ハ追テ代理公使ヨリモ外交当局ニ対シ前
来ノ交渉ヲ繼續開始スヘキモノト思考スルモ事交通部ノ主
管ニ歸スル^(マ)ノミナラス外交部トノ交渉ハ余リニ廉立ツノ嫌
アルヲ以テ滿蒙五鐵道借款協定ノ例ニ準シ内協議ハ矢張り
日本ノ資本団代表者タル自分ト交通部トノ間ニ進行セシメ
互ニ腹藏ナク協議ヲ遂ケ略ホ成案ヲ得テ始メテ外交部ト公
使館トノ交渉ニ移スヲ便宜トスル旨ヲ述ヘ本件鐵道モ相互
ニ真面目ニ協議ヲ遂ケ成立セシメタシト希望シタル所梁ハ
本鐵道ノコトハ全然承知シ居ラサルニアラサルモ別段研究
シ居ル訳ニモ無之ニ付何等意見ヲ述ブル地位ニアラストテ
本鐵道ノ可否等ニ関シ意見ヲ述ブルコトヲ避ケタルニヨリ

後小田切ハ七月十二日楊士琦ト再応会见ノ際梁ヘ勧告ノ次
第如何相成リ居ルヤヲ尋ネタル所右ハ既ニ梁ニ内議ニ及ヒ
タルニ交通總長ニ於テハ何時ニテモ商議ヲ進メ差支ナキコ
トニナリ居ル旨挨拶アリタルニ付小田切ハ近日交通總長ト
会见ノ上商議ヲ進ムル筈ナリ本件其後ノ成行不取敢電報ス

二八 七月十八日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

滿蒙鐵道細目協定ニ関スル中国側交渉委員長

命通知ニ付請訓ノ件

第五二五号

往電第五一五号ニ関シ七月十七日葉交通次長ヨリ小田切ニ
会见ヲ求メ来レルニ付小田切差支ノ為メ実相寺ヲ代理トシ
テ交通部ニ出頭セシメタル所葉ハ滿蒙鐵道契約協定ニ関シ
テハ總長交渉等ノ為メ自然延引シタルカ支那政府ニ於テハ
今般愈々京張京綏鐵路管理局副局長蔡序東(交通部課長廣
東順德県人ニシテ米國留学生出身)及ヒ津浦鐵道管理局副
局長俞人鳳(交通部技正直隸天津県人ニシテ天津鐵道学堂
出身)ノ兩名ヲ交渉委員ニ任命セルニ付此段承知アリ度旨
申述ベ同時ニ葉ハ実ハ自分ニ於テ親シク交渉ノ局ニ当リ度

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 二八 二九

小田切ハ兎ニ角本鐵道線路ニ関スル調査書ハ不日調製ノ上
提出スヘキニ付夫レ等ヲ基礎トシテ協議ヲ開始シ度旨ヲ述
ヘタル所梁ハ委細之ヲ承知セリト云ヘル趣ナリ就テハ本鉄
道ニ関スル調査書ハ談判進捗上極メテ必要ニ付予テ該方面
ニ派遣セラレタル技師ノ報告書出来次第直ニ御送付アル様
致シタシ

二七 七月十四日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

滿蒙鐵道細目契約ノ交渉進行方ニ関スル件

第五一五号

滿蒙鐵道借款細目契約案ノ義ハ六月二十六日小田切梁交通
總長ト会见ノ際商議進行方督促シタルニ當時梁ハ本件ニ付
テハ前任者ヨリ未タ引継ヲ了セサルニ付何等承知シ居ラサ
ルモ追テ商議ヲ進ムルコトトスヘキ旨口約シタル儘梁ノ病
氣交通部官制改革部員交渉等ノ為其儘ト相成リ居タル所七
月五日小田切ハ楊士琦訪問ノ序ニ本件ニ談及シ契約案商議
進行督促方ニ付交通總長口添ヲ依頼シタルニ楊ハ本鐵道借
款ハ将来自然中日実業会社ノ事業ニ関係モ生スヘキ問題ナ
ルニ付交通總長ニ可然勧告シ置クヘシト答ヘタル趣ナリ其

キ希望ナルモ近来支那交通部事務殊ノ外繁多ノ為メ其意ニ
任セサルハ深ク遺憾トスル所ナルモ蔡俞兩人共孰レモ自分
親善ノ人物ニシテ此任命ハ自分ニ於テ満足シ居ル所ナレハ
日本側ニ於テモ必ス不便ヲ感セラルル様ノコトハ之レナカ
ルヘキ旨附言セシ由ナリ然ルニ從來各國所得ノ鐵道借款契
約協定ハ多ク次長格位ノ人物其衝ニ当リ居ルノミナラス今
回任命セル兩名ハ日本語ニ通セサルニ付實際談判ノ際責任
アル応接ヲナシ兼ヌルコトアルヘキハ勿論日本文契約案等
ヲ処理スルニ實際上不便尠カラサルヘシト考ヘラル就テハ
今少シ責任ヲ執リ得ル上級官吏ニ変更セシムルカ若クハ日
本語ニ練熟セルモノヲ委員ニ加フルカ都合ニヨリテハ小田
切ヨリ内密ニ一応交渉ヲナサシムル積ナリ就テハ談判開始
前当方ニ於テ何等心得置キテ可然ト思考セラルルコトアラ
ハ其ノ次第至急御電報アリタシ

二九 七月二十三日 加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使宛

滿蒙鐵道細目協定ニ関スル中国側交渉委員長

命ニ付回訓ノ件

政機密送第二三三三号

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三〇

滿蒙鐵道借款契約細目取極ニ関スル件

本件ニ関シ貴電第五二五号ヲ以テ御稟申ノ次第閣下當方ニ於テモ先方委員ノ顔振ハ甚タ不満足ニ感スルヲ以テ更ニ一名上級官吏ヲ加ヘ且何レノ途委員中少クモ一名ハ日本語ニ熟達セルモノトスルコトヲ希望スル次第ナルモ兎ニ角差當リ先方申出ノ委員ヲ以テ談判開始相成タル上ニテ愈々顔振變更ノ必要ヲ認メラレタル節ハ前陳ノ趣旨ニテ貴官ヨリモ委員ノ改選ヲ支那側ヘ御懇談相成コト、致度將又葉次長カ事務繁多ノ故ヲ以テ自ラ本件交渉ノ衝ニ当ルヲ避ケタルハ裏面ニ何等カ事情アルニアラズヤトモ被存候ニ付可然御内探ノ上何分ノ義御回報相成度此段申進候也

三〇 七月二十九日

在中國小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

滿蒙鐵道借款細目交渉中國側委員ニ関スル件

附屬書一

七月二十八日付梁交通總長ヨリ小田切正金取締役宛來翰
滿蒙鐵道細目交渉委員ニ日文通曉ノ者一名増派方中國側諒承ノ件

二

七月二十九日付小田切正金取締役ヨリ梁交通總長宛返翰

余リニ低キニ過クルトキハ会合協議ノ節自然責任アル應接ヲ避クル様ノ事アリテ談判ヲ永引セシムル不便有之旨陳述致サシメ同時ニ契約案處理ノ關係上日本語ニ通熟スル委員ヲ加フルノ必要ヲ説カシメ候処葉ハ第一ノ点ニ関シテハ至極尤ノ様考ヘラル、モ結局次長自身委員タル場合ニ於テモ少シク重要ノ事項ニ遭遇スレハ矢張り總長ノ意見ヲ聽キ其裁定ヲ仰カサル可カラサル次第ナレハ畢竟何人カ委員タルモ同様ナリ且ツ蔡餘兩人ハ日本語ハ出来サルモ同人ノ極メテ信任スル人物ニシテ日本側ニ不満足ヲ与フル様ノコト無之ハ葉ノ確信スル処ニシテ現ニ此二人ハ此程ノ対独山東鐵道支線問題ニモ委員タリシモノナレハ日本側ニ於テモ之ニテ我慢セラレタク將又第二点タル日本語ニ通達スル委員任命ノ事ハ梁總長宛其旨申越サルレハ左様取計フ事ニ尽力スヘシトノ挨拶ニ有之候

右蔡餘兩員ノ地位稍低キヤノ嫌有之ニ付都合ニヨリテハ正式ニ今少ク上級ノ官吏任命ヲ請求シ可然ヤニモ考ヘ本月十八日往電第五二五号ヲ以テ鄙見申進置候ヘ共其後小田切トモ相談シ充分熟慮之結果已ニ先方ニ於テ委員任命ヲ通告シ來レル今日上級者ノ任命ヲ要求スルハ現委員排斥ノ様ニ受

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三〇

七八

右件ニ関シ日本側謝意表明ノ件

機密第三二二一號

(八月六日接受)

大正三年七月二十九日

在支那

臨時代理公使 小幡 西吉

外務大臣男爵 加藤高明殿

滿蒙鐵道借款契約細目協定ノ件

本件ニ関シ支那側ヨリ蔡序東及ヒ俞人鳳兩人ヲ委員ニ任命ノ趣通知越候次第ハ七月十八日往電第五二五号ヲ以テ及報告置タル通ニ有之候処七月二十一日付ヲ以テ交通總長梁敦彦ヨリ小田切正金銀行取締役ヘ宛別紙甲号ヲ通リ正式ニ書面ヲ以テ前記兩員ヲ委員ニ任命シ以テ談判接洽ノ任ニ當ラシムル旨ヲ報スルト同時ニ蔡序東ハ目下病氣ノ為メ軀地療養中ニ付全快次第期ヲ訂シ協議ヲ進行セシメ度旨申越タル趣ニ有之候從テ細目協定ハ予定ヨリモ先方ノ都合ニヨリ暫時相遅レ候事ト存シ候

之ヨリ先七月十七日蔡餘兩人ヲ委員ニ任命ノ義ヲ正金実相寺支配人ヘ葉交通次長ヨリ口頭ヲ以テ通達スルヤ其翌日即チ七月十八日折返シ実相寺ヲ葉ノ許ニ遣シ談判委員ノ地位

取ラレ甚ダ「デリケート」ナル關係ヲ生スヘキヲ顧慮シ右兩員ヲ承認可然ト思考致候ニ付不取敢小田切ヨリ別紙乙号ノ通り七月二十五日付ヲ以テ蔡餘兩人任命ノ通告ヲ領承シ同時ニ日本語ニ通スルモノ一名ヲ委員ニ加フルノ便宜ナルヲ指摘シ其旨婉曲ニ懇請スル書面ヲ梁總長ノ許ニ送り更ニ之ニ対シ七月廿八日付ヲ以テ梁氏ヨリ陸夢熊ヲ委員ニ添加スル旨當方ノ希望ヲ容レタル書面ニ接シ(丙号写)更ニ小田切ヨリ翌日付ヲ以テ謝意ヲ表シタル一札(丁号写)差出置之ニテ談判委員任命ノ義結了致シタル次第ニ有之候就テハ蔡委員病氣全快次第開議ノ運ヒニ至ルヘキ事ト存候

右及報告候也

註 別紙甲号及乙号ハ夫々次掲三二文書附屬書二及三ト同文ナリ

(附屬書一)

丙号写

七月二十八日附梁交通總長ヨリ小田切正金取締役宛來翰

滿蒙鐵道細目交渉委員ニ日文通曉者一名増派

七九

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三一

方中国側領承ノ件

小田切先生閣下會議鐵路借款合同一事本部前派蔡序東餘人鳳二員接洽業經函告在案茲查有陸夢熊堪以添派與議前項事宜敬即專函奉告尚希查照爲幸此頌

時綏

梁敦彥啓 七月廿八日

(附屬書二)

丁号写

七月二十九日附小田切正金取締役ヨリ梁交通

総長宛返翰

日本側謝意表明ノ件

梁總長閣下鈞鑒逕復者再奉

來函内開會議鐵路借款合同一事本部前派蔡序東餘人鳳二員接洽業經函告在案茲查有陸夢熊堪以添派與議前項事宜尚希查照等語敬悉豈是特蒙照准所請另派陸君夢熊與蔡餘二君協同接洽以便進行一切

雅意莫名感激涕此奉復即頌

台綏

外務省

政務局長 小池張造殿

在北京小田切取締役ヨリ左ノ通り報告到着致候間御參考ノ爲メ差出候也

一 滿蒙鐵道委員任命ニ関スル件

(七月廿五日付頭第二八二号)

以上

(附屬書一)

写

頭第二八二号

大正三年七月廿五日 於北京支店

取締役 小田切万壽之助

本店頭取 井上準之助殿

滿蒙鐵道借款契約細目案交渉ニ関スル支那側

委員任命ノ件

滿蒙鐵道借款契約細目案協議ノ開始ハ向者交通總長ノ交迭アリシト尋テ後任總長梁敦彥カ同部改革ノ爲メ忙殺セラレ居リシトニ依リ之カ督促ヲ差控ヘタリシカ其後同部ノ改革モ略其緒ニ就キタル如ク見受ケラレシヲ以テ去月廿

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三一

中華民國三年七月廿九日

小田切萬壽之助

ハ〇

三一 七月三十一日

井上横濱正金銀行頭取ヨリ
小池政務局長宛

滿蒙鐵道細目協定ニ関スル中国側交渉委員任命ニ付小田切取締役ヨリノ報告写送付ノ件

附屬書一 七月二十五日付在北京小田切正金取締役ヨリ

井上正金頭取宛頭第二八二号写

滿蒙鐵道細目交渉中国委員任命ニ関スル件

二 七月二十一日付梁交通總長ヨリ小田切正金取締役宛來翰写

滿蒙鐵道細目協定ニ関スル中国交渉員通知ノ件

三 七月二十五日付小田切取締役ヨリ梁交通總長宛往翰写

滿蒙鐵道細目協定ニ関スル交渉ノ爲日文通曉者一名増派方請求ノ件

第二六四号

大正三年七月卅一日

横濱正金銀行

頭取 井上準之助(印)

六日本役ハ同總長ト会见シ本件ニ関スル從來ノ經過ヲ詳述セシ上速ニ同細目案ノ協議ヲ開始致度旨面陳セシ処同總長ハ本件ニ関シテハ未タ何等聞ク所ナキヲ以テ至急取調ノ上相当ノ処置ヲ取ルヘシトノ面諾ヲ得尚事ノ円滑ナル進行ヲ期スル爲メ本役ハ梁總長ト懇親ノ間柄ナル楊士琦ヲ往訪シ從來ノ成行ヲ縷述シテ居中周旋ヲ懇囑セシニ数日後楊ヨリシテ既ニ委曲梁總長ニ内囑セリトノ回答ヲ得候然ルニ其後支那側ヨリハ何等ノ消息ニ接セサリシヲ以テ去十五日書面ヲ梁總長ニ送り之ヲ督促スル所アリシニ十七日ニ至リ同部次長葉恭綽ヨリ実相寺支配人ノ來訪ヲ求メ來リ同人ハ直ニ同次長ヲ往訪セシ処彼ハ滿蒙鐵道借款契約細目協議ノ開始ハ總長ノ交迭等ノ事情アリシカ爲メ大ニ延引セシカ今回蔡序東(京張京綏鐵路管理局副局長交通部路政局外)餘人鳳(津浦鐵路局長交通技正直隸天津)ノ兩名ヲ右交渉委員ニ任命スルコトトナレリ兩人トモ日本語ニ通セサルモ英語ニハ熟達シ居レハ交渉上何等ノ不便ナカルヘシト思ハル但蔡氏ハ一ケ月ノ賜暇ニテ目下上海地方へ旅行中ナルモ不遠帰京スヘキニ付其上ニテ協議ニ着手セシムヘシ交通部事務ノ都合上自分カ其局ニ當リ得サルハ遺憾トスル所ナルモ兩人トモ自分

八一

トハ別懇ノ間柄ニテ今回ノ任命ニ就テハ大ニ満足ニ感シ居
レリト縷述セシ由同支配人帰京ノ上報告致候然ルニ右委員
ノ地位ハ前記ノ通りニシテ本件ノ如キ重大事件ニ関スル交
渉委員トシテハ地位低キニ過キテ交渉ノ進行ヲ遅延ナラシ
ムル虞アルノミナラス一面本借款契約ハ日本文ヲ以テ正本
トナス關係上是非トモ委員中ノ一名ハ日本語ヲ解スルモノ
ヲ任命セシムル必要アリト認メ帝國代理公使ト相談ノ上翌
十八日同支配人ヲ葉次長ノ許ニ派シテ交渉委員二名任命ノ
次第ハ委曲之ヲ領セシモ（第一）日本側ヨリ提出ノ借款契
約細目案ハ支那側ニ於テ其大綱ヲ承認シ今回ノ交渉ハ単ニ
字句ノ修正ヲナスニ止マルモノナリヤ（第二）今回任命ノ
兩委員ハ何レモ地位低ク且日本語ヲ解セストノコトナルカ
斯クテハ交渉上徒ラニ事ヲ遷延シ不便少シトセサトノ意
ヲ質問的ニ開陳セシメタルニ葉次長ハ第一問ニ對シ支那側
ニ於テハ細目案ノ字句ヲ修正ヲナスト同時ニ別ニ多少商議
ヲ欲スルコトアリト答ヘ第二問ニ對シテハ鐵道借款契約ノ
交渉ニ委員ヲ任命スルコトハ今回ヲ以テ嚆矢トナスニアラ
ス米國「ポーリング」商會ノ懸案ニ關シテモ亦委員ヲ任命
シテ目下交渉セシメツ、アリ又今回任命ノ兩委員ハ嘗テ山

同總長ニ對シ別紙寫第二号書面ノ通り右兩委員ノ外別ニ日
文ニ通スル委員一名増派方及請求置候右梁總長來書中ニモ
記載ノ通り委員ノ一人蔡序東ハ目下上海ニ於テ養病中ナリ
トノコトナレハ本件ニ關スル商議ノ開始ハ早クモ来月中旬
以後ナルヘシト想像被致候御報告旁此段申進候敬具

（附屬書二）

別紙寫第一號

七月二十一日附梁交通總長ヨリ小田切正金取

締役宛來翰

滿蒙鐵道細目協定ニ關スル中國交渉員通知ノ

件

小田切先生閣下頃奉

臺鐵具承種切所有鐵路借款合同會議一事經已派定蔡序東
俞人鳳兩員接洽惟蔡序東現適患病轉地療養一俟病痊即當
訂期奉達
臺端進行一切專此奉復即頌

時綏

梁敦彥 七月二十一日

（附屬書三）

別紙寫第二號

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三一

東鐵道問題ニ關シ独支間交渉ノ任ニ當リタル經驗アレハ商
議上便利多カルヘシト思ハル、為彼等ヲ任命セシモノニシ
テ今回ノ交渉ニ關シ特ニ地位ノ低キ者ヲ派シタル次第ニア
ラサレハ此意ヲ領セラレタシ從來自分自ラ交渉委員トナリ
タルコトアルモノハ當時兼任ノ路政局長トシテ之ニ關係セ
シモノニシテ今日次長トシテ自ラ其衝ニ當ルコトヲ申出ツ
ル能ハサル事情アリ右兩委員ハ前述ノ通り充分ノ經驗ヲ有
シ且自分トハ親密ノ間柄ナレハ此任命ハ自分ニ於テ満足シ
居ル所ナリ唯委員中ニ日本語ヲ解スルモノナキコトハ自分
ニ於テモ氣付カサルニアラサリシモ兩人トモ英語ヲ解シ小
田切氏モ亦英支兩語ヲ以テ應對シ得ヘケレハ何等不便ナカ
ルヘシト思惟シ其儘ニ附シタル次第ナルカ若シ此点ニ關シ
テ小田切氏ノ希望アルトキハ總長又ハ自分宛私信ヲ以テ申
出ラル、場合ニハ十分考慮ヲ加フヘシト答ヘタル由ニ有之
候

前記葉次長ノ談話ニ拠リ委員任命ノ事情モ判然セシニ付梁
總長ヨリノ通知書ノ來ルヲ俟チ相當ノ処置ヲ取ルコトニ代
理公使ト打合置候処去廿二日ニ至リ梁總長ヨリ別紙寫第一
号書面ヲ以テ前記兩委員任命ノ件通知ニ接シタルニ付本日

七月二十五日附小田切正金取締役ヨリ梁交通

總長宛返翰

滿蒙鐵道細目協定ニ關スル交渉ノ爲日文通曉

者一名増派方請求ノ件

梁總長閣下鈞鑒逕啓者頃奉

來函内開所有鐵路借款合同會議一事經已派定蔡序東俞人
鳳兩員接洽惟蔡序東現適患病轉地療養一俟病痊即當訂期
奉達進行一切等語拜悉一是茲蒙

允准所請已派蔡俞兩君將所有鐵路借款合同會議各件訂期
接洽尤所歡迎殊爲感激惟此次借款合同須用中日兩文訂定
如蔡君或俞君通曉日文則可否則於磋商條款進行一切似乎
稍有不便尙望

臺端格外通融另派通曉日文者一員以便商議無任盼禱之至
再者此次所請爲圓滿進行議事起見對於蔡俞二君並無別意
恐有誤會特爲聲明肅此佈達敬請
鈞安

小田切萬壽之助

七月二十五日

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三二

三二 八月三日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

葉交通次長ノ滿蒙鐵道借款細目交渉当事者ヲ

ラザル事情内探ノ件

機密第三三四号

(大正三年八月十一日接受)

大正三年八月三日

在支那

臨時代理公使 小幡 西 吉

外務大臣男爵 加藤高明殿

滿蒙鐵道借款契約細目取極ニ関スル件

滿蒙鐵道借款契約商訂ニ関シ已ニ委員三名ヲ任命シ交通部ヨリ夫々通知ニ接シ候趣ハ過般已ニ及御報告置候処右往信ト行違ヒニ現交通次長葉恭綽カ事務繁多ノ故ヲ以テ自カラ本件交渉ノ衝ニ当ルヲ避ケタルハ裏面ニ何等カ事情アルニ非サト思ハル、趣ヲ以テ内探ノ上何分ノ義回報可致旨七月二十三日付政機密送第二二三号ヲ以テ御来示ノ段正ニ敬承致候

梁士詒勢力失墜ノ結果自然葉等所謂交通系ニ属スル一派者流ノ近來漸次交通部ヲ逐ハレ他ニ転動転任ヲ余儀ナクセラ

ト信セラレ候ノミナラス葉カ蔡、餘兩人ヲ自己ノ最モ信任スル人物ナリトシテ一再ナラス之ヲ実相寺ニ明言セルハ暗ニ必要ナル機会ニ兩人ニ対シ間接ニ其勢力ヲ及ホシ得ヘキコトヲ諷示シタルモノト被察候
右貴答旁及申報候也

三三 八月四日 閣議決定

滿蒙鐵道借款細目協定成立後着手スベキ鐵道

敷設線及機材購買取扱者ニ関スル件

客年十月五日取極ノ滿蒙鐵道借款大綱ニ基キ目下横浜正金銀行ヲ当事者トシテ支那政府トノ間ニ本件借款細目商議中ノ処同大綱ニ依リ敷設セラルヘキ線路ハ(一)四平街・鄭家屯・洮南府間(約百九十哩敷設費約一千〇二十余万円)(二)開原・海竜間(約百十五哩敷設費九百三十余万円)(三)長春・洮南府間(約百七十八哩敷設費約一千〇六十余万円)ノ三線ニシテ総計距離約四百八十三哩敷設費約金三千万円ノ予定ナルガ客年十二月十二日閣議決定ノ通り愈前記細目ニ関スル協議成立ノ上ハ我方ニ於テハ先ヅ右三線ノ内最モ容易ニシテ且有利ナル四平街・鄭家屯間(約五十三哩半敷

一 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 三三 三四

レツ、アル次第ハ曾テ内報ニ及ヒ置タル次第ニ有之候処今ヤ葉ハ僅カニ其隻影ヲ交通部ニ留メツ、殘塁ノ一角ヲ孤守シ居ル有様ニシテ部内ニ於ケル其勢力ノ痛ク失墜セルハ争フヘカラサル事実ト信セラレ隨テ葉ノ立場トシテ目下万事ニ控目ニ行動シツ、アル際進ンテ借款協定委員タルコトノ不得策ナルヲ感シタルヘキハ勿論七月十八日葉カ実相寺ニ対シ彼カ曩ニ外國トノ借款契約商訂委員タリシハ次長タル資格ニ於テ参加セシニ非ス路政局長タル資格ニヨリ委員タリシ次第ニテ次長ニ昇任セル今日自カラ進ンテ此任ニ当ラントスルコトハ日本ト何等カノ關係アルモノ、如ク外間ヲシテ憶測セシムルナキヲ保セス旁委員タルハ双方ノ為メ不利益ナリト内話セル次第ハ實際ノ内情ヲ吐露シテ余蘊ナキモノト被存候之ヲ要スルニ葉カ今回委員ノ任ニ当ラサリシ正面ノ理由ハ次長ニ昇任シ事務繁多トナリタルニ在ルヘキハ勿論ナルモ前述ノ如ク自己勢力ノ失墜セル際物議ヲ惹キ易キ地位ニ就クヲ避ケタルト昨今彼ノ動作シツ、アル控目主義ヨリセル結果ニ外ナラスト被察候兎ニ角葉昨今ノ地位ニ顧ミ当面ニ引出シテ委員タラシムルハ双方ノ不利益ト被存候ニ付此際我ニ於テハ間接ニ彼ヲ利用スルコト寧ロ有利

設費一哩約六万円ノ割合ニテ約三百万円)ニ着手スルコトト致度意嚮ナリ然ルニ滿蒙鐵道借款細目契約案第十八条第一項ニハ正金銀行ハ本鐵道建造中外國ヨリ輸入スヘキ材料機械其ノ他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定シ得ルコト、相成居レルニ付右諸物件ノ購買其ノ他右細目契約ニ準拠シテ行ハルヘキ諸般工事ニ関スル件ハ地理上、業務ノ性質上等ヨリ最適当ト認メラル、南滿鐵道会社ヲシテ主トシテ之ニ当ラシムルコト、致度
右請決定

註 右文書ノ冒頭余白ニ左ノ記入アリ
「大正三年八月四日閣議決定」

三四 十二月十八日

加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

時局ニ鑑ミ滿蒙鐵道借款細目交渉中止ノ件

政機密送第四〇二号

滿蒙鐵道借款細目契約ノ交渉ニ関スル件

横浜正金銀行ニ於テハ近々小田切取締役ヲ再ヒ北京へ派遣スルニ付滿蒙鐵道借款細目ノ交渉ニ関シ別紙甲号寫之通り伺出候処元來帝國政府ニ於テハ本公債ノ一部分ニ対シテハ

一時國庫金ヲ流用スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキモ結局外國市場ヘ売出サシムル計畫ナリシニ時局ノ為右計畫ハ当分ノ間実行困難トナリタルニ付今後北京ニ於テ交渉繼續ノ上正式ニ調印ノ運ヒトナルモ差当リ之ヲ遂行スヘキ見込立タズ殊ニ欧米ノ支那借款交渉モ立消エ又ハ実行中止ノ状況ナレハ旁本件交渉ハ当分懸案ノ儘トシテ中止スルノ外無之尤モ支那政府ニ於テハ既ニ交渉委員ヲ任命シタル今日時局發生ノ口実ヲ以テスルモ右交渉ノ無期限中止ハ不体裁ナレハ兎ニ角交渉ヲ繼續シ調印後同契約第二十四条ニ依リ当分契約ノ履行ヲ延期スルコト、スルモ一策ナルニ似タルモ同条ニハ本契約調印後公債募集目論見書發行前事變發生云々ト

アルニ付契約調印前ニ發生セル今日ノ時局ヲ以テ同条ニ依リ延期ノ理由トナスヲ得サルノミナラス仮リニ同条ヲ時局ヲ利用シ得ル様修正スルトスルモ目下世界經濟界ニ重大ナル變化ヲ生シタル為従前假定シタル利率其他ノ条件ハ大ニ改正ヲ要スルコト、ナリ原案ノ儘交渉ヲ進行スルハ我國ニ取リ頗ル不利益ナルヲ以テ結局本件ハ当分懸案トシテ交渉ヲ中止スヘキ旨別紙乙号写ノ通大藏省ヨリ正金銀行ヘ回答方取計フ筈ニ有之候間右様御承知相成度此段申進候也

註 別紙甲・乙両号省略

事項二 奉天省借款交渉ニ関スル件

三五 一月一日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省ニ於ケル小借款ヲ大借款ニ切換ノ計畫

ニ関スル熊財政總長講話ニ付山座公使ヨリ稟

請ノ件

附記 大正二年十一月三十日附落合總領事ヨリ牧野外務大臣宛機密公第二七五号

奉天省外債ニ関スル件

第壹号

十二月三十一日北京發奉天宛第八一号

第一一五六号(外務大臣宛)

十二月二十七日熊希齡ニ面会ノ際熊ハ奉天民政長目下上京中ナルカ彼ハ赴任以來銳意財政ヲ整理シタル結果収支相償フニ至リタルモ從來小借款多ク処分ニ困難ナルニ付此際之ヲ一括シテ大借款ニ切換ヘタク尚他國資本家中之ニ応スルモノモアル由報告セルニ付自分ハ這般ノ借款ハ先ツ日本國ニ議ルヘシト申聞ケ置キタリトノコトニ付本使ハ勿論ノコトニシテ若シ日本ニ議ラスシテ他ヨリ借入ル、カ如キコト

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 三五

アラハ必ス非常ノ面倒ヲ惹起スヘキニ付委細ノ事情ヲ打明

ケ横浜正金銀行ニ相談セラルヘシト述ヘタルニ熊ハ爾カク

取計ハスヘキカ其節日本側ヨリ苛酷ノ条件ヲ提出スル如キ

コトナキ様予メ希望スト言ヒ居リタリ

奉天ヨリノ報告ニ依レハ財政司長モ上京スル由ニ付遠カラ

ス我ニ対シ借款談ヲ持出スコトナルヘク右ノ趣横浜正金銀

行ヘモ御伝ノ上十二月二十三日附機密第三六七号貴信落合

意見末段ノ如ク予メ条件等御詮議置相成タシ

註 大正二年十二月二十三日牧野外務大臣ヨリ山座公使宛機密

第三六七号トハ落合總領事來信機密公第二七五号ノ写(左

掲ノ附記)ノ送付状ナリ

(附記)

機密公第二七五号

(大正二年十二月五日接受)

大正二年十一月三十日

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

奉天省外債ニ関スル件